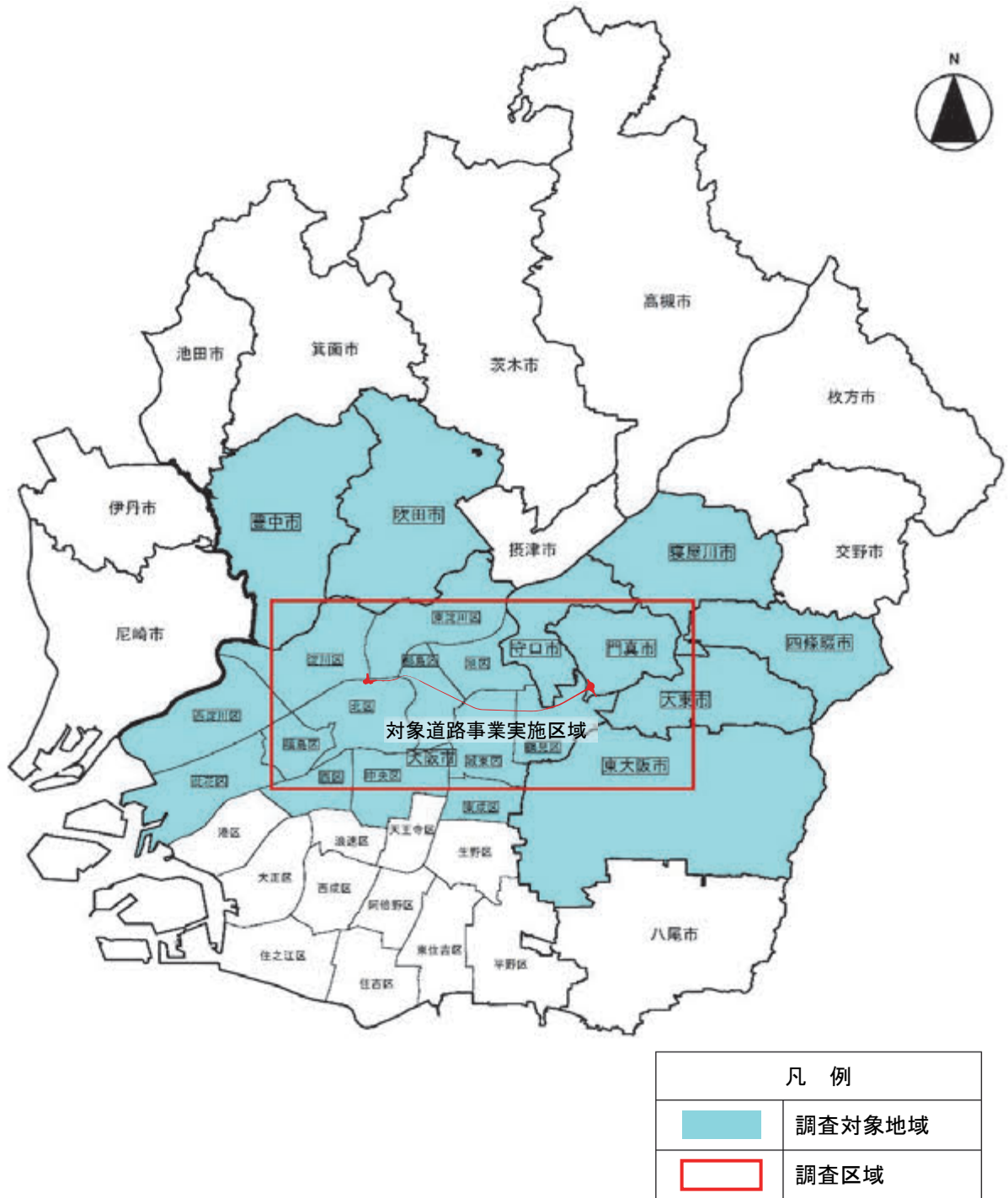


第4章 都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況

「調査区域」は対象道路事業実施区域を含む下図に示す範囲とし、「調査対象地域」はその調査区域に属する市及び区とします。

原則として、対象道路事業に係る地域特性の把握は「調査区域」で行い、統計等の行政単位による文献調査の場合は「調査対象地域」で行いました。



第1節 自然的状況

対象道路事業実施区域及びその周囲の自然的状況を既存文献等によりとりまとめました。調査結果の概要は次表に示すとおりです。

項目	対象道路事業実施区域及びその周囲の概況
気象の状況	大阪管区気象台における平成22年から平成26年の5ヶ年の平均気温は16.9℃、最高気温は38.4℃、最低気温は-2.9℃です。また平均年間降水量は1479.7mm、平均風速は2.5m/sです。 調査区域の大阪管区気象台及び大気汚染常時監視測定局における平成25年度の風速の年平均値は1.3m/s～2.6m/sです。
大気質の状況	調査区域の大気汚染常時監視測定局（一般環境大気測定局12局、自動車排出ガス測定局6局）における平成25年度の測定結果は、二酸化窒素（NO ₂ ）、二酸化硫黄（SO ₂ ）、一酸化炭素（CO）は測定されたすべての測定局で環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質（SPM）は17局中1局で短期的評価が環境基準を達成していません。微小粒子状物質（PM _{2.5} ）は測定された7局で環境基準を超過しています。
騒音の状況	調査区域において調査された道路交通騒音は、58地点のうち、昼間は45地点、夜間は35地点で環境基準を達成しています。また、要請限度を超過している地点は、昼間は存在せず、夜間は3地点です。 また、一般環境騒音の測定結果では、環境基準を達成している測定地点は、32地点のうち昼間27地点、夜間25地点となっています。
振動の状況	調査区域において調査された平成24年度の道路交通振動は、29地点のすべての地点で要請限度を下回っています。
水象の状況	調査区域には、淀川水系の淀川水域、神崎川水域、寝屋川水域及び大阪市内河川水域の河川があります。このうち、対象道路事業実施区域は、古川、城北川及び大川と交差するほか、淀川の一部にかかります。
水質の状況	調査区域において調査された平成25年度の水質測定結果によると、18地点のうち、生活環境項目ではpH及びDOについては2地点で、大腸菌群数については5地点で環境基準を超過しています。なお、pH、BOD及びSSについては、全地点で環境基準を達成しています。健康項目では、すべての地点で環境基準を達成しています。 調査区域において調査された平成25年度の地下水調査結果によると、26地点のうち、11地点で環境基準を超過しています。 また、平成25年度のダイオキシン類調査結果によると、河川は20地点のうち18地点で環境基準を達成しています。さらに地下水は1地点で調査が行われ環境基準を達成しています。
水底の底質の状況	調査区域において調査された平成25年度の水底の底質調査結果によると、4地点すべてにおいて、底質の暫定除去基準を上回る水銀、PCBは検出されていません。また、ダイオキシン類は平成25年度は18地点で調査が行われており、17地点で環境基準を達成しています。
土壌の状況	調査区域は、市街化が進み、淀川河川敷に砂州未熟土壌が分布しており、東側の一部に細粒グライ土壌と灰色低地土壌が分布しています。このうち対象道路事業実施区域には、東端に細粒グライ土壌と灰色低地土壌の地域が存在しています。 調査区域において調査された土壌のダイオキシン類調査結果によると、平成21年度から平成25年度にかけて調査された38地点すべてにおいて環境基準を達成しています。
地盤の状況	調査区域では、20地点で地盤沈下の観測が行われており、大阪市観測の過去5年間、大阪府観測の過去10年間の地盤沈下量については、大きな隆起や沈降が見られず、概ね安定した状態にあります。
地形の状況	調査区域の大部分は、淀川水系により形成された三角州であり、大阪城の周辺に分布する丘陵地と砂礫台地からなる上町台地により、西大阪平野と東大阪平野に分けられます。

項目	対象道路事業実施区域及びその周囲の概況
地質の状況	調査区域の大部分は沖積層の砂と泥（未固結堆積物）からなり、地下には大阪層群が分布しています。また、調査区域には、活断層として上町断層帯が分布しています。
学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質の分布の状況	調査区域には、学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質は分布していません。
動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況	調査区域は、全体的に市街地のような人工的な環境が大部分を占めることを反映し、動物ではスズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが生息し、植物ではクスノキ、ナンキンハゼなどの植栽樹や、アメリカセンダングサ、セイヨウタンポポなどの外来植物が生育しています。 また、淀川では、ヨシ、セイタカヨシ、オギなどの河川に特徴的な植物が生育しており、カルガモやバンなどの鳥類、クロイトトンボ、ヒヌマイトトンボなどの昆虫類等が生息し、ワンドはギンブナ、モツゴ、スジエビ、ミナミヌマエビなどの魚介類の生息場所になっています。
動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況	調査区域においては、重要種として、哺乳類ではハタネズミ及びカヤネズミ 2 種、鳥類ではトモエガモ、コアジサシなどの 54 種、両生類ではナゴヤダルマガエル 1 種、魚類ではヤリタナゴ等 25 種、昆虫類ではヒヌマイトトンボ、エサキアメンボ等の 32 種、クモ類ではワスレナグモ 1 種、底生動物ではタガメ等 46 種が確認されています。なお、爬虫類、陸産貝類については重要種は確認されていません。 また、注目すべき生息地として法令などに指定されたものは存在しませんが、コアジサシの集団繁殖地、淀川のワンド群等が確認されています。
植物の重要な種及び植物群落の状況	調査区域においては、重要種として、維管束植物ではドクゼリ、ワンドスゲ等 18 種、藻類ではホソアヤギヌ 1 種が確認されています。 また、「薫蓋クス」など「文化財保護法」等に基づく天然記念物が 8 箇所、「レッドデータブック近畿 2001」の掲載群落が 11 群落あり、上記以外に「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」に示されている巨樹・巨木林が 2 箇所存在しています。
植生の状況	調査区域は、大半が市街地で植生のない範囲が広がっています。市街地の中で樹林が見られるのは、クスノキ、サクラ類などの植栽樹によって構成される大阪城公園、鶴見緑地、旧淀川（大川）沿いなどです。 また、淀川の河川敷やワンド沿いにヨシクラス、オギ群集などの水辺植生が分布するほか、門真市や東大阪市では、水田雑草群落が市街地や工場地帯の中にパッチ状に分布しています。
生態系の状況	調査区域の自然環境類型区分としては、低地の大半は「低地：市街地」に類型化され、小面積ながら、公園や緑地などの「低地：樹林地」も分布しています。また、淀川には河川敷のヨシクラス、オギ群集などに代表される「河川：草地」、ヤナギ林などの「河川：樹林地」、ワンドを含む「河川：開放水域」などが分布しています。 調査区域の生態系は「都市緑地の生態系」と「河川・水辺の生態系」に区分されます。
景観の状況	調査区域には大阪城天守閣等の展望施設、花博記念公園鶴見緑地等の野外レクリエーション地をはじめとする 90 箇所の眺望点があります。 景観資源としては、調査区域に今米特別緑地保全地区、大川風致地区が存在します。また、眺望点から眺望される可能性がある金剛生駒紀泉国定公園、瀬戸内海国立公園（六甲地域）などの景観資源が存在します。
人と自然との触れ合いの活動の状況	調査区域には淀川河川公園、花博記念公園鶴見緑地、歴史の散歩道（大阪市史跡連絡遊歩道）など 39 箇所の人と自然との触れ合いの活動の場があります。
一般環境中の放射性物質の状況	調査区域では 3 地点で一般環境中の放射性物質の測定が行われており、大気浮遊じん中で検出されず、雨水・ちり中で 0.044 MBq/km ² ・月（ストロンチウム-90）、土壌中で 0.27～0.52 Bq/kg（ストロンチウム-90）、1.3～3.0 Bq/kg（セシウム-137）、水道水などで 1.3～1.4 mBq/L（ストロンチウム-90）です。

1.1 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

1) 気象の状況

調査区域の気候は瀬戸内海式気候であり、大阪管区気象台における気象の概況は、図 4-1-1 及び表 4-1-1 に示すとおりです。気象台の位置は、図 4-1-2 に示すとおりです。

大阪管区気象台における平成 22 年から平成 26 年の 5 ヶ年の平均気温は 16.9℃、最高気温は 38.4℃、最低気温は -2.9℃です。また平均年間降水量は 1479.7mm、平均風速は 2.5m/s です。

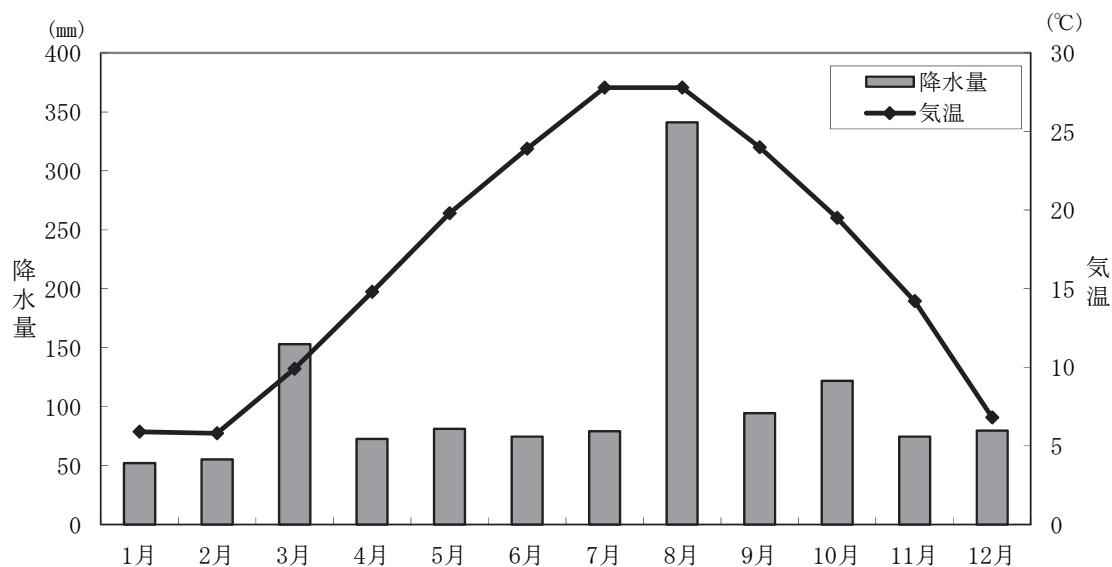


図 4-1-1 気象の概況 (平成 26 年)

表 4-1-1 過去 5 年間の気象概況

項目 年次	気温 (°C)			平均湿度 (%)	降水量 (mm)	日最深積雪 (cm)	平均風速 (m/s)	最多 風向
	平均	最高値	最低値					
平成 22 年	17.3	37.4	-1.3	62	1568.0	—	2.5	西)
平成 23 年	16.9	36.2	-2.7	63	1614.0	5	2.5	西)
平成 24 年	16.6	36.7	-2.9	63	1520.0	—	2.5	北東)
平成 25 年	17.1	38.4	-1.1	60	1418.0	0	2.5	西)
平成 26 年	16.7	37.1	-0.5	64	1278.5	4	2.5	北東)
平均	16.9	—	—	63	1479.7	—	2.5	—

注1) 項目は以下のとおりです。

気温 : 平均気温は、月平均気温の年平均値、最高(低)気温は、観測年における最高(低)値

風速 : 平均風速は、月平均値の年間平均値

降水量 : 降水量の年合計

注2) 5年間の平均は各年平均値(降水量は年間降水量)の平均値

注3) 「)」は準正常値(観測結果にやや疑問があるか、または統計を行う対象資料が許容範囲内で欠けている場合の値をいう)

出典: 気象庁ホームページ

また、調査区域内の気象官署及び大気汚染常時監視測定局における平成25年の風向・風速の年間調査結果は表4-1-2に示すとおりです。調査地点は図4-1-2に示すとおりです。

風向は、大阪管区気象台及び守口保健所局が西、千成局が西北西、野中小学校局／旧淀川区役所局及び聖賢小学校局が西南西、大宮中学校局、第三測定局（錦）局及び門真市南局が北北東、国設大阪局及び門真市役所局が北、大東市役所局が北北西の風が卓越しています。また、風速の年平均値は1.3m/s～2.6m/sです。

表4-1-2 調査区域における風向・風速年間調査結果（平成25年）

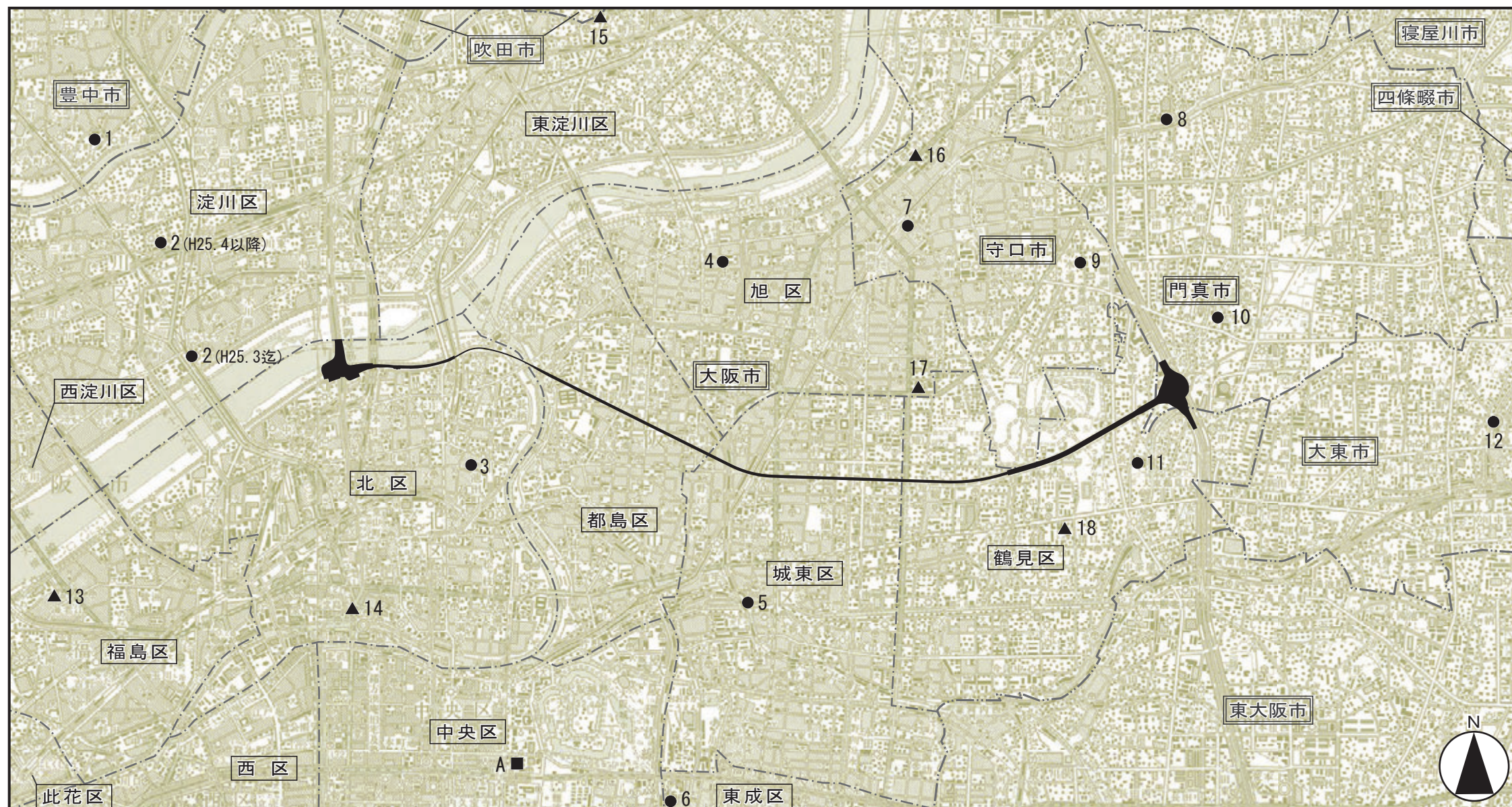
区分	番号	調査地点	最多風向	年平均値(m/s)
気象官署	A	大阪管区気象台	西	2.5
大気汚染常時監視測定局	1	千成	西北西	1.5
	2	野中小学校／旧淀川区役所	西南西	2.0
	4	大宮中学校	北北東	2.2
	5	聖賢小学校	西南西	2.2
	6	国設大阪	北	2.0
	7	守口保健所	西	1.9
	8	門真市役所	北	2.1
	9	第三測定局（錦）	北北東	1.8
	10	門真市南	北北東	1.3
	12	大東市役所	北北西	2.6

注1) 表中の番号は図4-1-2に対応しています。

注2) 番号2の野中小学校は平成25年4月から、旧淀川区役所は平成25年3月まで設置。

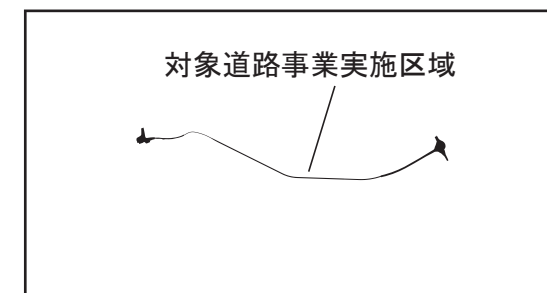
出典：気象庁ホームページ

大阪府 大気汚染常時監視測定データ（大阪府環境農林水産部ホームページ）



凡 例		
記号	番号	名 称
■	A	大阪管区气象台
●	1~12	一般環境大気測定局
▲	13~18	自動車排出ガス測定局

注1) 測定局名は表4-1-2及び表4-1-3参照。
 注2) 図中番号の2(H25.4以降)は野中小学校、2(H25.3迄)は旧淀川区役所を示します。
 出典：気象庁ホームページ
 大阪府 大気汚染常時監視測定データ（大阪府環境農林水産部ホームページ）



図名

図4-1-2 大気質調査地点等位置図

2) 大気質の状況

調査区域における大気質の測定は、前掲の図 4-1-2 に示すとおり、一般環境大気測定局（以下、「一般局」といいます。）12 局、自動車排出ガス測定局（以下、「自排局」といいます。）6 局で実施されています。

各測定局の平成 25 年度測定結果は表 4-1-3(1)～(5)に、過去 5 年間の測定結果の推移は図 4-1-3(1)～(10)に示すとおりです。

(1) 二酸化窒素

平成 25 年度の一般局については、12 局のうち 11 局で測定されており、すべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の年間 98% 値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

平成 25 年度の自排局については、すべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の年間 98% 値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

(2) 浮遊粒子状物質

平成 25 年度の一般局については、12 局で測定されており、長期的評価はすべての測定局で環境基準を達成しています。短期的評価は、1 局で環境基準を達成していません。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

平成 25 年度の自排局については、6 局のうち 5 局で測定されており、長期的評価・短期的評価ともにすべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

(3) 二酸化硫黄

平成 25 年度の一般局については、12 局のうち 9 局で測定されており、長期的評価・短期的評価ともにすべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

平成 25 年度の自排局については、6 局のうち 1 局で測定されており、長期的評価・短期的評価ともにすべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

(4) 一酸化炭素

平成 25 年度の一般局については、12 局のうち 3 局で測定されており、長期的評価・短期的評価ともにすべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

平成 25 年度の自排局については、6 局のうち 1 局で測定されており、長期的評価・短期的評価ともにすべての測定局で環境基準を達成しています。過去 5 年間の年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

(5) 微小粒子状物質

平成 25 年度の一般局については、12 局のうち 6 局で測定されており、長期的評価はすべての測定局で環境基準を達成していません（うち 1 局は評価対象外）。過去 1～5 年間の年平均値及び日平均値の年間 98% 値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

平成 25 年度の自排局については、6 局のうち 2 局で測定されており、長期的評価はすべての測定局で環境基準を達成していません。過去 3 年間の年平均値及び日平均値の年間 98% 値の推移は、概ね横ばい傾向を示しています。

表 4-1-3(1) 平成 25 年度大気質測定結果(二酸化窒素)

区分	番号	測定局名	市区名	二酸化窒素 NO ₂		
				年平均値 (ppm)	日平均値 の年間 98%値 (ppm)	環境基準 達成状況
一般環境 大気測定局	1	千成	豊中市	0.017	0.037	○
	2	野中小学校	大阪市淀川区	0.018	0.039	○
	3	菅北小学校	大阪市北区	0.020	0.043	○
	4	大宮中学校	大阪市旭区	0.019	0.041	○
	5	聖賢小学校	大阪市城東区	0.018	0.040	○
	6	国設大阪	大阪市東成区	0.021	0.046	○
	7	守口保健所	守口市	0.017	0.038	○
	8	門真市役所	門真市	0.017	0.040	○
	9	第三測定局(錦)	守口市	0.017	0.041	○
	10	門真市南	門真市	0.017	0.037	○
	11	茨田北小学校	大阪市鶴見区	—	—	—
	12	大東市役所	大東市	0.013	0.030	○
自動車 排出ガス 測定局	13	海老江西小学校	大阪市福島区	0.025	0.049	○
	14	梅田新道	大阪市北区	0.027	0.048	○
	15	上新庄交差点	大阪市東淀川区	0.025	0.046	○
	16	淀川工科高校	守口市	0.025	0.047	○
	17	新森小路小学校	大阪市旭区	0.027	0.050	○
	18	茨田中学校	大阪市鶴見区	0.027	0.048	○
環境基準				1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。		

注1) 環境基準達成の評価は次のとおりです。

長期的評価：1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から98%にあたる値(日平均値の年間98%値)を環境基準と比較して評価します。

○：環境基準を達成 ×：環境基準を非達成 —：評価対象外

注2) 「-」は、当該物質が測定されていないことを示します。

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果(平成26年9月、大阪府)

表 4-1-3(2) 平成 25 年度大気質測定結果(浮遊粒子状物質)

区分	番号	測定局名	浮遊粒子状物質 SPM								
			年平均値 (mg/m ³)	長期的評価			短期的評価				
				日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 が2日以上 連続したこ との有無	日平均値 の2%除 外値 (mg/m ³)	環境 基準 達成 状況	1時間値が 0.20mg/m ³ を超 えた時間数とそ の割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超 えた日数とその 割合		環境 基準 達成 状況
(時間)	(%)	(日)	(%)								
一般環境大気測定局	1	千成	0.034	無	0.072	○	0	0.0	0	0.0	○
	2	野中小学校	0.020	無	0.058	○	0	0.0	0	0.0	○
	3	菅北小学校	0.024	無	0.059	○	0	0.0	0	0.0	○
	4	大宮中学校	0.022	無	0.063	○	0	0.0	0	0.0	○
	5	聖賢小学校	0.019	無	0.055	○	0	0.0	0	0.0	○
	6	国設大阪	0.022	無	0.054	○	0	0.0	0	0.0	○
	7	守口保健所	0.020	無	0.059	○	0	0.0	0	0.0	○
	8	門真市役所	0.020	無	0.049	○	0	0.0	0	0.0	○
	9	第三測定局(錦)	0.022	無	0.059	○	0	0.0	0	0.0	○
	10	門真市南	0.021	無	0.059	○	0	0.0	0	0.0	○
	11	茨田北小学校	0.028	無	0.069	○	0	0.0	0	0.0	○
	12	大東市役所	0.023	無	0.059	○	0	0.0	0	0.0	○
自動車排出ガス測定局	13	海老江西小学校	0.024	無	0.065	○	1	0.0	0	0.0	×
	14	梅田新道	0.026	無	0.065	○	0	0.0	0	0.0	○
	15	上新庄交差点	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16	淀川工科高校	0.020	無	0.051	○	0	0.0	0	0.0	○
	17	新森小路小学校	0.026	無	0.056	○	0	0.0	0	0.0	○
	18	茨田中学校	0.021	無	0.059	○	0	0.0	0	0.0	○
環境基準			1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。								

注1) 環境基準達成の評価は次のとおりです。

ア、長期的評価：1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値(日平均値の2%除外値)を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合には非達成とします。

イ、短期的評価：測定を行った日についての1時間値の1日平均値若しくは各1時間値を環境基準と比較して評価します。

○：環境基準を達成 ×：環境基準を非達成 —：評価対象外

注2) 「-」は、当該物質が測定されていないことを示します。

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果(平成26年9月、大阪府)

表 4-1-3 (3) 平成 25 年度大気質測定結果(二酸化硫黄)

区分	番号	測定局名	二酸化硫黄 SO ₂								
			年平均値 (ppm)	長期的評価			短期的評価				
				日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	日平均値の 2% 除外値 (ppm)	環境基準達成状況	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		環境基準達成状況
					(時間)	(%)	(日)	(%)			
一般環境大気測定局	1	千成	0.004	無	0.009	○	0	0.0	0	0.0	○
	2	野中小学校	0.004	無	0.008	○	0	0.0	0	0.0	○
	3	菅北小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	大宮中学校	0.004	無	0.008	○	0	0.0	0	0.0	○
	5	聖賢小学校	0.004	無	0.009	○	0	0.0	0	0.0	○
	6	国設大阪	0.002	無	0.005	○	0	0.0	0	0.0	○
	7	守口保健所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	門真市役所	0.005	無	0.009	○	0	0.0	0	0.0	○
	9	第三測定局(錦)	0.004	無	0.008	○	0	0.0	0	0.0	○
	10	門真市南	0.006	無	0.010	○	0	0.0	0	0.0	○
	11	茨田北小学校	0.005	無	0.010	○	0	0.0	0	0.0	○
	12	大東市役所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自動車排出ガス測定局	13	海老江西小学校	0.004	無	0.010	○	0	0.0	0	0.0	○
	14	梅田新道	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15	上新庄交差点	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16	淀川工科高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17	新森小路小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18	茨田中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。								

注1) 環境基準達成の評価は次のとおりです。

ア、長期的評価：1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値（日平均値の2%除外値）を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合には非達成とします。

イ、短期的評価：測定を行った日についての1時間値の1日平均値若しくは各1時間値を環境基準と比較して評価します。

○：環境基準を達成 ×：環境基準を非達成 —：評価対象外

注2) 「-」は、当該物質が測定されていないことを示します。

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果（平成26年9月、大阪府）

表 4-1-3(4) 平成 25 年度大気質測定結果(一酸化炭素)

区分	番号	測定局名	一酸化炭素 CO								
			年平均値 (ppm)	長期的評価			短期的評価				環境基準 達成 状況
				日平均値 が 10ppm を超えた 日が 2 日 以上連続 したことの 有無	日平均値 の 2% 除外値 (ppm)	環境 基準 達成 状況	8 時間平均値が 20ppm を超えた 回数とその割合		日平均値が 10ppm を超えた 日数とその割合		
(回)	(%)	(日)	(%)								
一般環境 大気測定局	1	千成	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	野中小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	菅北小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	大宮中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	聖賢小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	国設大阪	0.3	無	0.7	○	0	0.0	0	0.0	○
	7	守口保健所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	門真市役所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	第三測定局(錦)	0.3	無	0.5	○	0	0.0	0	0.0	○
	10	門真市南	0.4	無	0.7	○	0	0.0	0	0.0	○
	11	茨田北小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12	大東市役所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自動車 排出ガス 測定局	13	海老江西小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14	梅田新道	0.5	無	0.9	○	0	0.0	0	0.0	○
	15	上新庄交差点	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16	淀川工科高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17	新森小路小学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18	茨田中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。								

注1) 環境基準達成の評価は次のとおりです。

ア、長期的評価：1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値(日平均値の2%除外値)を環境基準と比較して評価します。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合には非達成とします。

イ、短期的評価：測定を行った日についての1時間値の1日平均値若しくは8時間平均値を環境基準と比較して評価します。

○：環境基準を達成 ×：環境基準を非達成 —：評価対象外

注2) 「-」は、当該物質が測定されていないことを示します。

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果(平成26年9月、大阪府)

表 4-1-3(5) 平成 25 年度大気質測定結果(微小粒子状物質)

区分	番号	測定局名	微小粒子状物質 PM2.5				
			年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	長期 基準 達成 状況	日平均値の 年間 98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	短期 基準 達成 状況	環境基準 達成状況
一般環境大気測定局	1	千成	16.3	×	39.8	×	×
	2	野中小学校	16.2	×	39.0	×	×
	3	菅北小学校	15.6	×	39.9	×	×
	4	大宮中学校	—	—	—	—	—
	5	聖賢小学校	17.9	×	43.1	×	×
	6	国設大阪	19.2	—	46.1	—	—
	7	守口保健所	—	—	—	—	—
	8	門真市役所	—	—	—	—	—
	9	第三測定局(錦)	—	—	—	—	—
	10	門真市南	—	—	—	—	—
	11	茨田北小学校	—	—	—	—	—
	12	大東市役所	14.8	○	36.8	×	×
自動車排出ガス測定局	13	海老江西小学校	—	—	—	—	—
	14	梅田新道	—	—	—	—	—
	15	上新庄交差点	—	—	—	—	—
	16	淀川工科高校	16.8	×	41.0	×	×
	17	新森小路小学校	19.7	×	47.1	×	×
	18	茨田中学校	—	—	—	—	—
環境基準			1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下(長期基準)であり、かつ、1時間値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下(短期基準)であること。				

注1) 環境基準達成の評価は次のとおりです。

長期的評価：1日平均値については、年間の1日平均値のうち低い方から98%に相当する値を環境基準(1日平均値)と比較して評価を行う。1年平均値(長期基準)及び1日平均値(短期基準)の両方を達成した場合に、環境基準を達成したものとする。

○：環境基準を達成 ×：環境基準を非達成 —：評価対象外

注2) 「-」は、当該物質が測定されていないことを示します。

注3) 6：国設大阪局は測定方法が環境省の認定基準を満たさず参考値として掲載しています。

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果(平成26年9月、大阪府)

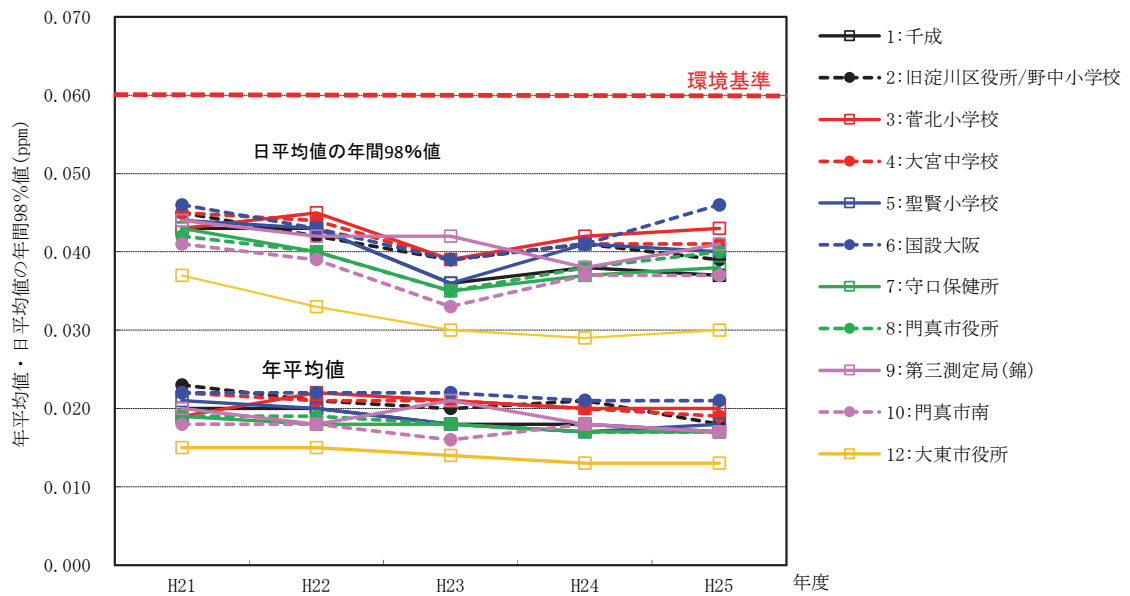


図 4-1-3(1) 二酸化窒素濃度の経年変化（一般局）

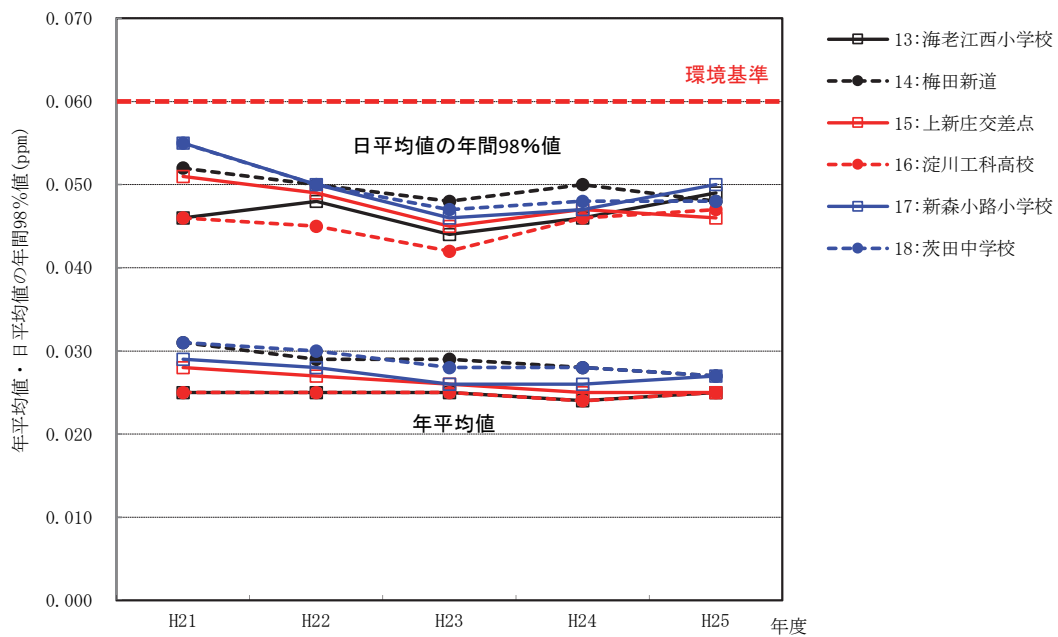


図 4-1-3(2) 二酸化窒素濃度の経年変化（自排局）

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果（平成26年9月、大阪府）

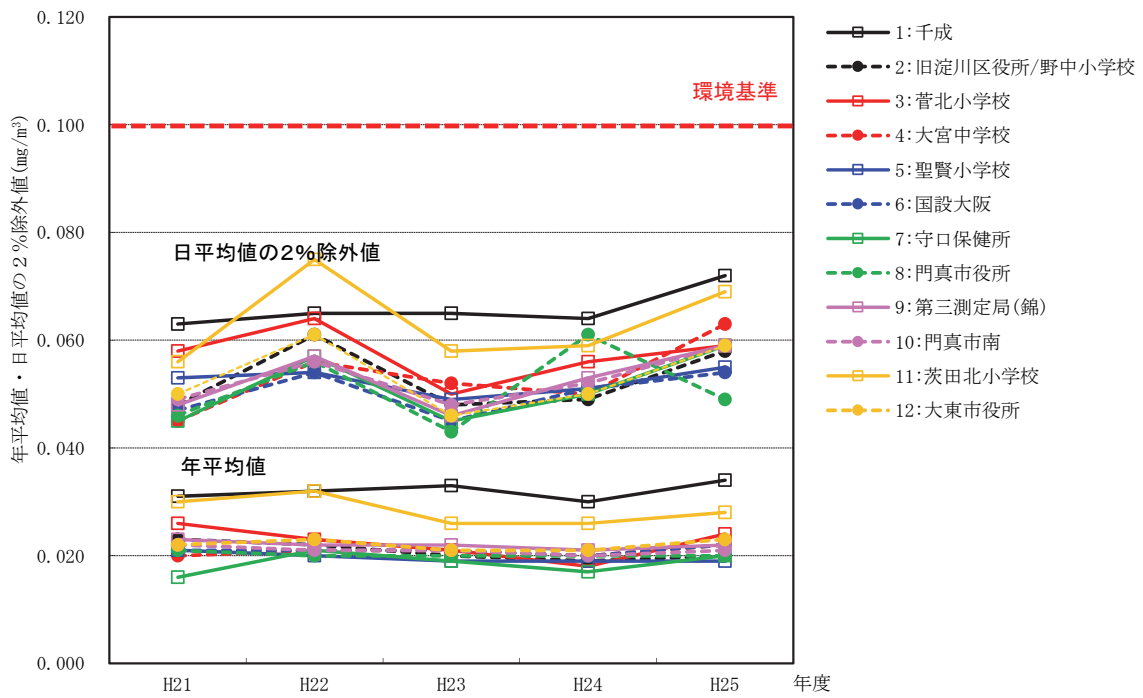


図 4-1-3 (3) 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (一般局)

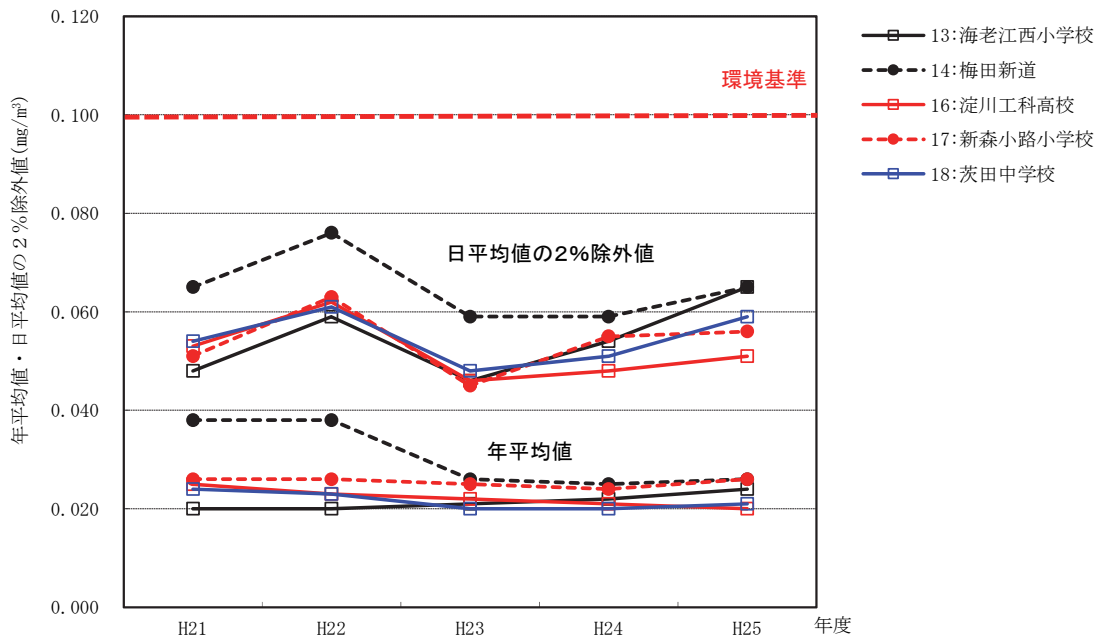


図 4-1-3 (4) 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (自排局)

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果 (平成26年9月、大阪府)

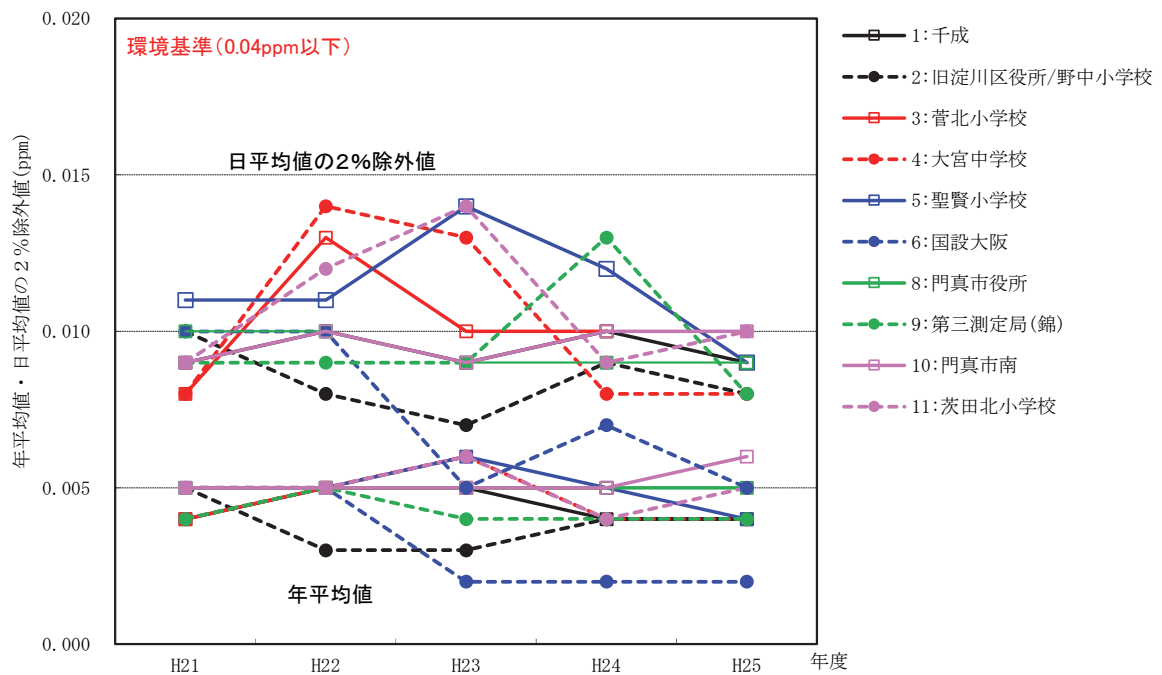


図 4-1-3(5) 二酸化硫黄濃度の経年変化（一般局）

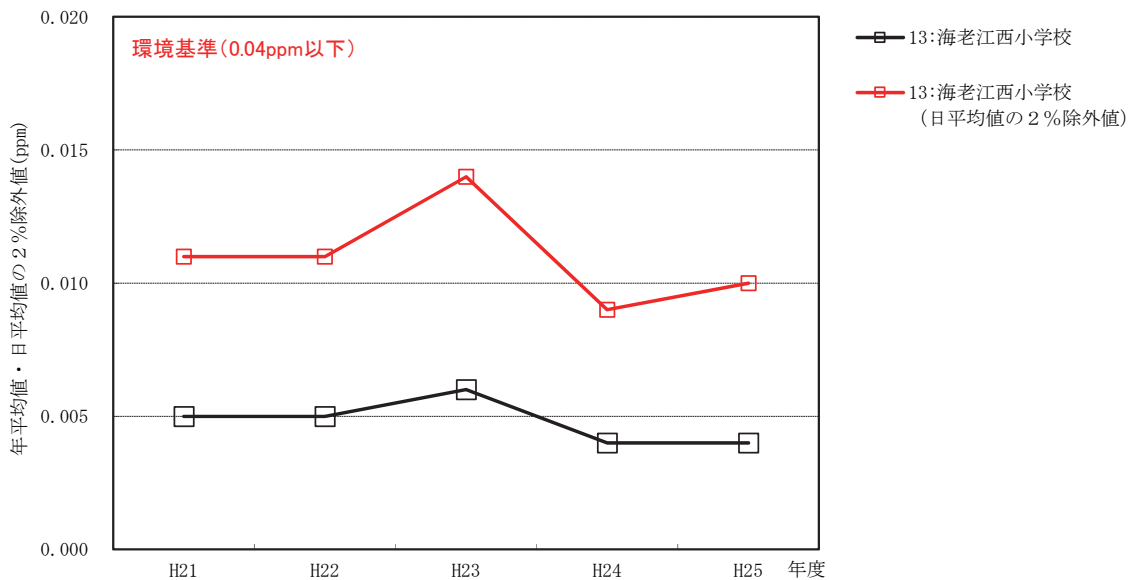


図 4-1-3(6) 二酸化硫黄濃度の経年変化（自排局）

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果（平成26年9月、大阪府）

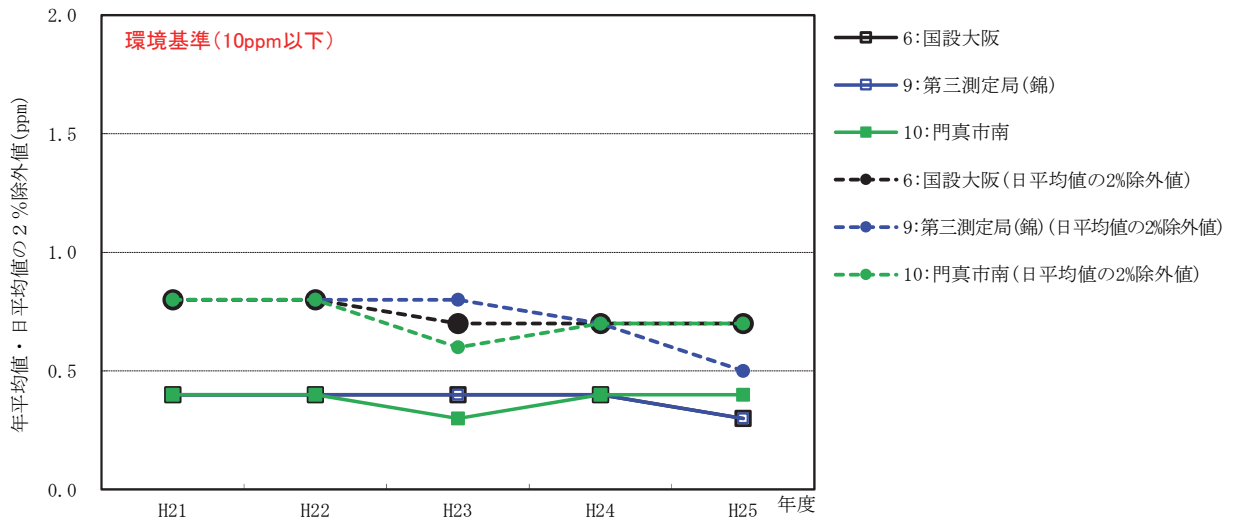


図 4-1-3(7) 一酸化炭素濃度の経年変化 (一般局)

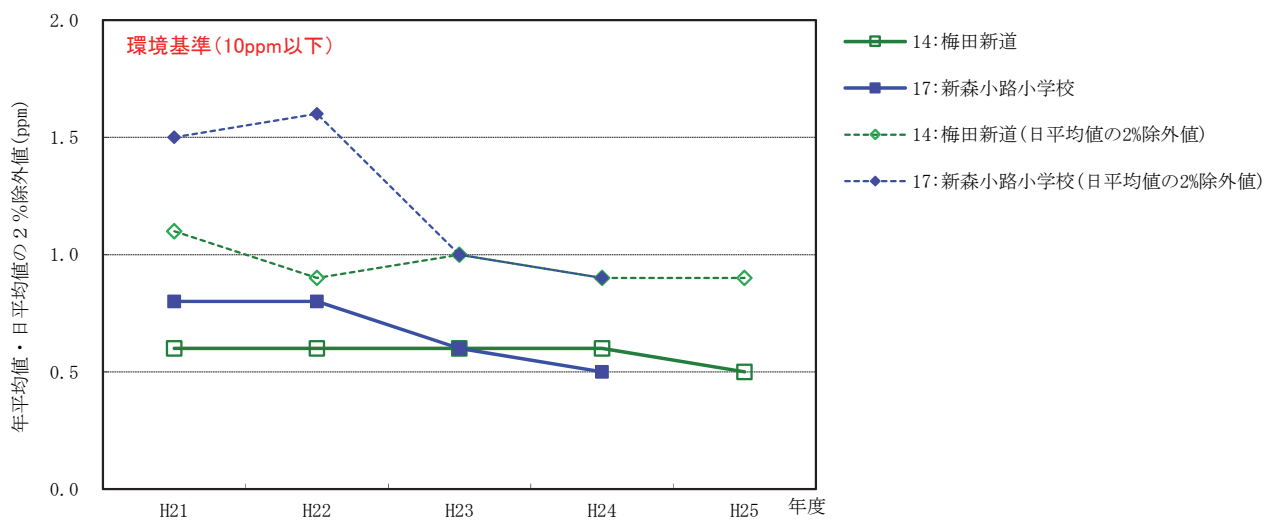
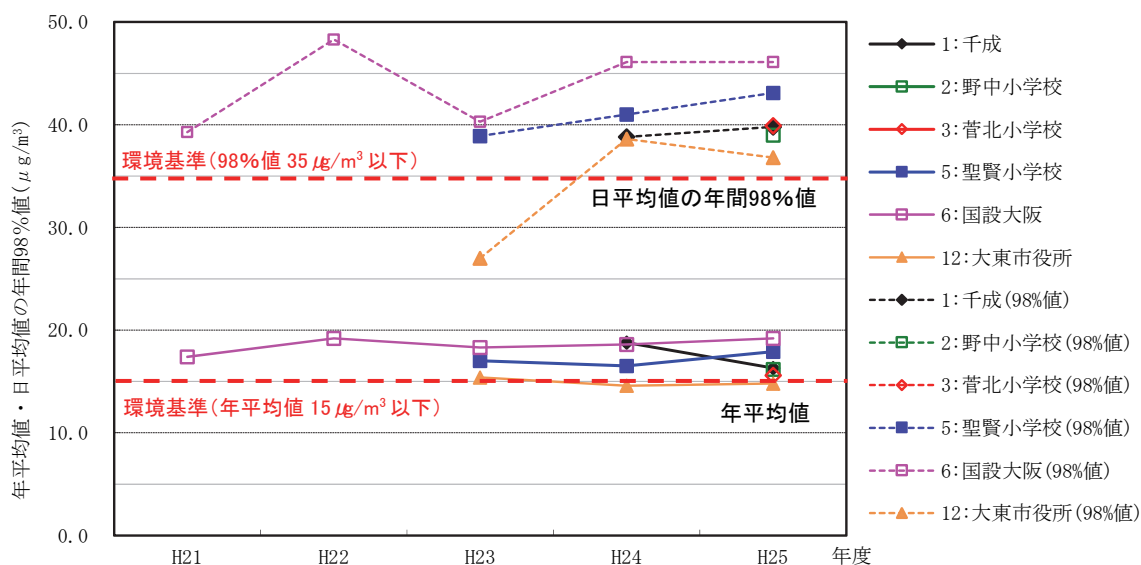


図 4-1-3(8) 一酸化炭素濃度の経年変化 (自排局)

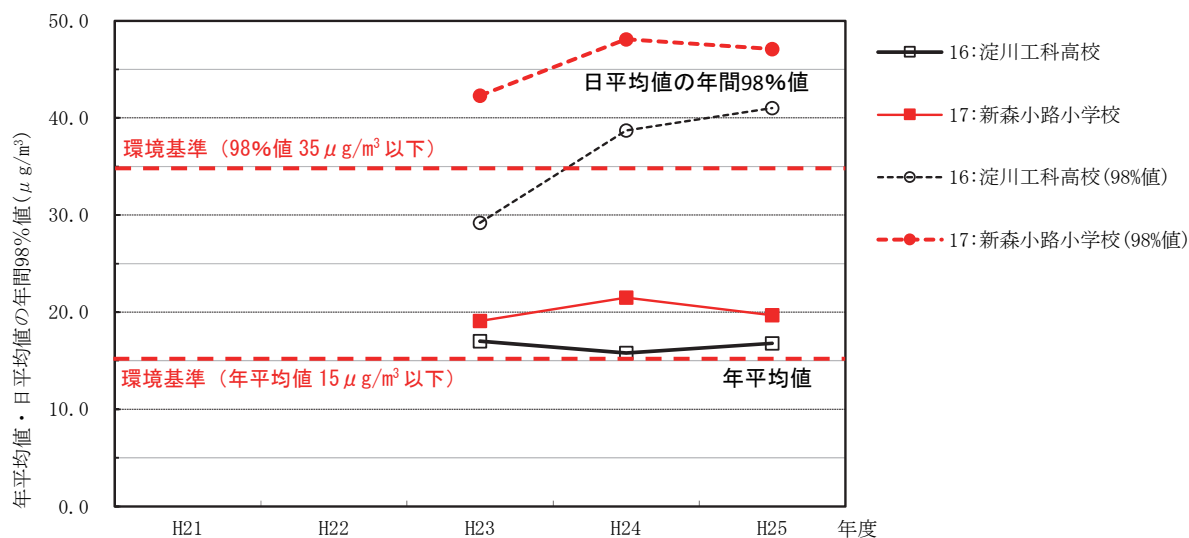
注) 17: 新森小路小学校局は平成24年度までの測定です。

出典: 平成25年度大気汚染常時測定局測定結果 (平成26年9月、大阪府)



- 注1) 6: 国設大阪局は平成21年度から測定です。2: 野中小学校局及び3: 菅北小学校局は平成25年度から測定です。その他は平成23年度から測定です。
- 注2) 1: 千成の H24年度及び大東市役所の H23年度の値は、年間の有効測定日数または有効測定時間に満たないデータを示します。また、6: 国設大阪局は、測定方法が環境省の認定基準を満たさず参考値として掲載しています。

図 4-1-3(9) 微小粒子状物質の経年変化（一般局）



- 注1) 平成23年度から測定です。
- 注2) 16: 淀川工科高校の H23年度の値は、年間の有効測定日数または有効測定時間に満たないデータを示します。

図 4-1-3(10) 微小粒子状物質の経年変化（自排局）

出典：平成25年度大気汚染常時測定局測定結果（平成26年9月、大阪府）

3) 騒音の状況

調査区域における道路交通騒音及び一般環境騒音の測定は、図 4-1-4 に示すとおり、環境基準の達成状況の調査として道路交通騒音 58 地点、一般環境騒音 32 地点で実施されています。

各測定地点の測定結果は、表 4-1-4(1)～(3)に示すとおりです。

道路交通騒音の測定結果によると、各測定地点の等価騒音レベル (LAeq) は、昼間 60～75dB、夜間 54～72dB となっており、環境基準を達成している測定地点は、58 地点のうち昼間 45 地点、夜間 35 地点となっています。また、要請限度[※]を超過している地点は、昼間は存在せず、夜間は 58 地点のうち 3 地点となっています。

一般環境騒音の測定結果によると、各測定地点の等価騒音レベル (LAeq) は、昼間 41～65dB、夜間 33～54dB となっており、環境基準を達成している測定地点は、32 地点のうち昼間 27 地点、夜間 25 地点となっています。

※要請限度：「騒音規制法第十七条第一項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」（平成12年3月2日、総理府令第15号）による自動車騒音の限度です。

表 4-1-4(1) 騒音測定結果（道路交通騒音）

No.	道路名	測定場所	地域類型	騒音レベル (dB) L _{Aeq}		基準値等との比較				実測 年度
				L _{Aeq}		環境基準 達成状況		要請限度 との比較		
				昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
A1	国道 1 号	守口市浜町 1 丁目 5-15	近接空間	70	66	○	×	○	○	H24
A2	国道 1 号	守口市京阪本通 1 丁目 9-6	近接空間	70	67	○	×	○	○	H24
A3	国道 1 号	大阪市旭区森小路 1 丁目 10-5	近接空間	69	65	○	○	○	○	H24
A4	国道 1 号	大阪市城東区今福西 5 丁目 2	近接空間	66	62	○	○	○	○	H24
A5	国道 1 号	大阪市城東区蒲生 2 丁目 10	近接空間	69	67	○	×	○	○	H20
A6	国道 1 号	大阪市都島区東野田 1 丁目	近接空間	72	71	×	×	○	×	H24
A7	国道 1 号	大阪市北区天満橋 1 丁目 2	近接空間	66	64	○	○	○	○	H24
A8	国道 1 号	大阪市北区東天満 1 丁目 7-22	近接空間	67	66	○	×	○	○	H20
A9	国道 2 号	大阪市福島区福島 2 丁目 8-16	近接空間	68	64	○	○	○	○	H18
A10	国道 2 号	大阪市福島区海老江 8 丁目	近接空間	71	67	×	×	○	○	H24
A11	国道 25 号	大阪市中央区備後町 3 丁目 6-2	近接空間	68	66	○	×	○	○	H19
A12	国道 25 号	大阪市中央区北浜 4 丁目 3-11	近接空間	66	64	○	○	○	○	H18
A13	国道 163 号	守口市大宮通 4 丁目 15	近接空間	72	67	×	×	○	○	H20
A14	国道 163 号	門真市松生町 1	近接空間	74	71	×	×	○	×	H21
A15	国道 163 号	門真市舟田町 1-1	近接空間	71	68	×	×	○	○	H24
A16	国道 163 号	門真市打越町 1	近接空間	75	70	×	×	○	○	H22
A17	国道 163 号	寝屋川市堀溝 2 丁目 4-1	近接空間	72	69	×	×	○	○	H24
A18	国道 163 号	大阪市旭区新森 1 丁目 1-3	近接空間	70	63	○	○	○	○	H22
A19	国道 176 号	豊中市庄内東町 2 丁目 7-11	近接空間	69	62	○	○	○	○	H21
A20	国道 176 号	豊中市三国 2 丁目 1-1	近接空間	71	67	×	×	○	○	H21
環境基準値		幹線道路を担う道路に近接する空間（近接空間）：昼間 70 デシベル以下、夜間 65 デシベル以下								
要請限度値		幹線道路を担う道路に近接する区域（近接空間）：昼間 75 デシベル、夜間 70 デシベル								

注1) 時間区分 昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）

注2) 環境基準達成状況 ○：達成 ×：非達成

要請限度との比較 ○：要請限度値以下 ×：要請限度値超過

出典：国土交通省資料

表 4-1-4(2) 騒音測定結果（道路交通騒音・平成 24 年度）

No.	道路名	測定場所	車線数	地域類型	騒音レベル (dB) L _{Aeq}		基準値等との比較			
					昼間	夜間	環境基準 達成状況		要請限度 との比較	
							昼間	夜間	昼間	夜間
B1	国道 1 号バイパス	門真市大字三ツ島	4	近接空間	64	59	○	○	○	○
B2	国道 1 号バイパス	門真市沖町 30	4	近接空間	60	54	○	○	○	○
B3	国道 1 号	守口市京阪本通 2-6	4	近接空間	70	68	○	×	○	○
B4	国道 163 号	守口市大宮通 4-12	4	近接空間	66	62	○	○	○	○
B5	国道 163 号	門真市南野口町 9-4	4	近接空間	75	70	×	×	○	○
B6	国道 163 号	門真市一番町 1	4	近接空間	71	68	×	×	○	○
B7	国道 423 号	大阪市淀川区西中島 5-13	6	近接空間	65	62	○	○	○	○
B8	国道 423 号	大阪市北区豊崎 2-7-9	5	近接空間	70	68	○	×	○	○
B9	国道 479 号	守口市小春町 9-2	4	近接空間	67	63	○	○	○	○
B10	府道大阪中央環状線	大阪市鶴見区浜 2-2-62	2	近接空間	69	65	○	○	○	○
B11	府道大阪中央環状線	門真市堂山町 19-1	8	近接空間	75	72	×	×	○	×
B12	府道大阪臨海線	大阪市福島区野田 3-1-18	4	近接空間	69	63	○	○	○	○
B13	府道大阪臨海線	大阪市福島区玉川 1-4-11	6	近接空間	69	66	○	×	○	○
B14	府道石切大阪線	大阪市城東区新喜多 1-6-35	2	近接空間	64	61	○	○	○	○
B15	府道石切大阪線	東大阪市吉原 2-10	2	近接空間	66	60	○	○	○	○
B16	府道大阪生駒線	大東市太子田 1-12-38	2	近接空間	66	62	○	○	○	○
B17	府道大阪生駒線	東大阪市加納 3-8	4	近接空間	63	57	○	○	○	○
B18	府道八尾枚方線	大東市末広町 16-1	3	近接空間	68	64	○	○	○	○
B19	府道八尾枚方線	東大阪市東鴻池町 2-3	2	近接空間	69	66	○	×	○	○
B20	府道深野南寺方大阪線	守口市菊水通 4-21-18	2	近接空間	67	61	○	○	○	○
B21	市道九条梅田線	大阪市福島区海老江 1-6-19	4	近接空間	64	59	○	○	○	○
B22	市道大阪環状線	大阪市北区浮田 2-6-29	5	近接空間	69	67	○	×	○	○
B23	市道江戸堀線	大阪市西区土佐堀 2-3	5	近接空間	70	66	○	×	○	○
B24	市道裁判所東筋線	大阪市北区太融寺町 1-1	5	近接空間	65	61	○	○	○	○
B25	市道裁判所東筋線南側	大阪市北区西天満 3-9-5	4	近接空間	64	64	○	○	○	○
B26	市道十三吹田線	大阪市淀川区西中島 6-8-5	6	近接空間	67	60	○	○	○	○
B27	市道十三吹田線	大阪市東淀川区東中島 2-6	4	近接空間	61	55	○	○	○	○
B28	市道南淡路南方線	大阪市東淀川区西淡路 1-11	4	近接空間	60	54	○	○	○	○
B29	市道赤川天王寺線	大阪市都島区高倉町 1-6-3	4	近接空間	67	62	○	○	○	○
B30	市道扇町公園南通線	大阪市北区南扇町町 6-23	5	近接空間	67	64	○	○	○	○
B31	市道築港深江線	大阪市東成区東中本 2-3-15	6	近接空間	73	70	×	×	○	○
B32	市道中津太子橋線	大阪市北区長柄中 3-3	4	近接空間	71	65	×	○	○	○
B33	市道天満橋筋線	大阪市北区松ヶ枝町 1-38	4	近接空間	70	61	○	○	○	○
B34	市道北区第 133 号	大阪市北区長柄中 2-3	4	近接空間	66	61	○	○	○	○
B35	市道東大阪中央線	東大阪市本庄中	6	近接空間	67	62	○	○	○	○
B36	市道柳通線	東大阪市森河内西 2-1	2	近接空間	63	54	○	○	○	○
B37	市道馬場菊水線	守口市松下町 1-55	4	近接空間	69	61	○	○	○	○
B38	市道南寺方 24 号	守口市南寺方東通 4-14	2	C	65	59	○	○	○	○
環境基準値		道路に面する地域・C 地域：昼間 65 デシベル以下、夜間 60 デシベル以下 幹線道路を担う道路に近接する空間（近接空間）：昼間 70 デシベル以下、夜間 65 デシベル以下								
要請限度値		幹線道路を担う道路に近接する区域（近接空間）：昼間 75 デシベル、夜間 70 デ シベル								

注1) 時間区分 昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）

注2) 環境基準達成状況 ○：達成 ×：非達成

要請限度との比較 ○：要請限度以下 ×：要請限度超過

出典：平成24年度 騒音環境モニタリング調査結果報告書（平成26年2月、大阪府環境農林水産部 環境管理室交
通環境課）

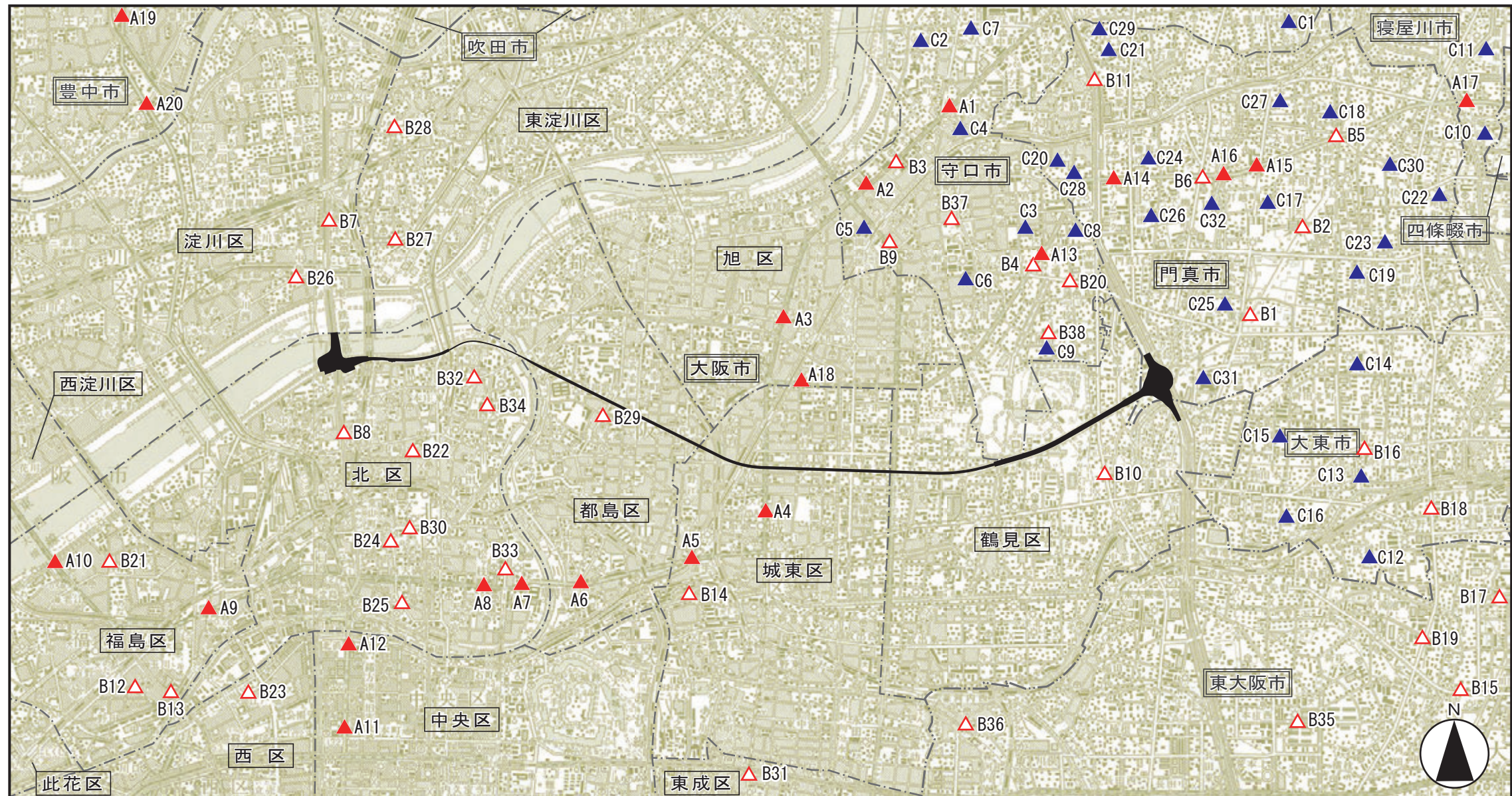
表 4-1-4(3) 騒音測定結果（一般環境騒音・平成 24 年度）

No.	測定場所	地域 類型	騒音レベル (dB) LAeq		基準値等との比較	
			昼間	夜間	環境基準 達成状況	
					昼間	夜間
C1	守口市藤田町 5-27-1	A	47	39	○	○
C2	守口市八雲西町 1-31-3	A	49	39	○	○
C3	守口市大宮通 3-11-3	A	49	38	○	○
C4	守口市松月町 5-7	B	51	50	○	×
C5	守口市紅屋町 1-22	B	55	48	○	×
C6	守口市南寺方北通 2-3	B	48	44	○	○
C7	守口市八雲中町 2-12	C	52	47	○	○
C8	守口市東郷通 1-4	C	55	49	○	○
C9	守口市南寺方東通 4-23	C	53	48	○	○
C10	寝屋川市堀溝 3-10-10	A	41	41	○	○
C11	寝屋川市讃良東町 6-1	B	48	45	○	○
C12	大東市灰塚 4-301-3	A	51	44	○	○
C13	大東市太子田 2-130	B	52	41	○	○
C14	大東市御領 3-426-2	C	53	42	○	○
C15	大東市新田中町 6	C	53	43	○	○
C16	大東市諸福 3-151-4	C	55	45	○	○
C17	門真市沖町 5-5	A	57	44	×	○
C18	門真市上野口町 34-12	A	61	49	×	×
C19	門真市千石東町 9-27	A	56	52	×	×
C20	門真市本町 34-12	A	48	42	○	○
C21	門真市月出町 15-24	A	41	42	○	○
C22	門真市岸和田 1-8-1	A	45	49	○	×
C23	門真市下馬伏町 1-22	A	65	51	×	×
C24	門真市柳町 15-17	B	58	54	×	×
C25	門真市三ツ島 1-16-25	B	55	33	○	○
C26	門真市深田町 19-5	C	51	38	○	○
C27	門真市野里町 16-9	C	47	44	○	○
C28	門真市栄町 21-33	C	55	47	○	○
C29	門真市向島町 16-10	C	50	38	○	○
C30	門真市四宮 4-4	C	60	49	○	○
C31	門真市三ツ島 3-7-16	C	60	37	○	○
C32	門真市一番町 16-7	B	49	43	○	○
環境基準値		A 及び B 類型： 昼間 55 デシベル以下、夜間 45 デシベル以下 C 類型： 昼間 60 デシベル以下、夜間 50 デシベル以下				

注1) 時間区分 昼間（6時～22時）、夜間（22時～6時）

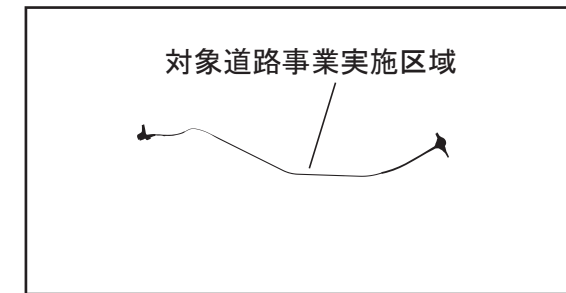
注2) 環境基準達成状況 ○：達成 ×：非達成

出典：平成24年度騒音環境モニタリング調査結果報告書（平成26年2月、大阪府環境農林水産部環境管理室交通環境課）



凡 例		
記号	番号	名称
▲	A1~20	道路交通騒音
△	B1~38	
▲	C1~32	一般環境騒音

出典：国土交通省資料
 平成24年度 騒音環境モニタリング調査結果報告書
 (平成26年2月、大阪府環境農林水産部環境管理室交通環境課)



図名

図4-1-4 騒音調査地点位置図

4) 振動の状況

調査区域における道路交通振動の平成 24 年度の測定地点は、図 4-1-5 に、測定結果は表 4-1-5 に示すとおりです。

測定結果によると、各測定地点の振動レベルの 80%レンジ上端値(L₁₀)は、昼間 34～51dB、夜間 30dB～48dB となっており、すべての地点で要請限度*を下回っています。

※要請限度：「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日、総理府令第58号)による道路交通振動の限度です。

表 4-1-5 道路交通振動測定結果

No.	道路名	測定地点住所	区分	車線数	振動レベル (dB)L ₁₀		要請限度との比較	
					昼間	夜間	昼間	夜間
1	国道 163 号	守口市大宮通 4-12	1	4	39	31	○	○
2	国道 163 号	門真市大池町 43-12	2	4	44	—	○	—
3	国道 423 号	大阪市淀川区西中島 5-13	2	6	36	39	○	○
4	国道 423 号	大阪市北区豊崎 2-7-9	2	5	45	41	○	○
5	国道 479 号	守口市小春町 9-2	1	4	45	39	○	○
6	府道大阪中央環状線	大阪市鶴見区浜 2-2-62	1	2	49	35	○	○
7	府道大阪中央環状線	門真市新橋町 15-26	2	10	51	—	○	—
8	府道大阪臨海線	大阪市福島区野田 3-1-18	2	4	46	37	○	○
9	府道大阪臨海線	大阪市福島区玉川 1-4-11	2	6	44	41	○	○
10	府道石切大阪線	大阪市城東区新喜多 1-6-35	2	2	42	39	○	○
11	府道八尾枚方線	門真市江端町 29-13	1	2	51	—	○	—
12	府道深野南寺方大阪線	守口市菊水通 4-21-18	2	2	41	32	○	○
13	府道深野南方大阪線	門真市三ツ島 836	1	2	48	—	○	—
14	市道九条梅田線	大阪市福島区海老江 1-6-19	2	4	44	36	○	○
15	市道大阪環状線	大阪市北区浮田 2-6-29	2	5	45	42	○	○
16	市道江戸堀線	大阪市西区土佐堀 2-3	2	5	47	37	○	○
17	市道裁判所東筋線	大阪市北区太融寺町 1-1	2	5	40	42	○	○
18	市道裁判所東筋線南側	大阪市北区西天満 3-9-5	2	4	36	34	○	○
19	市道十三吹田線	大阪市淀川区西中島 6-8-5	2	6	39	34	○	○
20	市道十三吹田線	大阪市東淀川区東中島 2-6	2	4	38	35	○	○
21	市道南淡路南方線	大阪市東淀川区西淡路 1-11	2	4	35	<30	○	○
22	市道赤川天王寺線	大阪市都島区高倉町 1-6-3	1	4	40	34	○	○
23	市道扇町公園南通線	大阪市北区南扇町町 6-23	2	5	34	<30	○	○
24	市道築港深江線	大阪市東成区東中本 2-3-15	2	6	49	48	○	○
25	市道中津太子橋線	大阪市北区長柄中 3-3	2	4	48	42	○	○
26	市道天満橋筋線	大阪市北区松ヶ枝町 1-38	2	4	43	36	○	○
27	市道北区第 133 号	大阪市北区長柄中 2-3	1	4	42	32	○	○
28	市道馬場菊水線	守口市松下町 1-55	1	4	41	39	○	○
29	市道南方 24 号	守口市南寺方東通 4-14	2	2	43	34	○	○
要請限度値		第 1 種区域：昼間 65 デシベル、夜間 60 デシベル 第 2 種区域：昼間 70 デシベル、夜間 65 デシベル						

注1) 区分 1：第1種区域、2：第2種区域

注2) 時間区分 昼間：6時～21時、夜間：21時～翌日の6時

注3) 「—」は測定を実施していません。「<」は30dB未滿を示します。

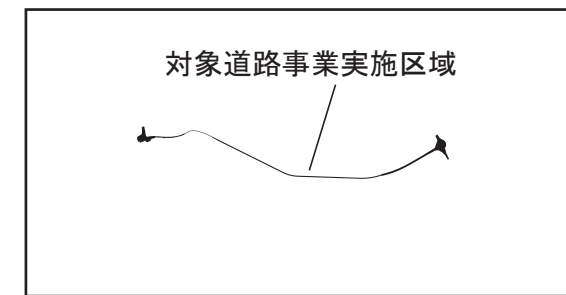
注4) 要請限度との比較 ○：要請限度値以下、×：要請限度値超過を示します。

出典：平成24年度騒音環境モニタリング調査結果報告書(平成26年2月、大阪府環境農林水産部環境管理室交通環境課)



凡 例		
記号	番号	名称
●	1~29	振動調査地点

出典：平成24年度 騒音環境モニタリング調査結果報告書
 (平成26年2月、大阪府環境農林水産部環境管理室交通環境課)



1000m 0 1 2km
 Scale 1:50,000

図名

図4-1-5 振動調査地点位置図

1.2 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

1) 水象の状況

調査区域の主な河川は、図 4-1-6 に示すとおりです。

主な河川としては、表 4-1-6 に示す 21 の河川があり、すべて淀川水系に属しており、概ね東から西に向かって流れています。対象道路事業実施区域は、古川と城北川、大川が交差するほか、淀川の一部にかかります。

表 4-1-6 対象道路事業実施区域及びその周辺の主な河川

水 域	番号	河川名	等級	水 域	番号	河川名	等級
淀川水域	1	淀川	一級河川	寝屋川水域	12	清滝川	一級河川
神崎川水域	2	神崎川			13	讃良川	
	3	天竺川			14	岡部川	
寝屋川水域	4	寝屋川		大阪市内河川	15	大川	
	5	古川			16	堂島川	
	6	恩智川			17	土佐堀川	
	7	第二寝屋川			18	安治川	
	8	平野川			19	木津川	
	9	平野川分水路			20	城北川	
	10	鍋田川			21	東横堀川	
	11	谷田川					

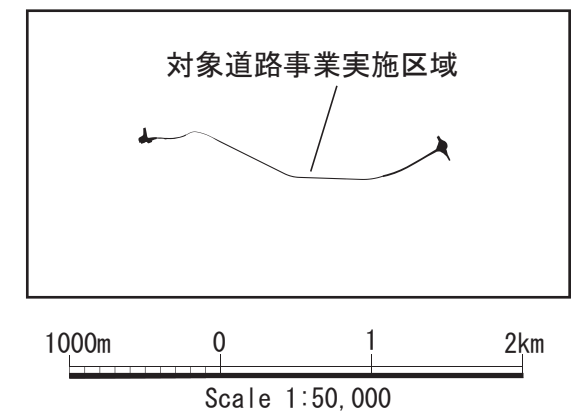
出典：大阪府管内河川指定状況調書（平成19年3月、大阪府都市整備部河川室）



凡 例			
番号	河川名	番号	河川名
1	淀川	12	清滝川
2	神崎川	13	讃良川
3	天竺川	14	岡部川
4	寝屋川	15	大川
5	古川	16	堂島川
6	恩智川	17	土佐堀川
7	第二寝屋川	18	安治川
8	平野川	19	木津川
9	平野川分水路	20	城北川
10	鍋田川	21	東横堀川
11	谷田川		

凡 例					
番号	河川名	調査地点	番号	河川名	調査地点
①	淀川	西日本旅客鉄道(株)赤川鉄橋	⑩	第二寝屋川	新金吾郎橋
②	神崎川	新三国橋	⑪	第二寝屋川	下城見橋
③	天竺川	神崎川合流直前	⑫	長瀬川	第二寝屋川合流直前
④	寝屋川	萱島橋	⑬	平野川分水路	天王田大橋
⑤	寝屋川	住道大橋	⑭	平野川	城見橋
⑥	寝屋川	今津橋	⑮	大川	桜宮橋
⑦	寝屋川	京橋	⑯	堂島川	天神橋
⑧	恩智川	住道新橋	⑰	土佐堀川	天神橋
⑨	古川	徳栄橋	⑱	東横堀川	本町橋

出典：大阪府管内河川指定状況調査（平成19年3月、大阪府都市整備部河川室）
平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）



図名 図4-1-6 水象の現況図及び水質測定地点位置図

2) 水質の状況

調査区域における河川の水質測定地点は、前掲の図 4-1-6 に、測定結果は表 4-1-7(1)～(3) に示すとおりです。

平成 25 年度の調査結果は、健康項目については、18 地点すべての地点で環境基準を達成しています。

また、生活環境項目の生物化学的酸素要求量 (BOD)、浮遊物質 (SS) については 18 地点すべての地点において環境基準を達成しています。水素イオン濃度 (pH) については 2 地点 (新三国橋、萱島橋) で、溶存酸素量 (DO) については 2 地点 (城見橋、本町橋) で、大腸菌群数については 5 地点 (赤川鉄橋、新三国橋、桜宮橋、天神橋(堂島川)、本町橋) で環境基準を超過しています。

表 4-1-7(1) 河川水質測定結果 (健康項目・平成 25 年度)

単位: mg/L

水質測定地点		1		2		3		4		5		6	
		淀川		神崎川		天竺川		寝屋川		寝屋川		寝屋川	
		赤川鉄橋		新三国橋		神崎川合流直前		萱島橋		住道大橋		今津橋	
項目	環境基準値	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n
カドミウム	≦0.003	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4
全リン	検出されないこと	N.D.	0/2	N.D.	0/2	N.D.	0/2	N.D.	0/4	N.D.	0/2	N.D.	0/4
鉛	≦0.01	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/6
六価クロム	≦0.05	<0.02	0/2	<0.02	0/2	<0.02	0/2	<0.02	0/4	<0.02	0/2	<0.02	0/4
砒素	≦0.01	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/4
総水銀	≦0.0005	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4
メチル水銀	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PCB	検出されないこと	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/2	N.D.	0/1	N.D.	0/1
ジクロロメタン	≦0.02	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
四塩化炭素	≦0.002	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4
1,2-ジクロロエタン	≦0.004	<0.0004	0/2	<0.0004	0/2	<0.0004	0/2	<0.0004	0/4	<0.0004	0/2	<0.0004	0/4
1,1-ジクロロエチレン	≦0.1	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
ジス-1,2-ジクロロエチレン	≦0.04	<0.004	0/2	<0.004	0/2	<0.004	0/2	<0.004	0/4	<0.004	0/2	<0.004	0/4
1,1,1-トリクロロエタン	≦1	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4
1,1,2-トリクロロエタン	≦0.006	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4
トリクロロエチレン	≦0.03	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
テトラクロロエチレン	≦0.01	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4
1,3-ジクロロプロパン	≦0.002	<0.0002	0/1	<0.0002	0/1	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4
チクロム	≦0.006	<0.0006	0/1	<0.0006	0/1	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4
シジピン	≦0.003	<0.0003	0/1	<0.0003	0/1	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4
チオペンタカルブ	≦0.02	<0.002	0/1	<0.002	0/1	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
ベンゼン	≦0.01	<0.001	0/2	<0.001	0/2	<0.001	0/2	<0.001	0/4	<0.001	0/2	<0.001	0/4
ゼレン	≦0.01	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	≦10	0.88	0/12	2.5	0/2	0.39	0/2	8.4	0/4	5.3	0/6	4.9	0/4
ふっ素	≦0.8	0.09	0/4	0.21	0/2	0.14	0/2	0.11	0/4	0.12	0/2	0.13	0/4
ほう素	≦1	0.02	0/4	0.35	0/2	0.05	0/2	0.05	0/4	0.05	0/2	0.05	0/4
1,4-ジオキサン	≦0.05	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2

水質測定地点		7		8		9		10		11		12	
		寝屋川		恩智川		古川		第二寝屋川		第二寝屋川		長瀬川	
		京橋		住道新橋		徳栄橋		新金吾郎橋		下城見橋		第二寝屋川合流直前	
項目	環境基準値	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n
カドミウム	≦0.003	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4
全リン	検出されないこと	N.D.	0/4	N.D.	0/2	N.D.	0/4	N.D.	0/4	N.D.	0/2	N.D.	0/4
鉛	≦0.01	<0.005	0/6	<0.005	0/2	0.005	0/6	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/4
六価クロム	≦0.05	<0.02	0/4	<0.02	0/2	<0.02	0/4	<0.02	0/4	<0.02	0/2	<0.02	0/4
砒素	≦0.01	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/4	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/4
総水銀	≦0.0005	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4
メチル水銀	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PCB	検出されないこと	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1
ジクロロメタン	≦0.02	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/4
四塩化炭素	≦0.002	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4
1,2-ジクロロエタン	≦0.004	<0.0004	0/4	<0.0004	0/2	<0.0004	0/4	<0.0004	0/4	<0.0004	0/2	<0.0004	0/4
1,1-ジクロロエチレン	≦0.1	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
ジス-1,2-ジクロロエチレン	≦0.04	<0.004	0/4	<0.004	0/2	<0.004	0/4	<0.004	0/4	<0.004	0/2	<0.004	0/4
1,1,1-トリクロロエタン	≦1	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4
1,1,2-トリクロロエタン	≦0.006	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4
トリクロロエチレン	≦0.03	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
テトラクロロエチレン	≦0.01	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/4
1,3-ジクロロプロパン	≦0.002	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/4
チクロム	≦0.006	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/4
シジピン	≦0.003	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/4
チオペンタカルブ	≦0.02	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
ベンゼン	≦0.01	<0.001	0/4	<0.001	0/2	<0.001	0/4	<0.001	0/4	<0.001	0/2	<0.001	0/4
ゼレン	≦0.01	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/4
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	≦10	2.7	0/4	4.2	0/6	4.2	0/4	7.1	0/6	4.6	0/4	4.5	0/4
ふっ素	≦0.8	0.14	0/4	0.13	0/2	0.14	0/4	0.10	0/4	0.18	0/2	0.10	0/4
ほう素	≦1	0.06	0/4	0.06	0/2	0.05	0/4	0.09	0/4	0.07	0/2	0.10	0/4
1,4-ジオキサン	≦0.05	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	0.006	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/4

表 4-1-7(2) 河川水質測定結果（健康項目・平成 25 年度）

単位：mg/L

水質測定地点		13		14		15		16		17		18	
		平野川分水路		平野川		大川		堂島川		土佐堀川		東横堀川	
		天王田大橋		城見橋		桜宮橋		天神橋		天神橋		本町橋	
項目	環境基準値	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n	年間平均値	m/n
カドミウム	≦0.003	<0.0003	0/4	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2
全シアン	検出されないこと	N.D.	0/4	N.D.	0/4	N.D.	0/2	N.D.	0/2	N.D.	0/2	N.D.	0/2
鉛	≦0.01	<0.005	0/4	<0.005	0/4	<0.005	0/4	<0.005	0/4	<0.005	0/4	<0.005	0/2
六価クロム	≦0.05	<0.02	0/4	<0.02	0/4	<0.02	0/2	<0.02	0/2	<0.02	0/2	<0.02	0/2
砒素	≦0.01	<0.005	0/4	<0.005	0/4	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2
総水銀	≦0.0005	<0.0005	0/4	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2
アルキル水銀	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PCB	検出されないこと	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1	N.D.	0/1
ジクロロメタン	≦0.02	0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2
四塩化炭素	≦0.002	<0.0002	0/4	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2
1,2-ジクロロエタン	≦0.004	<0.0004	0/4	<0.0004	0/4	<0.0004	0/2	<0.0004	0/2	<0.0004	0/2	<0.0004	0/2
1,1,1-トリクロロエタン	≦0.1	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2
シス-1,2-ジクロロエチレン	≦0.04	<0.004	0/4	<0.004	0/4	<0.004	0/2	<0.004	0/2	<0.004	0/2	<0.004	0/2
1,1,1-トリクロロエタン	≦1	<0.0005	0/4	<0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2
1,1,2-トリクロロエタン	≦0.006	<0.0006	0/4	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2
トリクロロエチレン	≦0.03	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2
テトラクロロエチレン	≦0.01	<0.0005	0/4	0.0005	0/4	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2	<0.0005	0/2
1,3-ジクロロプロパン	≦0.002	<0.0002	0/4	<0.0002	0/4	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2	<0.0002	0/2
チカラム	≦0.006	<0.0006	0/4	<0.0006	0/4	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2	<0.0006	0/2
シマジン	≦0.003	<0.0003	0/4	<0.0003	0/4	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2	<0.0003	0/2
チベンチカルブ	≦0.02	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2
ベンゼン	≦0.01	<0.001	0/4	<0.001	0/4	<0.001	0/2	<0.001	0/2	<0.001	0/2	<0.001	0/2
セレン	≦0.01	<0.002	0/4	<0.002	0/4	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2	<0.002	0/2
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	≦10	7.5	0/4	4.9	0/4	0.85	0/4	1.5	0/4	1.7	0/4	1.5	0/4
ふっ素	≦0.8	0.20	0/4	0.16	0/4	0.11	0/2	0.12	0/2	0.12	0/2	0.12	0/2
ほう素	≦1	0.10	0/4	0.08	0/4	0.03	0/2	0.03	0/2	0.03	0/2	0.02	0/2
1,4-ジチオキサ	≦0.05	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2	<0.005	0/2

注1) m/nのnは調査対象検体数、mは環境基準値を超えた検体数を示します。

注2) N.D.は定量下限値未満、—：未測定（ただし、アルキル水銀については総水銀が検出された時に限り、当該検体のみ分析を実施します。）

注3) 全シアンは年間の最高値を環境基準値と比較します。それ以外の項目は年間平均値を環境基準値と比較します。

注4) 環境基準値は平成25年度時点の値です。

出典：平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）

表 4-1-7(3) 河川水質測定結果（生活環境項目・平成 25 年度）

水質 測定地点		1		2		3		4		5	
		淀川		神崎川		天竺川		寝屋川		寝屋川	
		赤川鉄橋		新三国橋		神崎川合流直前		萱島橋		住道大橋	
類型		B		B		—		C		C	
項目	単位	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n
pH	—	7.5~7.9	0/12	7.0~8.7	1/48	7.8~9.6	-/16	6.9~9.3	3/48	7.1~8.5	0/48
DO	mg/L	9.5	0/12	8.0	0/12	11.0	-/4	11	0/12	8.5	0/12
BOD	mg/L	1.3(1.6)	0/12	1.5(1.6)	0/12	0.9(1.0)	-/4	1.6(1.9)	0/12	1.7(2.1)	0/12
COD	mg/L	3.5	-/12	5.5	-/12	4.4	-/4	8.9	-/12	7.0	-/12
SS	mg/L	6	0/12	5	0/12	1	-/4	2	0/12	6	0/12
大腸菌群数	MPN/100mL	6.1×10 ³	2/12	1.2×10 ⁴	6/12			5.0×10 ³	-/12		

水質 測定地点		6		7		8		9		10	
		寝屋川		寝屋川		恩智川		古川		第二寝屋川	
		今津橋		京橋		住道新橋		徳栄橋		新金吾郎橋	
類型		D		D		D		D		D	
項目	単位	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n
pH	—	6.9~7.5	0/48	6.7~7.6	0/48	7.1~8.5	0/48	6.7~7.5	0/48	6.7~7.9	0/48
DO	mg/L	5.0	0/12	6.1	0/12	6.8	0/12	4.6	0/12	7.5	0/12
BOD	mg/L	4.9(5.5)	1/12	3.2(3.8)	1/12	2.7(3.2)	0/12	3.7(4.4)	0/12	6.0(6.9)	3/12
COD	mg/L	8.6	-/12	6.2	-/12	7.5	-/12	7.5	-/12	8.2	-/12
SS	mg/L	7	0/12	7	0/12	9	0/12	8	0/12	3	0/12
大腸菌群数	MPN/100mL	7.4×10 ⁴	-/4	2.0×10 ⁴	-/4			5.0×10 ⁴	-/4	4.2×10 ⁴	-/12

水質 測定地点		11		12		13		14		15	
		第二寝屋川		長瀬川		平野川分水路		平野川		大川	
		下城見橋		第二寝屋川合流直前		天王田大橋		城見橋		桜宮橋	
類型		D		—		D		D		B	
項目	単位	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n
pH	—	6.7~7.3	0/48	6.5~9.0	-/16	6.6~7.2	0/48	6.7~7.2	0/48	7.2~7.7	0/48
DO	mg/L	4.5	0/12	12	-/4	4.7	0/12	4.2	1/12	9.3	0/12
BOD	mg/L	5.0(7.0)	3/12	2.1(2.2)	-/4	4.3(5.4)	0/12	4.0(4.5)	0/12	0.8(0.9)	0/12
COD	mg/L	8.3	-/12	7.2	-/4	9.2	-/12	9.1	-/12	3.0	-/12
SS	mg/L	5	0/12	12	-/4	4	0/12	5	0/12	6	0/12
大腸菌群数	MPN/100mL	1.6×10 ⁴	-/4	8.1×10 ⁴	-/4	5.4×10 ³	-/4	7.3×10 ³	-/4	1.6×10 ³	1/12

水質 測定地点		16		17		18		環境基準値					
		堂島川		土佐堀川		東横堀川		項目	類型				
		天神橋		天神橋		本町橋			B	C	D		
類型		B		C		B							
項目	単位	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n	年間測定値	m/n						
pH	—	6.9~8.1	0/48	7.0~7.7	0/48	7.0~7.6	0/48	pH	6.5 以上 8.5 以下	6.5 以上 8.5 以下	6.0 以上 8.5 以下		
DO	mg/L	8.6	0/12	8.1	0/12	6.4	3/12	DO	5 以上	5 以上	2 以上		
BOD	mg/L	1.3(1.5)	0/12	1.6(1.7)	0/12	1.3(1.6)	0/12	BOD	3 以下	5 以下	8 以下		
COD	mg/L	4.0	-/12	4.4	-/12	4.4	-/12	SS	25 以下	50 以下	100 以下		
SS	mg/L	7	0/12	6	0/12	6	0/12	大腸菌 群数	5,000 以下	—	—		
大腸菌群数	MPN/100mL	3.3×10 ³	2/12	4.9×10 ³	-/4	3.4×10 ³	1/12						

注1) BOD の () 内の値は75%値を示し、75%値を環境基準値と比較します。

注2) m/n の n は調査対象検体数、m は環境基準値を超えた検体数、- の場合は環境基準値が無いことを示します。

出典：平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）

調査区域の地下水の水質の状況は、概況を把握するための概況調査が6地点で行われており、平成25年度の測定結果を表4-1-8(1)に示します。すべての地点において環境基準を達成しています。また、概況調査等により新たに発見された汚染について、その汚染範囲を確認するとともに汚染原因の究明に資するために実施する地下水の水質汚染井戸周辺地区調査は4地点あり、測定結果を表4-1-8(2)に示します。

表4-1-8(1) 地下水水質測定結果（概況調査・平成25年度）

単位：mg/L

項目	環境基準値	1	2	3	4	5	6
		大東市	門真市	大阪市	大阪市	東大阪市	東大阪市
		諸福	桑才	東淀川区 豊里	城東区 中央	森河内西	西鴻池町
カドミウム	≦0.003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
全シアン	検出されないこと	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
鉛	≦0.01	<0.005	<0.005	<0.005	#0.006	<0.005	<0.005
六価クロム	≦0.05	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
砒素	≦0.01	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
総水銀	≦0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	-	-	-	-	-	-
PCB	検出されないこと	-	-	N.D.	N.D.	-	-
ジクロロメタン	≦0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
四塩化炭素	≦0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
塩化ビニルモノマー	≦0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	#0.0002	<0.0002	<0.0002
1,2-ジクロロエタン	≦0.004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
1,1-ジクロロエチレン	≦0.1	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
1,2-ジクロロエチレン	≦0.04	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
1,1,1-トリクロロエタン	≦1	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,1,2-トリクロロエタン	≦0.006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン	≦0.03	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
テトラクロロエチレン	≦0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
1,3-ジクロロプロペン	≦0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
チオラム	≦0.006	-	-	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
シマジン	≦0.003	-	-	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ	≦0.02	-	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン	≦0.01	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
セレン	≦0.01	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	≦10	#0.78	<0.08	#0.08	#0.08	#7.3	#0.08
ふっ素	≦0.8	#0.12	#0.52	#0.11	#0.13	#0.16	#0.14
ほう素	≦1	#0.05	#0.62	#0.02	#0.12	#0.05	#0.10
1,4-ジシロリン	≦0.05	<0.005	<0.005	<0.005	0.012	<0.005	<0.005

注1) 各地点とも測定回数は1回です。

注2) - : 未測定（アルキル水銀は、原則として総水銀が検出された場合、測定を行うこととしています。）
: 検出したが、環境基準値以下

注3) 環境基準値は平成25年度時点の値です。

出典：平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）

表 4-1-8(2) 地下水質汚染井戸周辺地区測定結果（平成 25 年度）

単位：mg/L

項目	環境 基準値	1	2	3	4
		大東市	門真市	大阪市	大阪市
		氷野	桑才	中央区 法円坂	城東区 新喜多
塩化ビニルモノマー	≦0.002	-	-	0.001	-
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	≦10	-	-	<0.08	-
ふっ素	≦0.8	<0.08	0.67	-	-
ほう素	≦1	-	0.62	-	-
1,4-ジクロロベンゼン	≦0.05	-	-	0.017	0.021

注1) 表中の測定結果は最高濃度を示します。

注2) -：未測定

出典：平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）

さらに継続監視調査は16地点で行われており、測定結果を表4-1-9(1)～(2)に示します。このうち11地点で環境基準を超過しています。

表4-1-9(1) 地下水水質測定結果（継続監視調査・平成25年度）

単位：mg/L

項目	環境基準値	1	2	3	4	5	6	7	8
		門真市	守口市	大東市	門真市	大阪市	大阪市	大阪市	豊中市
		柳田町	本町	諸福	堂山町	東淀川区 大桐	旭区 大宮	旭区 新森	豊南町 南
カドミウム	≦0.003	—	—	—	—	—	—	—	—
全シアン	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—
鉛	≦0.01	—	—	—	—	—	#0.008	—	—
六価クロム	≦0.05	—	—	—	—	—	—	—	—
砒素	≦0.01	0.040	—	—	—	—	—	—	—
総水銀	≦0.0005	—	—	—	—	—	—	—	—
アルキル水銀	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—
PCB	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—
ジクロロメタン	≦0.02	—	—	—	—	—	—	—	—
四塩化炭素	≦0.002	—	—	—	—	—	—	—	—
塩化ビニルモノマー	≦0.002	—	<0.0002	0.0061	0.029	—	—	0.009	—
1,2-ジクロロエタン	≦0.004	—	—	—	—	—	—	—	—
1,1-ジクロロエチレン	≦0.1	—	<0.002	<0.002	<0.002	—	—	—	—
1,2-ジクロロエチレン	≦0.04	—	<0.004	#0.004	<0.004	—	—	0.064	—
1,1,1-トリクロロエタン	≦1	—	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	—	—
1,1,2-トリクロロエタン	≦0.006	—	—	—	—	—	—	—	—
トリクロロエチレン	≦0.03	—	<0.002	<0.002	<0.002	—	—	—	—
テトラクロロエチレン	≦0.01	—	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	—	—
1,3-ジクロロプロペン	≦0.002	—	—	—	—	—	—	—	—
チウラム	≦0.006	—	—	—	—	—	—	—	—
シマジン	≦0.003	—	—	—	—	—	—	—	—
チオベンカルブ	≦0.02	—	—	—	—	—	—	—	—
ベンゼン	≦0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
セレン	≦0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	≦10	—	—	—	—	18	—	—	#8.7
ふっ素	≦0.8	#0.73	—	—	—	—	—	—	—
ほう素	≦1	—	—	—	—	—	—	—	—
1,4-ジオキサン	≦0.05	—	—	—	—	—	—	—	—

注1) 表中の測定結果は年間平均値を示します。

注2) 評価は年間平均値を環境基準値と比較します。

注3) —：未測定 ■：環境基準値を超過 #：検出したが、環境基準値以下

出典：平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）

表 4-1-9 (2) 地下水水質測定結果（継続監視調査・平成 25 年度）

単位：mg/L

項目	環境基準値	9	10	11	12	13	14	15	16
		豊中市	大阪市	門真市	門真市	門真市	大阪市	守口市	守口市
		神州町	鶴見区 浜	東田町	東田町	東田町	都島区 中野町	大宮通	高瀬町
カドミウム	≦0.003	—	—	—	—	—	—	—	—
全シアン	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—
鉛	≦0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
六価クロム	≦0.05	—	—	—	—	—	—	—	—
砒素	≦0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
総水銀	≦0.0005	—	—	—	—	—	—	—	—
アルキル水銀	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—
PCB	検出されないこと	—	—	—	—	—	—	—	—
ジクロロメタン	≦0.02	—	<0.002	—	—	—	<0.002	—	—
四塩化炭素	≦0.002	—	<0.0002	—	—	—	<0.0002	—	—
塩化ビニルモノマー	≦0.002	—	0.082	—	—	—	0.0055	0.0042	—
1,2-ジクロロエタン	≦0.004	—	<0.0004	—	—	—	<0.0004	—	—
1,1-ジクロロエチレン	≦0.1	—	<0.002	—	—	—	<0.002	—	—
1,2-ジクロロエチレン	≦0.04	—	0.088	—	—	—	<0.004	—	—
1,1,1-トリクロロエタン	≦1	—	<0.0005	—	—	—	<0.0005	—	—
1,1,2-トリクロロエタン	≦0.006	—	<0.0006	—	—	—	<0.0006	—	—
トリクロロエチレン	≦0.03	—	<0.002	—	—	—	<0.002	—	—
テトラクロロエチレン	≦0.01	—	<0.0005	—	—	—	<0.0005	—	—
1,3-ジクロロプロペン	≦0.002	—	<0.0002	—	—	—	<0.0002	—	—
チウラム	≦0.006	—	—	—	—	—	—	—	—
シマジン	≦0.003	—	—	—	—	—	—	—	—
チオベンカルブ	≦0.02	—	—	—	—	—	—	—	—
ベンゼン	≦0.01	0.096	<0.001	—	—	—	<0.001	—	—
セレン	≦0.01	—	—	—	—	—	—	—	—
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	≦10	—	—	—	—	—	—	—	—
ふっ素	≦0.8	—	#0.42	#0.79	95	#0.30	—	—	1.2
ほう素	≦1	—	—	—	—	—	—	—	—
1,4-ジオキサン	≦0.05	—	—	—	—	—	—	—	—

注1) 表中の測定結果は年間平均値を示します。

注2) 全シアンは年間の最高値を環境基準値と比較します。それ以外の項目は年間平均値を環境基準値と比較します。

注3) —：未測定 ■：環境基準値を超過 #：検出したが、環境基準値以下

出典：平成25年度大阪府域河川等水質調査結果報告書（平成27年2月、大阪府）

平成21～25年度における河川及び地下水のダイオキシン類調査の測定結果は、表4-1-10(1)～(2)に示すとおりです。平成25年度の結果において、河川は20地点のうち2地点で環境基準を超過しています。また、地下水の1地点では環境基準を達成しています。

表4-1-10(1) 河川水質測定結果（ダイオキシン類）

常時監視調査

単位：pg-TEQ/L

水域	河川名	調査地点名	環境基準値	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
淀川	淀川	柴島	1以下	—	0.11	0.085	0.15	0.16
	淀川	淀川大堰	1以下	—	—	0.091	—	—
神崎川	神崎川	新三国橋	1以下	1.0	0.84	0.91	1.5	1.1
寝屋川	寝屋川	萱島橋	1以下	0.12	0.082	0.32	0.30	0.24
	寝屋川	住道大橋	1以下	0.44	0.64	1.8	1.2	0.73
	寝屋川	今津橋	1以下	1.0	1.9	1.9	0.63	0.71
	寝屋川	京橋	1以下	0.95	1.0	0.89	0.34	0.82
	恩智川	住道新橋	1以下	1.1	0.63	0.75	1.2	1.0
	古川	徳栄橋	1以下	2.1	2.5	3.4	1.6	2.4
	第二寝屋川	新金吾郎橋	1以下	0.11	0.12	0.21	0.055	0.25
	第二寝屋川	下城見橋	1以下	0.34	0.49	0.32	0.28	0.18
	平野川分水路	天王田大橋	1以下	0.17	0.22	0.15	0.20	0.20
	平野川	城見橋	1以下	0.57	0.80	0.55	0.40	0.47
大阪市内河川	大川	桜宮橋	1以下	0.21	0.23	0.26	0.49	0.46
	堂島川	天神橋(右)	1以下	0.64	0.56	0.78	0.61	0.82
	土佐堀川	天神橋(左)	1以下	0.60	0.62	0.64	0.63	0.40
	東横堀川	本町橋	1以下	0.51	0.80	0.88	0.52	0.61

常時監視調査以外

単位：pg-TEQ/L

水域	河川名	調査地点名	環境基準値	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
寝屋川	寝屋川	南水苑橋	1以下	0.61	0.051	0.026	0.028	0.035
	寝屋川	河北大橋	1以下	—	—	0.79	—	—
	寝屋川	五軒堀新橋	1以下	—	0.45	—	—	—
	寝屋川	鍋田川・側道橋	1以下	0.56	—	—	—	—
	鍋田川	谷川橋	1以下	—	—	—	0.13	—
	古川	三ツ島大橋	1以下	0.94	0.89	1.3	0.98	1.6
	下八箇荘水路	野口～千石西町	1以下	0.40	—	—	—	—
	下八箇荘水路	三ツ島	1以下	—	0.53	0.30	0.45	0.51
	門真第十水路	島頭	1以下	0.33	0.17	0.60	0.23	—

注1) 表中の測定結果は年間平均値を示し、年間平均値を環境基準値と比較します。

注2) ：環境基準を未達成、—：未測定

注3) 河北大橋、五軒堀新橋、鍋田川・側道橋は追跡調査結果

出典：大阪府環境白書 平成22～26年版（平成22～26年12月、大阪府）

表 4-1-10(2) 地下水水質測定結果（ダイオキシン類）

単位：pg-TEQ/L

調査主体	所在地	環境基準値	測定値	調査年度
大阪市	大阪市中央区法円坂	1 以下	0.090	H25
大阪市	大阪市福島区福島	1 以下	0.055	H24
東大阪市	東大阪市古箕輪	1 以下	0.053	H23
大阪府	門真市桑才	1 以下	0.059	H22
大阪市	大阪市東淀川区大桐	1 以下	0.067	
大阪市	大阪市旭区生江	1 以下	0.12	H21
	大阪市鶴見区浜	1 以下	0.088	

注) 表中の測定結果は年間平均値を示し、年間平均値を環境基準値と比較します。

出典：大阪府環境白書 平成22～26年版（平成22～26年12月、大阪府）

3) 水底の底質の状況

調査区域における水底の底質の水質測定は、平成 25 年度調査では 4 地点で実施されており、位置は前掲の図 4-1-6 に、測定結果は表 4-1-11 に示すとおりです。

測定結果は、底質の暫定除去基準(昭和 50 年、環水管第 119 号)を上回る水銀、PCB は検出されていません。

表 4-1-11 水底の底質測定結果 (平成 25 年度)

項目		暫定除去 基準値	①		②		⑤		⑧	
			淀川		神崎川		寝屋川		恩智川	
			西日本旅客鉄道 (株)赤川鉄橋		新三国橋		住道大橋		住道新橋	
含水率	%	—	16.1		57.2		23.0		38.3	
総水銀	mg/kg	25 以上	0.10	○	0.99	○	0.39	○	0.30	○
PCB	mg/kg	10 以上	<0.01	○	2.5	○	0.45	○	0.12	○

注) ○ : 暫定除去基準を達成 × : 暫定除去基準を未達成

出典 : 大阪府環境白書 平成26年版 (平成26年12月、大阪府)

平成 21～25 年度のダイオキシン類に係る測定は、25 地点で実施されており、測定結果は表 4-1-12 に示すとおりです。測定結果は、平成 22 年度に中茶屋橋（古川）で、平成 25 年度に三ツ島大橋（古川）で環境基準を超過しています。

表 4-1-12 水底の底質測定結果（ダイオキシン類）

常時監視調査 単位：pg-TEQ/g

水域	河川名	調査地点名	環境基準値	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
淀川	淀川	柴島	150 以下	—	0.29	0.26	1.1	14
	淀川	淀川大堰	150 以下	—	—	0.76	—	—
神崎川	神崎川	新三国橋	150 以下	60	44	66	85	120
寝屋川	寝屋川	萱島橋	150 以下	1.6	0.72	0.61	0.75	0.75
	寝屋川	住道大橋	150 以下	4.6	2.1	9.9	4.9	3.7
	寝屋川	今津橋	150 以下	9.6	16	9.1	10	9.3
	寝屋川	寝屋川橋	150 以下	1.2	0.67	0.94	1.0	1.1
	恩智川	住道新橋	150 以下	88	55	19	52	42
	古川	中茶屋橋	150 以下	140	84	82	180	27
	第二寝屋川	新金吾郎橋	150 以下	1.7	1.8	2.8	1.1	2.5
	第二寝屋川	下城見橋	150 以下	12	7.9	15	44	12
	平野川分水路	左専道大橋	150 以下	—	38	29	20	41
	平野川	城見橋	150 以下	61	62	82	91	66
大阪市 内河川	大川	桜宮橋	150 以下	15	28	50	28	16
	堂島川	天神橋(右)	150 以下	4.6	4.6	4.7	1.8	2.3
	土佐堀川	天神橋(左)	150 以下	2.0	3	1.5	3.8	8.8
	東横堀川	本町橋	150 以下	7.4	5.6	3.9	6.1	5.7

常時監視調査以外 単位：pg-TEQ/g

調査主体	河川名	調査地点名	環境基準値	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
寝屋川市	寝屋川	南水苑橋	150 以下	0.36	0.66	0.86	1.0	3.3
大東市	鍋田川	谷川橋	150 以下	—	—	—	2.8	—
門真市	古川	三ツ島大橋	150 以下	240	64	140	93	—
	下八箇荘水路	三ツ島	150 以下	—	35	19	9.0	31
	下八箇荘水路	野口～ 千石西町	150 以下	20	—	—	—	—
	門真第十水路	島頭	150 以下	54	10	15	96	—
	門真第十水路	横地	150 以下	—	—	—	—	22

注1) 表中の測定結果は年間平均値を示し、年間平均値を環境基準値と比較します。

注2) ：環境基準を未達成、—：未測定

注3) 平成22年度の大川:桜宮橋は源八橋で採取しています。

出典：大阪府環境白書 平成22～26年版（平成22～26年12月、大阪府）

1.3 土壌及び地盤の状況

1) 土壌の状況

調査区域の土壌の状況は、図 4-1-7 に示すとおりです。

調査区域は、市街化が進み、淀川河川敷に砂州未熟土壌が分布しており、調査区域東側の一部に細粒グライ土壌と灰色低地土壌が分布しています。このうち対象道路事業実施区域には、東端に細粒グライ土壌と灰色低地土壌の地域が存在しています。

土壌に係る環境調査として、調査区域では一般環境土壌中のダイオキシン類について、38 地点で調査が実施されています。平成 21～25 年度の調査結果は表 4-1-13 に示すとおり、すべての地点で環境基準(1000pg-TEQ/g 以下) 及び調査指標値(250pg-TEQ/g)を下回っています。

表 4-1-13 ダイオキシン類調査結果

常時監視調査

単位：pg-TEQ/g

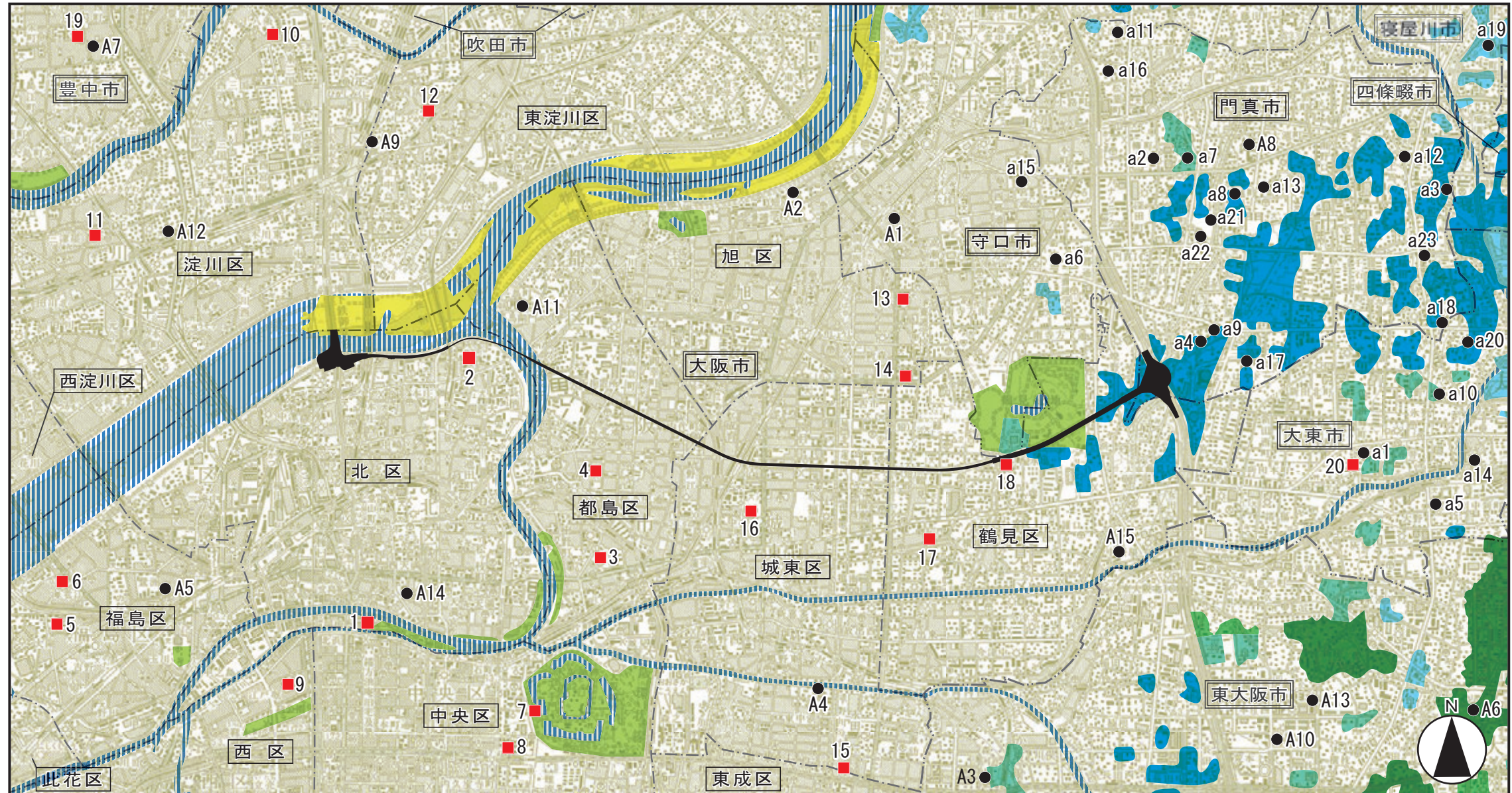
番号	調査年度	調査主体	所在地	地点名	測定値	環境基準値
A1	H25	大阪府	守口市梅園町	土居公園	5.0	1000 以下
A2		大阪市	大阪市旭区大宮	大阪市立今市中学校	0.81	
A3		東大阪市	東大阪市森河内東	布施公園	0.53	
A4	H24	大阪市	大阪市城東区東中浜	天王田公園	7.9	
A5			大阪市福島区鷺洲	鷺洲中公園	6.6	
A6		東大阪市	東大阪市吉原	吉原公園	1.3	
A7		豊中市	豊中市庄内西町	庄内西町公園	0.016	
A8	H23	大阪府	門真市大橋町	門真市立大橋町公園	3.5	
A9		大阪市	大阪市東淀川区西淡路	日之出公園	0.040	
A10		東大阪市	東大阪市本庄中	本庄南公園	28	
A11	H22	大阪市	大阪市都島区毛馬町	大阪市立淀川小学校	0.43	
A12			大阪市淀川区野中北	大阪市立野中小学校	0.23	
A13		東大阪市	東大阪市新庄南	東大阪市立盾津中学校	0.0064	
A14	H21	大阪市	大阪市北区西天満	大阪市立西天満小学校	0.65	
A15			大阪市鶴見区中茶屋	中徳公園	0.41	

常時監視調査以外

単位：pg-TEQ/g

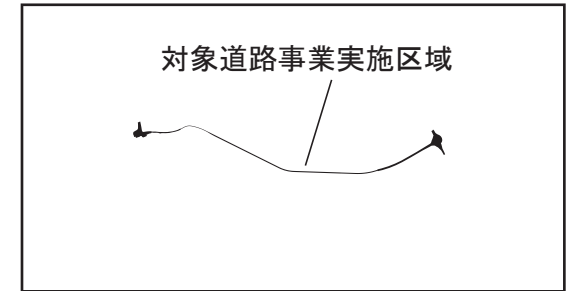
番号	調査年度	調査主体	所在地	地点名	測定値	環境基準値
a1	H25	大東市	大東市太子田	大東市立南郷小学校	0.40	1000 以下
a2		門真市	門真市柳町	柳町公園	11	
a3			門真市岸和田	弁天池公園	7.0	
a4			門真市三ツ島	下三ツ島公園	7.7	
a5	H24	大東市	大東市末広町	大東市立住道南小学校	2.5	
a6		守口市	守口市菊水通	菊水公園	13	
a7		門真市	門真市速見町	速見町公園	2.2	
a8			門真市打越町	東打越公園	7.2	
a9			門真市三ツ島	三ツ島公園緑地	3.6	
a10	H23	大東市	大東市大東町	大東市立氷野小学校	0.46	
a11		門真市	門真市月出町	月出町中央公園	0.31	
a12			門真市四宮	四宮1号公園	0.014	
a13			門真市舟田町	舟田町公園	5.2	
a14	H22	大東市	大東市浜町	大東市立住道北小学校	1.7	
a15		守口市	守口市大宮通	大宮中央公園	2.8	
a16		門真市	門真市月出町	門真市立月出町公園	9.3	
a17			門真市三ツ島	門真市立門真南公園	0.85	
a18			門真市東江端町	門真市立門真東2号公園	2.1	
a19	H21	寝屋川市	寝屋川市讃良東町	南寝屋川公園	14	
a20		大東市	大東市三箇	三箇小学校	3.1	
a21		門真市	門真市一番町	市立一番柳田町北1号緑地	0.095	
a22			門真市一番町	市立一番柳田町北1号公園	0.22	
a23			門真市岸和田	市立門真東1号公園	0.011	

出典：大阪府環境白書 平成22～26年版（平成22～26年12月、大阪府）



凡 例			
記号	名称	記号	名称
	砂州未熟土壌		細粒グライ土壌
	細粒灰色低地土壌		グライ土壌
	灰色低地土壌		緑地(公園・ゴルフ場など)
	粗粒灰色低地土壌		水面

凡 例		
記号	番号	名称
●	A1~15 a1~23	土壌のダイオキシン類調査地点
■	1~20	地盤沈下観測地点



1000m 0 1 2km
Scale 1:50,000

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）
大阪府環境白書 平成22～26年版（平成22～26年12月、大阪府）
大阪市統計書 地盤沈下量（平成26年5月、大阪市ホームページ）
平成25年 地盤沈下地下水位 観測年報（大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課）

図名 図4-1-7 土壌状況図

2) 地盤の状況

調査区域における地盤沈下量の観測地点を前掲の図 4-1-7 に、観測結果を表 4-1-14 に示します。

大阪市観測及び大阪府観測の過去 10 年間の地盤沈下量については、大きな隆起や沈降が見られず、概ね安定した状態にあります。

表 4-1-14 地盤沈下量の経年変化

大阪市観測

単位：mm

番号	所在地	平成 15年	平成 17年	平成 19年	平成 21年	平成 24年
1	大阪市北区中之島 1-1 (中之島公園観測所脇)	-1.5	-12.9	-5.5	-1.7	-1.7
2	大阪市北区長柄西 2-7 (長柄公園北東隅)	+0.5	-12.3	+2.8	-2.8	0.0
3	大阪市都島区東野田町 4-15-14 (東高等学校内)	-1.3	-8.7	+0.8	-2.3	-0.2
4	大阪市都島区都島本通 3-10-3 (都島小学校内)	-2.0	-5.3	+1.5	-1.5	-0.7
5	大阪市福島区大開 2-17-62 (西野田工業高等学校内)	-1.0	-9.5	+1.7	-1.5	+1.2
6	大阪市福島区海老江 8-1-10 (海老江西小学校内)	-2.5	-9.0	+0.5	-1.9	-1.3
7	大阪市中央区大阪城 3 (水道局大手前配水ポンプ場脇)	+2.2	-0.1	-1.0	+2.6	-2.2
8	大阪市中央区大手前 4-1 (大阪管区气象台敷地内)	+0.1	-0.5	+1.6	-2.1	-0.5
9	大阪市西区江戸堀 1-21-28 (西船場小学校内)	-0.9	-9.0	-1.6	-1.9	+2.4
10	大阪市淀川区十八条 2-4-3 (円宗寺内)	-0.1	-4.5	+2.7	-2.2	+3.5
11	大阪市淀川区三津屋中 1-4-14 (三津屋小学校内)	+1.2	-5.9	-1.1	-0.8	+2.0
12	大阪市東淀川区西淡路 3-14-11 (西淡路小学校内)	-3.5	-4.5	+2.0	-4.0	-0.8
13	大阪市旭区清水 5-1-12 (清水小学校内)	-0.8	-5.1	+7.6	+0.5	+2.3
14	大阪市旭区新森 6-3-13 (新森小路小学校内)	+0.9	-3.6	+7.7	+0.5	+3.5
15	大阪市城東区永田 4-4 (蓮乗寺内)	+1.4	-3.6	+8.0	+3.2	+4.5
16	大阪市城東区中央 3-8 (蒲生公園内蒲生観測所脇)	+6.3	+5.1	+12.0	+8.8	+24.4
17	大阪市鶴見区鶴見 3-11-30 (願正寺内)	+0.5	-5.8	+8.2	-0.4	+3.0
18	大阪市鶴見区横堤 5-13-61 (茨田西小学校内)	-4.6	-5.1	+9.4	-1.4	+0.8

注1) 観測時期は平成15～19年は10月～翌3月、平成21年は11月～翌年3月、平成24年は翌年1月～3月。

注2) 観測原点は基21号(国土地理院基準水準点)大阪府茨木市、標高はTP+64.1235(昭和28年成果の平均計算値)です。

注3) 数値は各水準点の前年の基21号に対する高さからの沈下を「-」で表し、隆起を「+」で表しています。

出典：大阪市統計書 地盤沈下量(平成26年5月、大阪市ホームページ)

大阪府観測

単位：mm

番号	観測所名	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年
19	豊中	(+0.37)	-1.05	-0.30	+0.15	-0.19	+0.26	+0.10	-0.16	+0.08	-0.06
20	南郷	-1.66	(-2.10)	-1.83	-1.56	-1.05	-0.99	-1.06	-1.61	-0.15	-1.21

注1) 数値は各水準点の前年の基21号に対する高さからの沈下を「-」で表し、隆起を「+」で表しています。

注2) () 内の数値は欠測を含むデータを示します。

出典：平成25年地盤沈下地下水観測年報(大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課)

3) その他の状況（地下水の状況）

調査区域における地下水位の測定地点は図 4-1-8 に、水位の状況は表 4-1-15 に示すとおりです。

表 4-1-15 井戸の水位状況

大阪市観測

単位：m

観測井	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年
1 十三	5.38	5.6	6.01	6.27	6.43	6.19	5.95	5.67	5.47	5.47
2 中之島A	4.86	5.22	5.77	6.01	6.08	5.79	5.44	5.11	4.96	4.99
	中之島B	6.03	6.23	6.53	7.11	7.39	7.08	6.73	6.55	6.26
3 蒲生	7.75	7.73	7.72	7.74	7.61	7.55	7.19	6.84	6.39	6.22
4 柴島	6.89	6.84	6.88	7.03	7.11	7.12	6.98	6.62	6.42	6.31
5 馬場町(Ⅱ)	31.37	31.07	30.93	31.13	31.39	31.42	31.14	30.84	30.41	30.17

注) 地下水位（年平均値）は、観測井戸の管頭から地下水面までの距離で、観測する帯水層の水圧変動を水位変動として間接的に観測しています。

出典：地下水位観測井の概要及び地下水位観測結果（平成15年～平成24年）（大阪市ホームページ）

大阪府観測

単位：m

観測井	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	
6 豊中	5.05	5.5	5.68	5.70	5.46	5.16	4.82	4.64	4.61	4.52	
7 庭窪	庭窪 1-1	9.50	9.1	8.82	8.57	8.33	7.97	7.63	7.32	7.06	6.94
	庭窪 1-2	9.86	9.47	9.14	8.82	8.55	8.15	7.78	7.46	7.23	7.11
	庭窪 1-3	11.74	11.68	11.82	11.58	11.20	10.82	10.51	9.94	9.61	9.38
8 南郷	10.88	10.66	10.27	9.98	9.52	8.64	8.39	8.22	8.02	8.07	
9 鴻池	鴻池 1	12.65	12.57	12.36	12.08	11.85	11.8	10.88	10.69	10.69	10.79
	鴻池 2	9.11	8.76	8.49	8.22	7.98	7.59	7.16	6.85	6.68	6.55

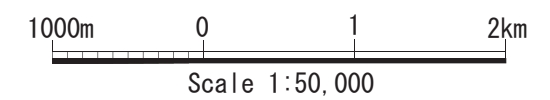
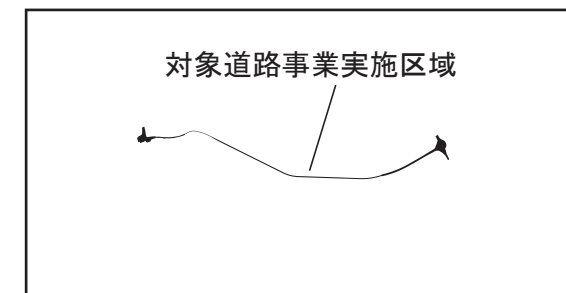
注) 地下水位（年平均値）は、観測井戸の管頭から地下水面までの距離で、観測する帯水層の水圧変動を水位変動として間接的に観測しています。

出典：平成25年 地盤沈下地下水位 観測年報（大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課）



凡 例		
記号	番号	名称
●	1~9	地下水水位観測地点

出典：大阪市資料
 平成25年地盤沈下地下水水位観測年報
 (大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課)



図名

図4-1-8 地下水水位観測地点位置図

1.4 地形及び地質の状況

1) 地形の区分及び分布状況

調査区域の地形の概況は、表 4-1-16 及び図 4-1-9 に示すとおりです。

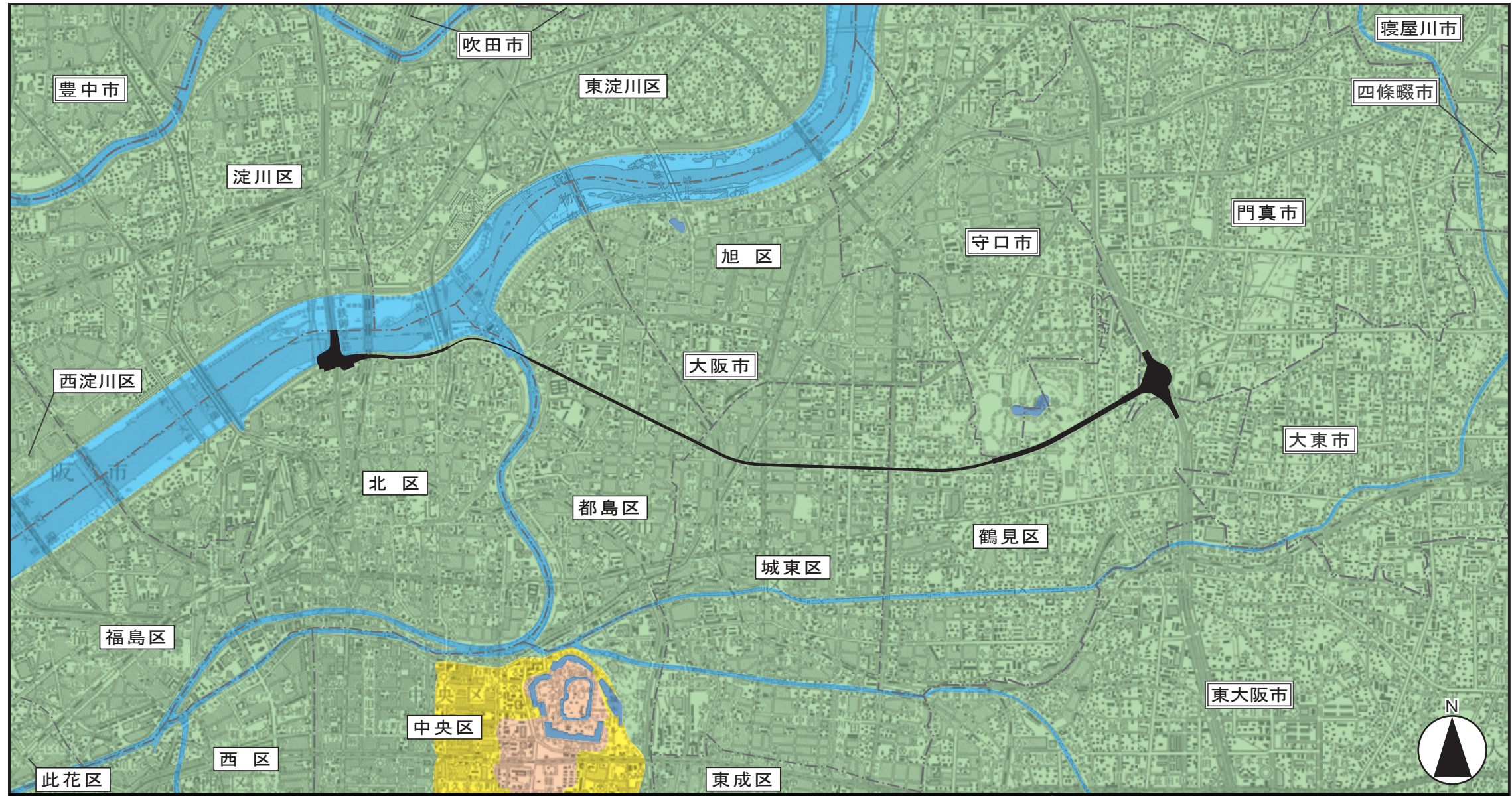
調査区域の大部分は、淀川水系により形成された三角州であり、大阪城の周辺に分布する丘陵地と砂礫台地からなる上町台地により、西大阪平野と東大阪平野に分けられます。





大阪市東部を南北に走る上町台地は、標高 10～20m、幅 1～2 km、長さ約 11 km で、大和川を越えて信太山台地に続き、大阪城はその北端にあたります。大阪湾に面した西大阪平野は、淀川三角州からなり、その上に江戸時代中期からの新田開発や埋立による市街地造成が行われてきました。都島区毛馬から下流の淀川は明治時代末に開削されたもので、大阪市の中心部を流れる大川、土佐堀川、堂島川などはその旧流路で、河口近くで、安治川、木津川などが分流しています。上町台地と生駒山地に挟まれた東西 10 km、南北 20 km の東大阪平野は、淀川の後背湿地で、南から旧大和川扇状地や三角州の進出により埋め立てられたものです。

表 4-1-16 地形及び地域区分一覧表

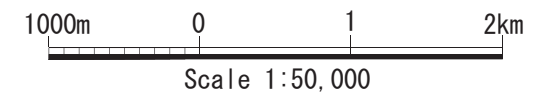
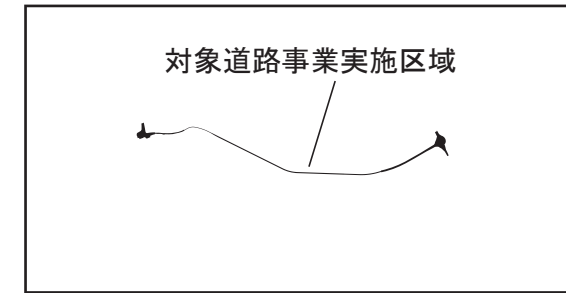
地形の区分	主な地域区分
台地	上町台地
低地	西大阪平野 東大阪平野

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）



凡 例	
記号	名称
	丘陵地Ⅱ
	砂礫台地
	三角州
	河川等

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）



図名

図4-1-9 地形の状況図(地形分類図)

2) 地質の区分及び分布状況

調査区域の表層地質の概況は、表 4-1-17、図 4-1-10 及び図 4-1-11 に示すとおりです。

調査区域の大部分は沖積層の砂と泥（未固結堆積物）からなります。沖積層は、縄文海進で堆積したもので、東大阪平野や淀川低地北部にまで達しています。

大阪城の周辺には、段丘層に相当する礫が分布しています。段丘層は高度により低・中・高に区分されていますが、大阪城の周辺には、低位段丘と中位段丘が分布しています。低位段丘に相当する礫層は、天満層と呼ばれ、厚さは 15～20m で上部は砂礫で下部は海成粘土です。この砂礫層は、N 値が 50 を超え、大阪における構造物の基礎地盤として重要です。中位段丘に相当する礫層の岩相は低位のものと類似しますが、やや、粒径が小さくなっています。

調査区域の地下には、大阪層群と呼ばれる、鮮新・更新統の礫・砂・粘土層からなる未固結堆積物が分布しています。

また、調査区域には、図 4-1-10 に示すとおり活断層として上町断層帯が分布しています。

表 4-1-17 地質系統

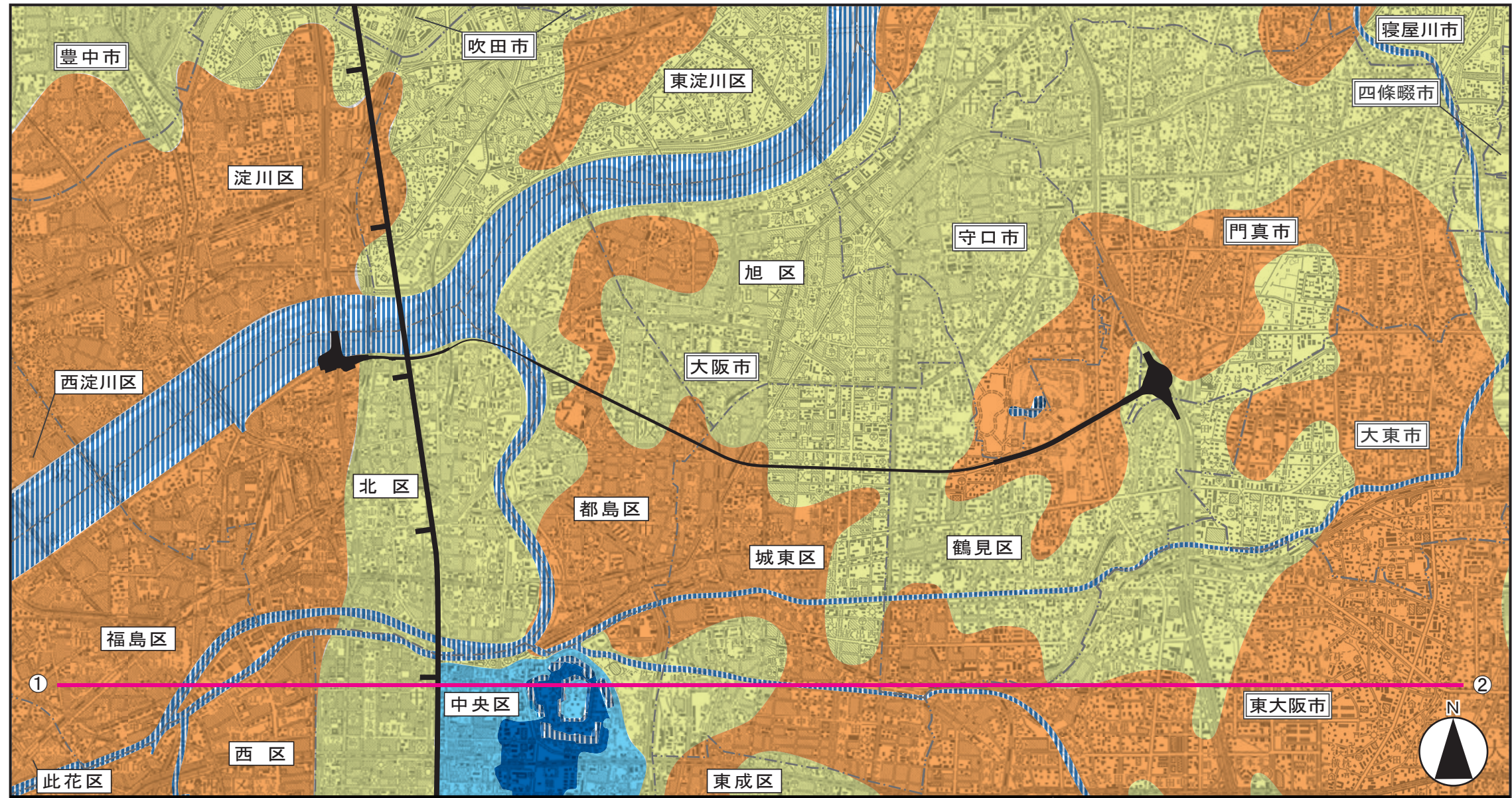
地質年代		主な地層名	主な岩質	厚層
新生代 第四紀	完新世	沖積層	砂と泥	20m 以上
	更新世 (最新世)	低位段丘	礫	5m 内外
		中位段丘		
		大阪層群	泥及び砂 砂礫及び泥	200～300m

出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）

3) 学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質の分布及び概況

調査区域には、学術上又は希少性の観点から重要な地形及び地質は分布していません。

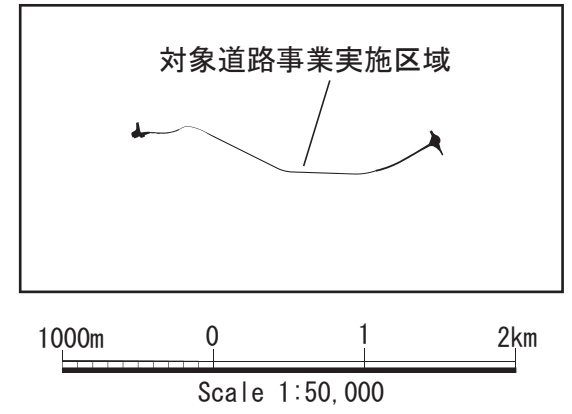
なお、「淀川のわんど」については、「日本の地形レッドデータブック第1集 新装版 一危機にある地形―」（平成12年12月、小泉武栄・青木賢人編）においてランクCに指定されていますが、調査区域にその分布域はありません。



凡 例		
記号	名 称	
	砂	沖積層
	泥	
	礫(低位)	段丘層
	礫(中位)	
	水面	その他

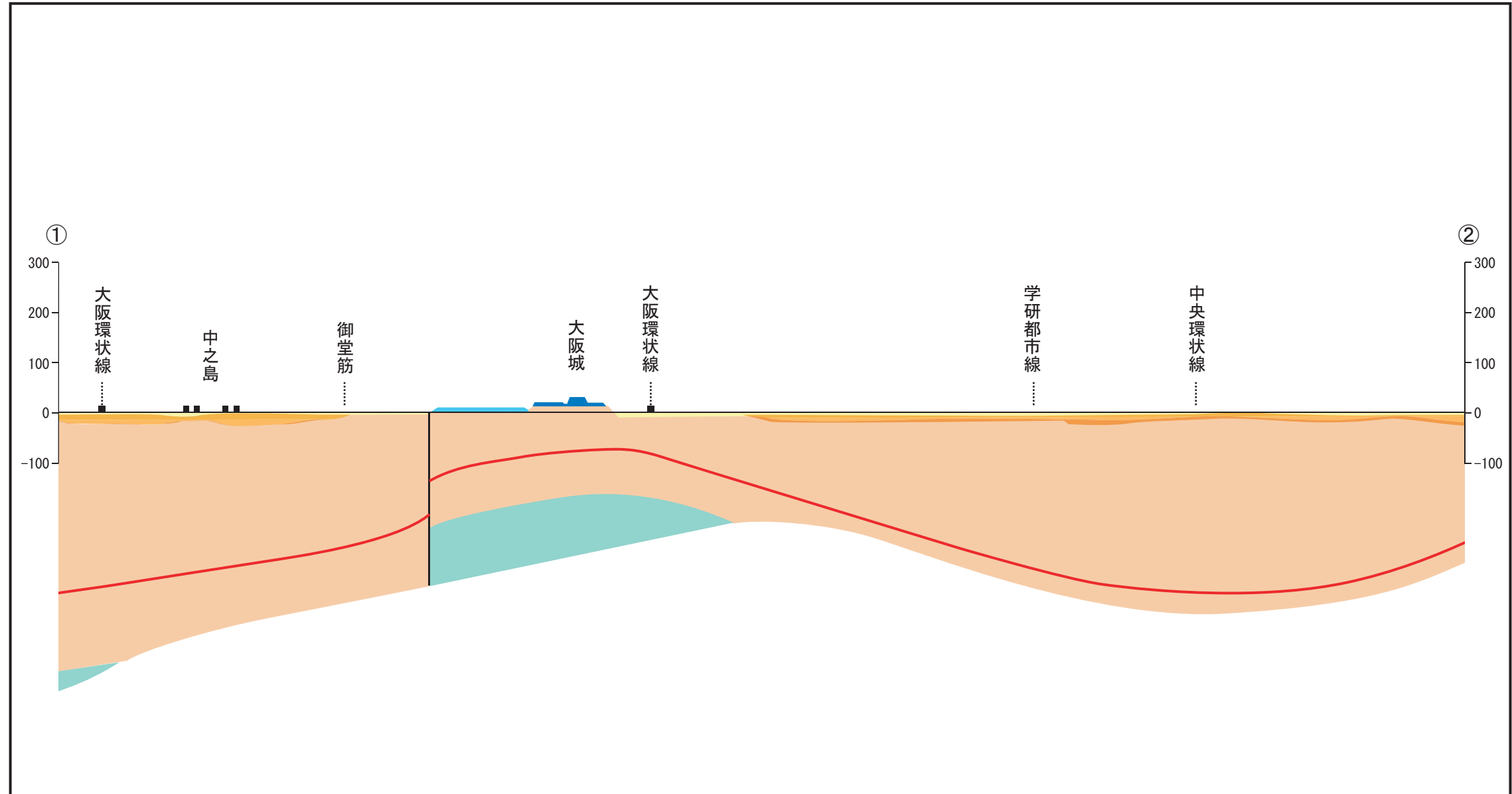
凡 例	
記号	名 称
	上町断層帯
①—②	断面線

注) 断面線は図4-1-11に対応しています。



出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）
 上町断層帯の長期評価について（平成16年3月、地震調査研究推進本部 地震調査委員会）

図名 図4-1-10 地質の状況図(表層地質図)



凡		例	
記号	名称	記号	名称
■ (Yellow)	砂	■ (Light Orange)	大阪層群
■ (Orange)	泥		
■ (Light Blue)	礫(低位)	■ (Teal)	砂礫及び泥
		■ (Dark Blue)	礫(中位)
	沖積層	〰 (Red wavy)	アズキ火山灰層
	段丘層	— (Black)	断層

注) 本図は図4-1-10に示した①—②の断面を示したものです。
 出典：土地分類基本調査 大阪西北部、大阪東北部（昭和53年3月、大阪府）

図名 図4-1-11 地質の状況図(地質断面図)

1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1) 収集文献資料

調査区域における動植物の生息・生育状況と植生及び生態系の状況については、表 4-1-18(1)～(2)に示す文献資料を基に整理しました。

表 4-1-18(1) 文献資料一覧

番号	文献資料名
1	第1回自然環境保全調査 1/20万すぐれた自然図(昭和51年、環境庁)
2	第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 大阪府(昭和56年、環境庁)
3	第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府(平成元年、環境庁)
4	第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 哺乳類・両生類・爬虫類・淡水魚類・昆虫類・陸産及び淡水産貝類(平成5年)(環境省生物多様性センターホームページ)
5	第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府(平成7年、環境庁)
6	第5回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 哺乳類・両生類・爬虫類・淡水魚類・昆虫類・陸産及び淡水産貝類(平成13～14年)(環境省生物多様性センターホームページ)
7	第6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 哺乳類(平成16年)(環境省生物多様性センターホームページ)
8	第6回自然環境保全基礎調査 鳥類繁殖分布調査(平成16年)(環境省生物多様性センターホームページ)
9	第6回第7回自然環境保全基礎調査 植生調査(平成11年以降)(環境省生物多様性センターホームページ)
10	第7回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査(アライグマ生息情報収集)(平成18年)(環境省生物多様性センターホームページ)
11	ガンカモ科鳥類の生息調査 大阪府 2000～2013年度調査結果(環境省生物多様性センターホームページ)
12	日本の重要な両生類・爬虫類(近畿版)(昭和57年、環境庁)
13	日本の重要な淡水魚類(近畿版)(昭和57年、環境庁)
14	日本の重要な昆虫類(近畿版)(昭和55、環境庁)
15	改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿2001-(平成13年、レッドデータブック近畿研究会)
16	大阪市立自然史博物館 第18回特別展 1991 淀川の自然(平成3年、大阪市立自然史博物館)
17	大阪けもの調査隊ほにゅ(平成12年以降)(大阪市立自然史博物館ホームページ)
18	大阪府昆虫類等生息現況調査報告書(平成5年、大阪府)
19	大阪府の蝶(平成17年、大阪昆虫同好会)
20	大阪府指定文化財一覧表(大阪府ホームページ)
21	国指定文化財等データベース(文化庁ホームページ)
22	東大阪市政だより(平成21年12月1日)(東大阪市ホームページ)
23	昆虫類の多様性保護のための重要地域 第3集(平成14年12月、日本昆虫学会自然保護委員会)
24	大阪府レッドリスト2014(平成26年3月、大阪府)
25	植物群落レッドデータ・ブック(平成8年、(財)日本自然保護協会)

表 4-1-18(2) 文献資料一覧

番号	文献資料名
26	平成 5 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
27	平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
28	平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
29	平成 6 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
30	平成 7 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 昆虫類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
31	平成 8 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
32	平成 9 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 鳥類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
33	平成 10 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
34	平成 11 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
35	平成 11 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
36	平成 12 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 昆虫類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
37	平成 13 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
38	平成 14 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
39	平成 15 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 鳥類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
40	平成 16 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
41	平成 16 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
42	平成 17 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 昆虫類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
43	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 鳥類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
44	平成 19 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 魚介類調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
45	平成 20 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 底生動物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
46	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 植物調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
47	平成 22 年度 河川水辺の国勢調査 淀川水系 基盤図調査結果 (河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) 国土交通省ホームページ)
48	平成 13~21 年度 河川水辺の国勢調査報告書 (国土交通省)

2) 動植物の生息又は生育の状況

文献その他資料により把握された調査区域における動植物相の状況は、表 4-1-19(1)～(2)に示すとおりです。

調査区域は市街化の進んだ地域であり、市街地や工場地帯、道路等の人工的な環境が大部分を占めます。一方で、淀川の城北ワンドに代表される動植物の良好な生息場所が存在するほか、大阪城公園や鶴見緑地といった比較的まとまりのある緑地も存在します。

動植物相は全体的に市街地のような人工的な環境が大部分を占めることを反映し、動物ではスズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが生息し、植物ではクスノキ、ナンキンハゼなどの植栽樹や、アメリカセンダングサ、セイヨウタンポポなどの外来植物が生育しています。一方、淀川では、ヨシ、セイタカヨシ、オギなどの河川に特徴的な種が生育しており、鳥類のカルガモやバン、昆虫類のクロイトトンボ、ヒヌマイトトンボ、クビキリギス、エサキアメンボ等の生息場所になっているほか、ワンドはギンブナ、モツゴ、スジエビ、ミナミヌマエビ等の魚介類の生息場所になっています。

表 4-1-19(1) 文献その他の資料により把握された動植物相の状況（動物相）

調査項目	確認種数	主な確認種	
哺乳類	4目7科10種	コウベモグラ、アブラコウモリ、タイワンリス、ハタネズミ、アカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、ヌートリア、アライグマ、タヌキ	
鳥類	15目36科114種	ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、バン、ユリカモメ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス等	
爬虫類	2目5科5種	クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、シマヘビ	
両生類	1目2科3種	ニホンアマガエル、ナゴヤダルマガエル、ウシガエル	
魚類	7目16科47種	コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、モツゴ、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）等	
昆虫類	13目146科593種	アオモンイトトンボ、ヒヌマイトトンボ、クロイトトンボ、ギンヤンマ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオカマキリ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、クビキリギス、ニシキリギリス、エンマコオロギ、マダラスズ、シバズ、トノサマバッタ、コバネイナゴ、クマゼミ、アブラゼミ、ウズラカメムシ、イチモンジカメムシ、アメンボ、エサキアメンボ、チャバネセセリ、ベニシジミ、ヤマトシジミ本土亜種、コムラサキ、ツマグロヒョウモン、ゴマダラチョウ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンキチョウ、モンシロチョウ、キアシヌレチゴミムシ、ナナホシテントウ、マクガタテントウ、ナミテントウ、コスナゴミムシダマシ、ヤナギルリハムシ、ハスジカツオゾウムシ、クロヤマアリ、セグロアシナガバチ等	
クモ類	1目19科74種	ジグモ、キョヒメグモ、ノコギリヒザグモ、ヒメアシナガグモ、ヨツボシショウジョウグモ、ハラクロコモリグモ、シボグモ、コフクログモ、ハナグモ等	
陸産貝類	1目3科6種	マルオカチョウジガイ、オカチョウジガイ、トクサカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ、コハクガイ、ナメクジ	
底生動物	渦虫綱	1目1科2種	ナミウズムシ、アメリカナミウズムシ
	腹足綱	4目10科21種	スクミリンゴガイ、オオタニシ、ヒメタニシ、クロダカワニナ、チリメンカワニナ、カワザンショウガイ、サカマキガイ等
	二枚貝綱	4目4科13種	マルドブガイ、トンガリササノハガイ、オグラヌマガイ、マツカサガイ、ヤマトシジミ、マシジミ等
	ゴカイ綱	2目2科2種	アシナガゴカイ、カニヤドリカンザシゴカイ
	ミミズ綱	1目1科5種	エラオイミズミミズ、エラミミズ、ビワヨゴレイトミミズ、フトゲユリミミズ、ユリミミズ
	ヒル綱	2目2科5種	ハバヒロビル、ヒラタビル、ミドリビル、アタマビル、ナミイシビル
	顎脚綱	1目1科4種	タテジマフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボ、ドロフジツボ
	軟甲綱	4目17科22種	キスイタナイス、フロリダマミズヨコエビ、ニッポンヨコエビ、ヒゲツノメリタヨコエビ、フサゲモクズ、ヒメハマトビムシ、ミズムシ、エビノコバン、イソコツブムシ、ヨツバコツブムシ、フナムシ、ミナミヌマエビ、ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、ユビナガホンヤドカリ、ヤマトオサガニ、クロベンケイガニ、アシハラガニ、モクズガニ、ケフサイソガニ
	昆虫綱	6目27科58種	アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、コオニヤンマ、マツモムシ、コガムシ等
被喉綱	1目3科4種	カンテンコケムシ、ヒメテンコケムシ、オオマリコケムシ、ヤハズハネコケムシ	

注1) 確認種数及び主な確認種は、調査区域における状況です。

注2) 文献その他の資料において正確な種名が特定できる記録のみ種数で計上しています。

表 4-1-19(2) 文献その他の資料により把握された動植物相の状況（植物相）

調査項目		確認種数	主な確認種	
植物 (維管束植物)	シダ植物	9科17種	スギナ、イワヒメワラビ、ワラビ、ベニシダ、ミゾシダ、ヒメシダ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビ、シケシダ等	
	裸子植物	2科2種	イチヨウ、コノテガシワ	
	被子植物	双子葉植物 離弁花類	45科195種	オニグルミ、アカメヤナギ、ジャヤナギ、コゴメヤナギ、ムクノキ、エノキ、アキニレ、カナムグラ、ヤナギタデ、ミゾソバ、スイバ、ギンギシ、オランダミミナグサ、ウシハコベ、クスノキ、マツモ、ノイバラ、メドハギ、カタバミ、ナンキンハゼ、アレチウリ、ヒシ、コマツヨイグサ等
		合弁花類	19科117種	ヘクソカズラ、アメリカネナシカズラ、オオバコ、ヘラオオバコ、ブタクサ、アメリカセンダングサ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、チチコグサ、アキノノゲシ、セイヨウタンポポ、オオオナモミ等
単子葉植物	17科129種	オオカナダモ、エビモ、ホテイアオイ、ツユクサ、メリケンカルカヤ、イヌムギ、ギョウギシバ、メヒシバ、アキメヒシバ、イヌビエ、チガヤ、オギ、ススキ、オオクサキビ、シマスズメノヒエ、チカラシバ、ヨシ、セイタカヨシ、マダケ、エノコログサ、マコモ、ボタンウキクサ、アオウキクサ、ウキクサ、ガマ、ミコシガヤ、カヤツリグサ等		
藻類	紅藻綱	2目2科2種	オバクサ、ホソアヤギヌ	
	緑藻綱	2目3科5種	ヒビミドロ、マキヒトエ、ヒラアオノリ、ウスバアオノリ、スジアオノリ	

注1) 確認種数及び主な確認種は、調査区域における状況です。

注2) 文献その他の資料において正確な種名が特定できる記録のみ種数で計上しています。

3) 動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況

重要な種及び注目すべき生息地の選定基準は、表 4-1-20(1)～(2)に示すとおりです。

文献その他の資料調査により把握された調査区域に生息する動物の情報を踏まえ、調査区域における動物の生息環境の保全を目的とした法令等に基づき抽出される学術上又は希少性の観点から重要な種（以下、「重要な種」といいます。）、並びに学術上又は希少性の観点から重要である生息地若しくは地域の象徴であること、その他の理由で注目すべき生息地（以下、「注目すべき生息地」といいます。）の把握を行いました。

表 4-1-20(1) 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号) 「東大阪市文化財保護条例」(昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014 1 哺乳類」 「レッドデータブック 2014 2 鳥類」 「レッドデータブック 2014 3 爬虫類・両生類」 「レッドデータブック 2014 6 貝類」 「レッドデータブック 2014 7 その他無脊椎動物」 (平成 26 年 9 月、環境省) 「レッドデータブック 2014 4 汽水・淡水魚類」 「レッドデータブック 2014 5 昆虫類」 (平成 27 年 2 月、環境省)	CR+EN：絶滅危惧 I 類 (絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧 IA 類 (ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) EN：絶滅危惧 IB 類 (IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧 (現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足 (評価するだけの情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群 (地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
④	「大阪府レッドリスト 2014」 (平成 26 年 3 月、大阪府)	絶滅：絶滅 (本府ではすでに絶滅したと考えられる種) I 類：絶滅危惧 I 類 (絶滅の危機に瀕している種) II 類：絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種) 準絶：準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種) 不足：情報不足 (評価するだけの情報が不足している種)
⑤	「近畿地区・鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発」 (平成 14 年、京都大学学術出版会)	繁殖個体群、越冬個体群、通過個体群、夏季滞在個体群 ランク 1：危機的絶滅危惧種 ランク 2：絶滅危惧種 ランク 3：準絶滅危惧種 ランク 4：要注目種 (特に危険なしの種を除く)

表 4-1-20(2) 注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号) 「東大阪市文化財保護条例」(昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号)	国指定特別天然記念物 国指定天然記念物 府指定天然記念物 市指定天然記念物
②	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(昭和 55 年 9 月 22 日条約第 28 号)	指定湿地
③	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	生息地等保護区(動物に係るもの)
④	「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(平成 4 年 9 月 28 日条約第 7 号)	自然遺産の登録基準に該当するもの
⑤	「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(平成 7 年、環境庁)に示された鳥類の集団繁殖地・集団ねぐら	地域の象徴であること等の理由により注目される生息地
⑥	「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」(平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会)	昆虫類の生物多様性保護の観点から選定された重要地域

(1) 動物の重要な種の状況

選定基準に基づいて抽出された動物の重要な種は、表 4-1-21～表 4-1-28 に示すとおりです。

文献その他の資料によると、哺乳類で 2 種、鳥類で 54 種、両生類で 1 種、魚類で 25 種、昆虫類で 32 種、クモ類で 1 種、底生動物で 46 種が抽出されました。

抽出された重要な種のうち、確認位置がわかるものを図 4-1-12 に示しました。

表 4-1-21 動物の重要な種の確認状況

調査項目	確認状況		
	目	科	種
哺乳類	1 目	1 科	2 種
鳥類	11 目	22 科	54 種
爬虫類	—	—	—
両生類	1 目	1 科	1 種
魚類	5 目	8 科	25 種
昆虫類	6 目	15 科	32 種
クモ類	1 目	1 科	1 種
陸産貝類	—	—	—
底生動物	11 目	23 科	46 種

注) 調査区域全域における確認状況です。

表 4-1-22 重要な哺乳類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	ネズミ	ネズミ	ハタネズミ	27, 31, 37, 48				I 類
2			カヤネズミ	17, 37, 48				準絶
1 目 1 科 2 種					0	0	0	2

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号2, 4, 6, 7, 10, 17, 27, 31, 37, 48を使用しました。

表 4-1-23(1) 重要な鳥類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
1	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	43, 48					繁殖:ランク3
2	コウノトリ	サギ	ササコイ	8, 37, 39, 43, 48					繁殖:ランク3
3			アマサギ	37, 43				II類	
4			チュウサギ	43			NT		繁殖:ランク3
5	カモ	カモ	オシドリ	11, 43			DD		繁殖:ランク3
6			マカモ	11, 37, 43, 48					繁殖:ランク3
7			トモエカモ	11, 43			VU		越冬:ランク3
8			ヨシカモ	11, 43					越冬:ランク3
9			アメリカヒドリ	11, 43					越冬:ランク3
10			アカハシロ	11, 43				DD	越冬:ランク3
11			ホオジロカモ	11, 43					越冬:ランク3
12			ミコアイサ	11, 43					越冬:ランク3
13			カワアイサ	43					越冬:ランク3
14			タカ	タカ	ミサコ	43			NT
15	オオタカ	43				国内	NT	準絶	繁殖:ランク3
16	ハイタカ	43						NT	繁殖:ランク4
17	ノスリ	39, 43							準絶 越冬:ランク3
18	サシバ	8, 43						VU	I類 繁殖:ランク2
19	ハヤブサ	ハヤブサ		43		国内	VU		繁殖:ランク3
20		チョウゲンボウ		43					越冬:ランク3
21		ツル		クイ	ヒクイ	43			NT
22			オオバン	43, 48					繁殖:ランク3
23	チドリ	チドリ	コチドリ	8, 43, 48				準絶	繁殖:ランク3
24			イカルチドリ	39, 43				II類	繁殖:ランク3
25			ケリ	8, 43, 48				DD	準絶
26		シギ	クサシギ	43				準絶	越冬:ランク3
27			キアシシギ	43				準絶	通過:ランク3
28			イソシギ	37, 43				準絶	繁殖:ランク2
29			チュウシャクシギ	37				準絶	通過:ランク3
30		カモメ	ウミネコ	39					繁殖:ランク4
31			コアシサシ	5, 43, 48		国際	VU	I類	繁殖:ランク2
32		カッコウ	カッコウ	カッコウ	8, 43				
33	ツツドリ			43				準絶	繁殖:ランク3
34	ホトキス			8, 43					繁殖:ランク3
35	フクロウ	フクロウ	コミズク	39				II類	越冬:ランク2
36			フクロウ	8, 43				準絶	繁殖:ランク3
37	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	43				準絶	繁殖:ランク3
38			カワセミ	8, 37, 43, 48					繁殖:ランク3
39	キツキ	キツキ	アオケラ	8, 43					繁殖:ランク3

表 4-1-23 (2) 重要な鳥類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
40	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	8, 37, 39, 3, 48				準絶	
41		ツバメ	コシアカツバメ	8, 43				準絶	
42		セキレイ	ヒンスイ	43					繁殖:ランク 4
43		レンジャク	ヒレンジャク	43					越冬:ランク 4
44		ツグミ	ヒタキ	39					繁殖:ランク 3
45		ウグイス	オオヨシキリ	8, 37, 39, 43, 48				準絶	繁殖:ランク 3
46			センダイムシクイ	8, 43				準絶	繁殖:ランク 3
47			セッカ	8, 37, 39, 43, 48				準絶	
48		ヒタキ	キヒタキ	8, 43					繁殖:ランク 3
49			オオルリ	8, 43					繁殖:ランク 3
50		カササギヒタキ	サコウチョウ	8, 43					繁殖:ランク 3
51		ホオジロ	カンラダカ	37, 43				準絶	
52			ミヤマホオジロ	43				準絶	越冬:ランク 3
53			アオジ	37, 39, 43					繁殖:ランク 3
54			オオジュリン	37, 39, 43, 48				準絶	
合計 11 目 22 科 54 種					0	3	12	25	47

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号5, 8, 11, 32, 37, 39, 43, 48を使用しました。

表 4-1-24 重要な両生類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	無尾	アカガエル	ナコヤダルマガエル	2, 12			EN	I 類
1 目 1 科 1 種					0	0	1	1

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号2, 4, 6, 12, 27, 31, 37, 48を使用しました。

表 4-1-25 重要な魚類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	
1	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	4, 6, 16, 44, 48			EN		
2			ヤリタナゴ	2, 4, 6, 13, 16			NT	I類	
3			イモシタナゴ	4, 6, 16			CR	I類	
4			イセナハラ	2, 13, 16	天然	国内	CR	I類	
5			シロヒレヒラ	4, 6, 16, 44, 48			EN	I類	
6			ワカ	4, 6, 16, 44, 48			CR	I類	
7			カハタモロコ	16			EN	I類	
8			ハス	4, 6, 16, 44, 48			VU	準絶	
9			カワカガイ	4, 6, 16, 44, 48			NT	I類	
10			ムギツク	4, 6				II類	
11			タモロコ	4, 6, 16, 28, 44, 48				準絶	
12			ホノモロコ	4, 6, 16			CR		
13			ゼゼラ	4, 6, 16, 28, 34, 44, 48			VU	II類	
14			ツチアキ	4, 6, 16			EN	I類	
15			テメモロコ	16			VU	不足	
16			スコモロコ	4, 6, 16			VU		
17			トシヨウ	アユトキ	2, 4, 6, 13	天然	国内	CR	I類
18				シマトシヨウ	4, 6, 16				準絶
19	ナマス	ギギ	ギギ	4, 6, 16, 28, 34, 44, 48				準絶	
20		ナマス	ナマス	6, 44, 48				準絶	
21	サケ	アユ	アユ	4, 6, 16				準絶	
22		サケ	サツキマス	4, 6			NT	不足	
23	ダツ	メダカ	ミナメダカ	4, 6, 16			VU	II類	
24	スズキ	ハゼ	ウキコリ	6, 16				準絶	
25			旧トウヨシホリ	6, 28, 34, 44, 48				不足	
合計 5 目 8 科 25 種					2	2	17	22	

注) 旧トウヨシホリのランクはトウヨシホリのものを示します。

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号2, 4, 6, 13, 16, 28, 34, 40, 44, 48を使用しました。

表 4-1-26 重要な昆虫類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	トンボ	イトトンボ	キイトンボ	4, 6, 42, 48				準絶
2			ヘニイトンボ	6, 42, 48			NT	準絶
3			ヒヌマイトンボ	1, 18, 23			EN	I 類
4			セスジイトンボ	6, 36, 42, 48				準絶
5		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	6			NT	II 類
6			アオヤンマ	4, 6			NT	II 類
7			マルタンヤンマ	4, 6, 42, 48				準絶
8		サナエトンボ	ミヤマサナエ	6				II 類
9			ホソサナエ	23				II 類
10			ウチワヤンマ	6				準絶
11			オオサカサナエ	6, 23			VU	II 類
12			メカネサナエ	6, 23			VU	II 類
13			トンボ	コフキトンボ	4, 6, 42, 48			
14		ヨツボシトンボ		6				準絶
15		ナツアカネ		6, 42, 48				準絶
16		アキアカネ		6, 36				準絶
17		ノシメトンボ		6, 30, 36, 42, 48				準絶
18		マイコアカネ		6, 30, 36				準絶
19	ハサミシ	マルムネハサミシ		コヒゲシロハサミシ	42, 48			I 類
20	カメシ	サシガメ	オオシナガサシガメ	36			NT	
21		アメンボ	エサキアメンボ	6, 23, 42, 48			NT	II 類
22			ヤスマツアメンボ	6				準絶
23	チョウ	トクガ	スゲトクガ	42, 48			NT	準絶
24		ヤガ	ヌマヘウスキョトリ	36			VU	準絶
25	コウチュウ	オサムシ	ハマヘミスギワコシムシ	42, 48				準絶
26		ハンミョウ	ヨトシロヘリハンミョウ	6			VU	絶滅
27		コガネムシ	ヒゲコガネ	23				II 類
28		テントウムシ	ジュウクホシテントウ	23, 30, 36				準絶
29			ジュウサンホシテントウ	23, 42, 48				準絶
30			クロスジチャイロテントウ	23, 36				準絶
31		ツチハンミョウ	キュウシュウツチハンミョウ	23				準絶
32	ハチ	スズメハチ	モンズメハチ	36, 42, 48			DD	
合計 6 目 15 科 32 種					0	0	12	30

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号1, 2, 4, 6, 14, 16, 18, 19, 23, 30, 36, 42, 48を使用しました。

表 4-1-27 重要なクモ類の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	クモ	ジグモ	リスナグモ	42, 48			NT	II 類
1 目 1 科 1 種					0	0	0	1

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-20(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号30, 36, 42, 48を使用しました。

表 4-1-28 重要な底生動物の記録状況

No.	目名	科名	種名	文献資料	選定基準				
					①	②	③	④	
1	原始紐舌	タニシ	オオタニシ	4, 6, 16			NT	Ⅱ類	
2	盤足	カリナ	ハベカリナ	28, 45, 48				準絶	
3			イホカリナ	4, 6, 45, 48			NT	Ⅱ類	
4			ナカセコカリナ	4, 6			CR+EN	絶滅	
5			ヤマトカリナ	4, 6			NT	Ⅰ類	
6			クロダカリナ	4, 6, 16, 45, 48			NT	Ⅱ類	
7			カリサ ^ン ショウガイ	カリサ ^ン ショウガイ	4, 6, 16				準絶
8		エゾマメタニシ	マメタニシ	4, 6			VU	Ⅰ類	
9	基眼	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	4, 6			DD		
10			モノアラガイ	4, 6, 45, 48			NT	Ⅰ類	
11		ヒラマキガイ	ヒラマキミスマイマイ	4, 6			DD		
12			クルマヒラマキガイ	6			VU	不足	
13	柄眼	オカモノアラガイ	ナカオカモノアラガイ	4, 6			NT	準絶	
14	イシガイ	イシガイ	マルトブガイ	4, 6			VU	Ⅱ類	
15			トブガイ	4, 6, 16, 45, 48				Ⅱ類	
16			オハエホシガイ	16			VU	Ⅰ類	
17			トンガリサノハガイ	4, 6, 16			NT	Ⅱ類	
18			オグラヌマガイ	4, 6, 16			CR+EN	Ⅰ類	
19			マツカサガイ	4, 6, 16			NT	Ⅱ類	
20			イシガイ	6, 16, 45, 48				準絶	
21	マルスタレガイ	シジミ	ヤマトシジミ	4, 6, 16			NT	準絶	
22			マシジミ	4, 6, 16			VU	Ⅱ類	
23			セタシジミ	4, 6			VU	Ⅰ類	
24	吻蛭	グロシフォニ	ミドリヒル	45, 48			DD		
25	ワラジムシ	コツブムシ	ヨツバコツブムシ	16				準絶	
26	トンボ	イトトンボ	キイトンボ	16				準絶	
27			セスジイトトンボ	16				準絶	
28		ヤンマ	アオヤンマ	16			NT	Ⅱ類	
29		サナエ	ホンサナエ	41, 45, 48				Ⅱ類	
30			ウチワヤンマ	16				準絶	
31			オオサカサナエ	16			VU	Ⅱ類	
32			メカネサナエ	16			VU	Ⅱ類	
33		エゾトンボ	トラフトンボ	41, 45, 48				準絶	
34		トンボ		コフキトンボ	16, 35, 45, 48				準絶
35				ナツアカネ	16				準絶
36				アキアカネ	16				準絶
37				ノシメトンボ	16				準絶
38				マイコアカネ	16				準絶
39	カメムシ			アメンボ	エサキアメンボ	16			NT
40		ミスカメムシ	ムモンミスカメムシ		16			準絶	
41		コオイムシ	タガメ		16			VU	Ⅱ類
42		タイコウチ	ミスカマキリ		16				準絶
43			ヒメミスカマキリ		16				準絶
44	コウチュウ	ゲンゴロウ	ルイスツブゲンゴロウ	16			VU	Ⅱ類	
45			ミススマシ	オオミススマシ	16			NT	Ⅱ類
46			カムシ	コカムシ	16			DD	準絶
合計 11 目 23 科 46 種					0	0	27	40	

選定基準：選定基準（選定基準番号）及び空白は表4-1-20(1)に示します。
 出典：文献資料は表4-1-18の番号4, 6, 16, 28, 29, 35, 41, 45, 48を使用しました。

(2) 注目すべき生息地の状況

調査区域において、法令、条例及び条約により指定された注目すべき生息地はありません。

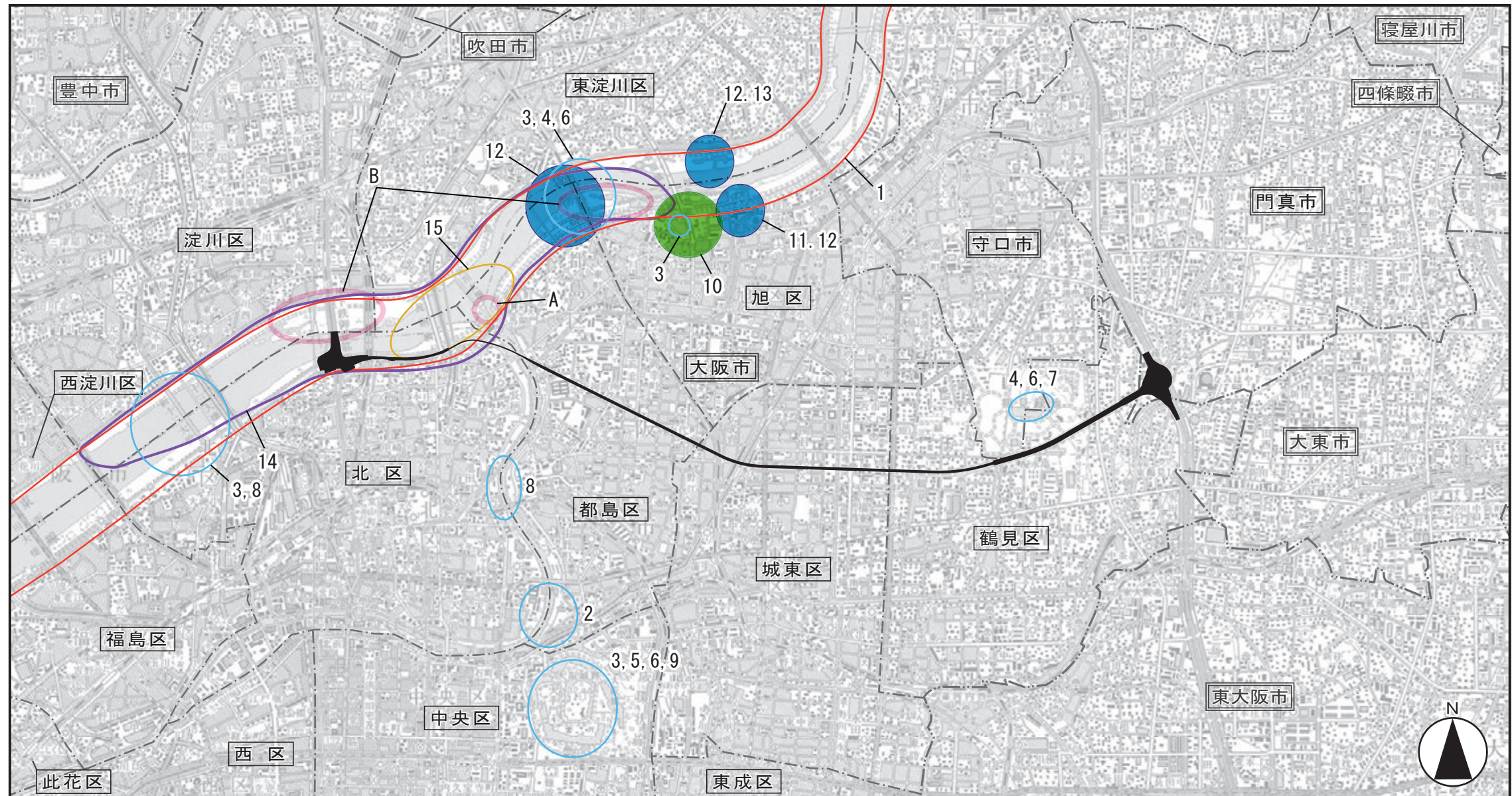
なお、表 4-1-29 に示すとおり、「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」(平成 7 年、環境庁)において、「コアジサシの集団繁殖地」が記録されています。また、「昆虫類の多様性保護のための重要地域第 3 集」(平成 14 年 12 月、日本昆虫学会自然保護委員会)において「淀川」が記載されており、淀川区の西中島・旭区城北公園北のワンド群(左岸)を重要地域としています。

注目すべき生息地の分布を図 4-1-12 に示します。

表 4-1-29 注目すべき生息地の状況

番号	注目すべき生息地	所在	概要
A	コアジサシの集団繁殖地	大阪市東淀川区	調査年月日：平成 4 年 6 月 18 日 環境種類：中州 面積：500m ² 地形：平地 個体数：10～19 羽
B	淀川(西中島・城北公園北のワンド群)	大阪市淀川区、 大阪市旭区	淀川区西中島のヨシ原にはヒヌマイトトンボが広範囲にわたり生息している。城北公園の北側のワンド群や本流に近接したところは、トンボ類や水生昆虫が豊富である。

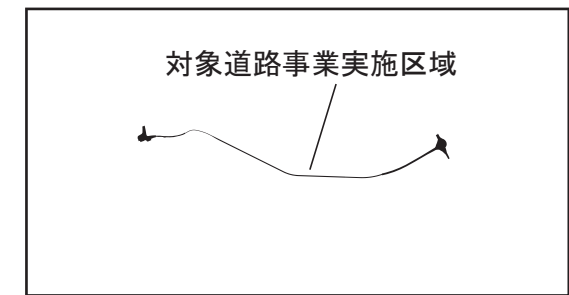
出典：文献資料は表4-1-18の番号5, 23を使用しました。



凡 例											
区分	記号	番号	名称・種名	区分	記号	番号	名称・種名	区分	記号	番号	名称・種名
哺乳類	○	1	カヤネズミ	鳥類	○	7	アカハジロ	魚類	●	13	アユモドキ
鳥類	○	2	オシドリ			8	ホオジロガモ	昆虫類	○	14	ヒヌマイトンボ
		3	マガモ			9	ミコアイサ	底生動物	○	15	マシジミ
		4	トモエガモ	両生類	●	10	ナゴヤダルマガエル	注目すべき生息域	●	A	コアジサシの繁殖地
		5	ヨシガモ	魚類	●	11	ヤリタナゴ			B	淀川(西中島・城北公園北のワンド群)
		6	アメリカヒドリ	12	イタセンパラ						

注) 重要種のうち確認位置がわかるもののみを記載。

- 出典：1：第1回自然環境保全調査 1/20万すぐれた自然図（昭和51年、環境庁）
 2：第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 大阪府（昭和56年、環境庁）
 5：第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府（平成7年、環境庁）
 11：ガンカモ科鳥類の生息調査 大阪府 2000～2013年度調査結果（環境省生物多様性センターホームページ）
 17：大阪けもの調査隊ほにゅ（平成12年以降）（大阪市立自然史博物館ホームページ）
 23：昆虫類の多様性保護のための重要地域 第3集（平成14年12月、日本昆虫学会自然保護委員会）
 48：平成13～21年度 河川水辺の国勢調査報告書（国土交通省）



図名

図4-1-12 重要な動物及び注目すべき生息地の分布

4) 植物の重要な種及び植物群落の状況

重要な種・群落の選定基準は、表 4-1-30(1)～(2)に示すとおりです。

文献その他の資料調査により把握された当該地域に生育する植物の情報を踏まえ、当該地域における植物の環境の保全を目的とした法令等に基づき抽出される学術上又は希少性の観点から重要な種及び群落（以下、「重要な種・群落」といいます。）の把握を行いました。

表 4-1-30(1) 重要な種の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号） 「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号） 「大阪市文化財保護条例」（平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号） 「東大阪市文化財保護条例」（昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号）	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014 8 植物 I」（平成 27 年 3 月、環境省） 「レッドデータブック 2014 9 植物 II」（平成 27 年 2 月、環境省）	CR+EN：絶滅危惧 I 類（絶滅の危機に瀕している種） CR：絶滅危惧 I A 類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） EN：絶滅危惧 I B 類（I A 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種） VU：絶滅危惧 II 類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの）
④	「大阪府レッドリスト 2014」（平成 26 年 3 月、大阪府）	絶滅：絶滅（本府ではすでに絶滅したと考えられる種） I 類：絶滅危惧 I 類（絶滅の危機に瀕している種） II 類：絶滅危惧 II 類（絶滅の危険が増大している種） 準絶：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） 不足：情報不足（評価するだけの情報が不足している種）
⑤	「改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿 2001ー」（平成 13 年、レッドデータブック近畿研究会）	絶滅：絶滅種（近畿地方では絶滅したと考えられる種） 近 A：絶滅危惧種 A（近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種） 近 B：絶滅危惧種 B（近い将来における絶滅の危険性が高い種） 近 C：絶滅危惧種 C（絶滅の危険性が高くなりつつある種） 近準：準絶滅危惧種（生育条件の変化によっては「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種）

表 4-1-30(2) 重要な植物群落の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年 3 月 28 日大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年 2 月 18 日大阪市条例第 5 号) 「東大阪市文化財保護条例」(昭和 47 年 11 月 15 日東大阪市条例第 30 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成 8 年、(財)日本自然保護協会)	保護上重要な群落として選定された植物群落 ランク 4：緊急に対策必要 ランク 3：対策必要 ランク 2：破壊の危惧 ランク 1：要注意
③	「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」(平成元年、環境庁)	特定植物群落のうち以下の区分に該当するもの A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沢地、池沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群
④	「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府」(平成 7 年、環境庁)	巨樹・巨木林

(1) 植物の重要な種の状況

植物の重要な種の確認状況は、表 4-1-31 及び表 4-1-32 に示すとおりです。

文献その他の資料によると、維管束植物で 18 種、藻類で 1 種の重要な種が抽出されました。

表 4-1-31 重要な植物種（維管束植物）の記録状況

No.	分類	科名	種名	文献資料	選定基準						
					①	②	③	④	⑤		
1	離弁花類	タテ	ホバ ^ハ イスタ ^テ	46, 48			NT	Ⅱ類	A		
2			ナカ ^ハ ノウキ ^ツ カミ	46, 48			NT	Ⅱ類	C		
3			サテ ^ク サ	26, 33, 38, 46, 47, 48					準絶	C	
4			ヌカ ^ホ タ ^テ	46				VU	Ⅱ類	C	
5		メギ	メギ	33					準絶		
6		トク ^タ ミ	ハン ^ケ ショウ	46, 48					準絶		
7		エキノ ^シ タ	タノ ^ア シ	46, 48				NT	準絶	C	
8		セリ	トク ^セ リ	15, 33					Ⅱ類	C	
9	合弁花類	ガ ^ガ イモ	コ ^ハ ノカ ^モ メ ^ツ ル	15, 26, 33, 38, 46, 47, 48					Ⅱ類	C	
10			シロ ^ハ ナ ^カ メ ^ツ ル	26						C	
11		ゴ ^マ ノハ ^ク サ	カ ^リ チ ^シ ヤ	46, 48				NT	準絶	準	
12		キク	ウ ^ラ ギ ^ク	46, 48				NT	準絶	準	
13	単子葉植物	カヤ ^ツ リ ^ク サ	ワ ^ン ト ^ス ゲ	16				VU	Ⅰ類	A	
14			ヤ ^カ ミ ^ス ゲ	16, 38, 46, 48						準絶	C
15			ミ ^コ シ ^ガ ヤ	16, 26, 33, 38, 46, 48						準絶	C
16			シ ^オ ク ^ク	33, 38, 46, 48						準絶	C
17			フ ^ト イ	26, 33, 46, 48						Ⅱ類	
18			マ ^ツ カ ^サ ス ^キ	26, 33						Ⅱ類	C
合計 9 科 18 種					0	0	7	17	15		

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-30(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号15, 16, 26, 33, 38, 46, 47, 48を使用しました。

表 4-1-32 重要な植物種（藻類）の記録状況

No.	分類	科名	種名	文献資料	選定基準			
					①	②	③	④
1	藻類	コノ ^ハ リ	ホ ^リ ア ^ヤ ギ ^ヌ	16			NT	準絶
合計 1 科 1 種					0	0	1	1

選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-30(1)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号16, 26, 33, 38, 46, 47, 48を使用しました。

(2) 重要な植物群落等の状況

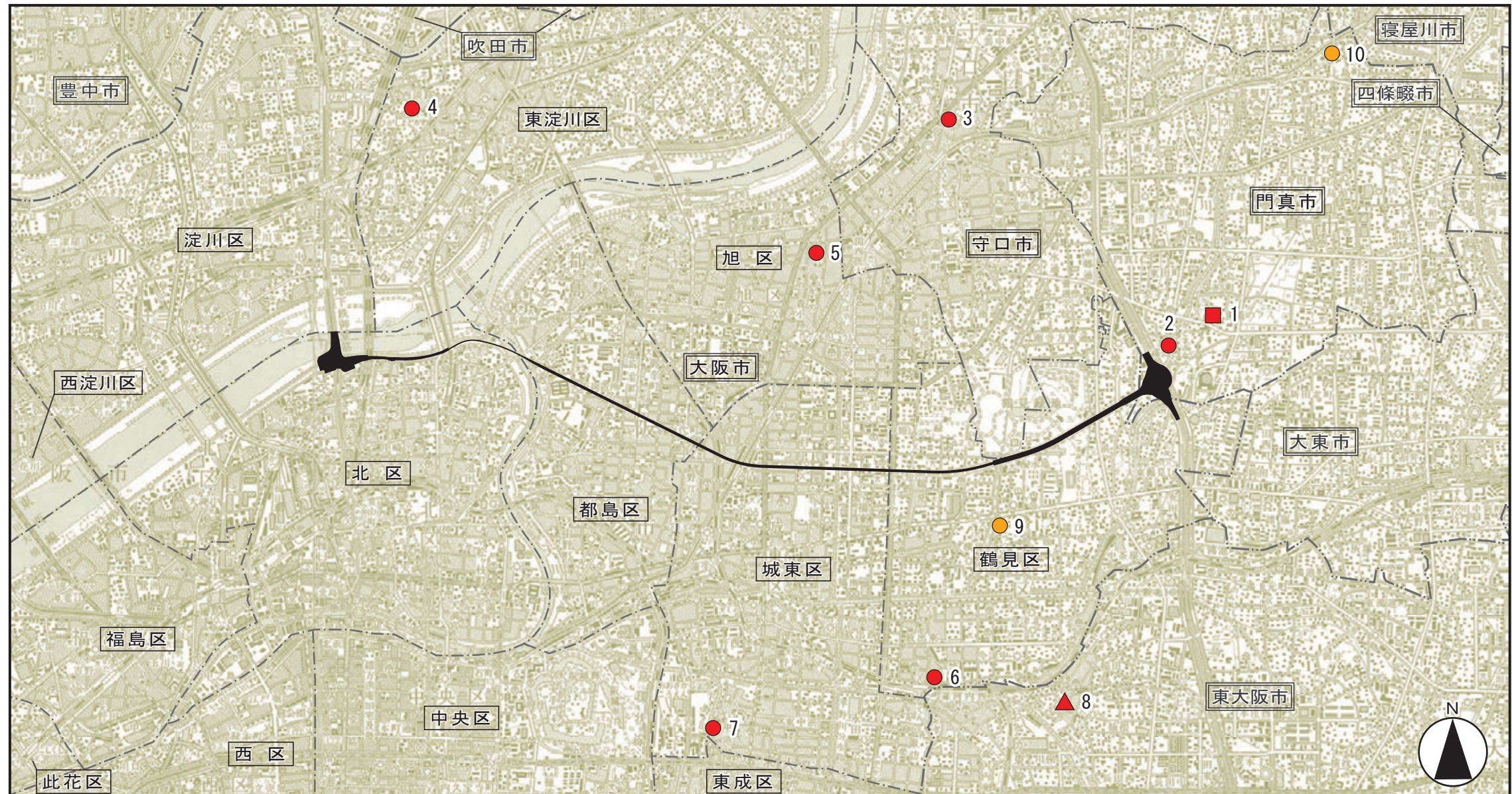
調査区域の重要な植物群落、国、大阪府又は関係市区の天然記念物に指定されている樹木等に該当するものは、表4-1-33に示すとおりです。重要な植物群落等のうち、分布場所がわかっている天然記念物及び巨樹を図4-1-13に示します。

表4-1-33 重要な植物群落等の記録状況

番号	群落名	所在	文献資料	選定基準			
				①	②	③	④
1	薫蓋クス	門真市	5, 20, 21	国天			○
2	葎島のくす	門真市	5, 20	府天			○
3	難宗寺のいちよう	守口市	20	府天			
4	須賀神社跡のくす	大阪市東淀川区	20	府天			
5	寶龍寺のくす	大阪市旭区	20	府天			
6	阿遲速雄神社のくす	大阪市鶴見区	20	府天			
7	白山神社のいちよう	大阪市城東区	20	府天			
8	稲田八幡宮のいちよう	東大阪市	20, 22	市天			
9	クスノキ(茨田横堤町)	大阪市鶴見区	5				○
10	クスノキ(上島)	門真市	5				○
11	オギ群落(オギ群集)	大阪市東淀川区	25		ランク2		
12	セイタカヨシ群落	大阪市淀川区	25		ランク3		
13	セイタカヨシ群落	大阪市東淀川区	25		ランク2		
14	ウキヤガラ-マコモ群集	大阪市淀川区	25		ランク3		
15	マコモ群落(ウキヤガラ-マコモ群集)	大阪市東淀川区	25		ランク2		
16	ヨシ群落(カモノハシ・ヨシ群落)	大阪市淀川区	25		ランク3		
17	ヨシ群落(カサスゲ群集及びヨシ群落)	大阪市東淀川区	25		ランク2		
18	シオクグ群集	大阪市淀川区	25		ランク3		
19	チガヤ・ヤマアワ群落	大阪市淀川区	25		ランク3		
20	豊里のヨシ・オギ群落	大阪市東淀川区	25		ランク2		
21	西中島の低湿地植物群落	大阪市淀川区	25		ランク3		

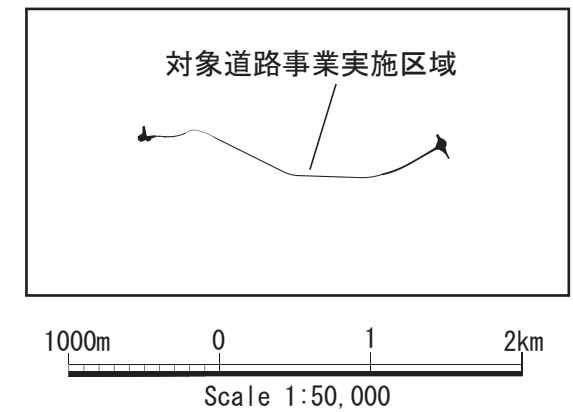
選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表4-1-30(2)に示します。

出典：文献資料は表4-1-18の番号3, 5, 15, 20, 21, 22, 25を使用しました。



凡 例			
記号	番号	名 称	備 考
■	1	薫蓋クス	国指定天然記念物
●	2	蔞島のくす	府指定天然記念物
	3	難宗寺のいちよう	
	4	須賀神社跡のくす	
	5	寶龍寺のくす	
	6	阿遅速雄神社のくす	
▲	7	白山神社のいちよう	市指定天然記念物
	8	稲田八幡宮のいちよう	
●	9	クスノキ(茨田横堤町)	巨樹・巨木林
	10	クスノキ(上島)	

注) 分布位置がわかるもののみを記載。
 出典：第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 大阪府 (平成7年、環境庁)
 大阪府指定文化財一覧表 (大阪府ホームページ)
 国指定文化財等データベース (文化庁ホームページ)
 東大阪市政だより (平成21年12月1日)
 (東大阪ホームページ)



図名

図4-1-13 重要な植物群落等の分布

5) 植生の状況

調査区域の植生の状況は、図 4-1-14 に示すとおりです。

調査区域の植生は、大半が市街地で植生のない範囲が広がっています。市街地の中で、まとまった樹林がみられるのは大阪城公園と鶴見緑地で、クスノキ、サクラ類などが植栽されています。また、旧淀川（大川）沿いにも植栽の樹林が連続して分布しています。

草地は全体的に少なく、淀川の河川敷やワンド沿いにヨシクラス、オギ群集などの水辺植生が分布しています。また、門真市や東大阪市では、水田雑草群落が市街地や工場地帯の中にパッチ状に分布しています。

6) 生態系の状況

(1) 生態系の状況の把握の手順

生態系の状況の把握の手順は、図 4-1-15 に示すとおりです。

生態系を構成する地形等に係る情報及び植生に係る情報の整理から、各構成要素の相互関係を解析し、自然環境の類型区分を行い、さらに類型区分の分布状況及び類型区分と動植物相の関連性を整理することにより、生態系の状況を把握しました。

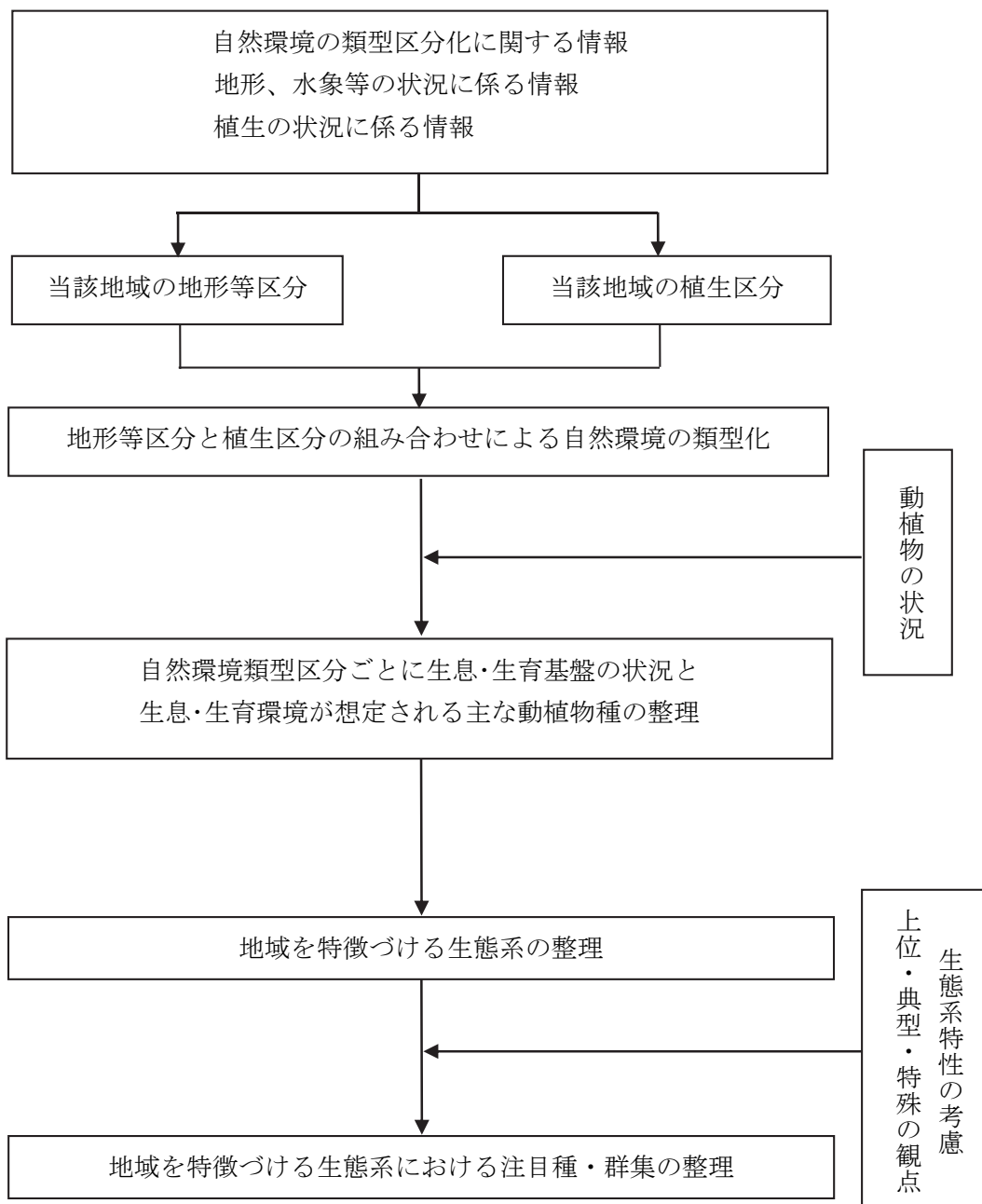


図 4-1-15 生態系の状況の把握の手順

(2) 自然環境の類型化に係る状況

① 地形等の区分について

調査区域の地形等の区分は、表 4-1-34 に示すとおりです。

地形等の区分にかかる情報は、「地形の概況」「地質の概況」「土壌の概況」及び「水象の概況」より把握し、2 種類に区分しました。

「低地」の地形は、三角州が大半を占めており、一部に丘陵地や砂礫台地が分布しています。地質は、沖積層が大部分を占め、部分的に段丘層が分布します。土壌は、市街化による影響を広く受けており、調査区域東側に細粒灰色低地土壌などが分布しています。水象は、大阪城の内堀・外堀や神崎川、旧淀川（大川）、寝屋川、城北川などが分布しています。

「河川」は淀川本流及びその河川敷に成立する地形です。土壌は、砂洲未熟土壌が分布しています。

表 4-1-34 地形等の類型区分の構成

地形等の区分	地形	地質	土壌	水象
低地	丘陵地	段丘層	人工改変地(市街地) 細粒灰色低地土壌、 灰色低地土壌など	大阪城の内堀・外堀
	砂礫台地			—
	三角州	沖積層		神崎川、旧淀川（大川）、寝屋川、城北川など
河川			砂洲未熟土壌 (河川沿い等)	淀川 (ワンド、河川敷を含む)

② 植生等の区分について

調査区域の植生等の区分は、植生または土地利用の種類と分布状況により、表 4-1-35 に示す 10 種類に区分しました。なお、植生及び土地利用の名称は、前掲の図 4-1-14 に示す現存植生図の凡例の名称を用いました。

植生等の区分は、大きくは「樹林地」「草地」「公園」「市街地」「開放水域」に分かれますが、その分布状況により、市街地に分布するもの（表中の区分で A を付記）と淀川に分布するもの（表中の区分で B を付記）とに分かれます。

表 4-1-35 植生区分の状況

植生等の区分	植生または土地利用の種類	分布状況
樹林地 A	クスノキ植林、その他植林など	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
草地 A	畑地雑草群落、水田雑草群落、路傍・空き地雑草群落など	門真市や東大阪市などに点在
公園 A	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、ゴルフ場・芝地	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、市街地の中に点在
市街地 A	緑の多い住宅街、市街地、工場地帯、造成地	市街地の大半を占める
開放水域 A	開放水域	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
樹林地 B	ヤナギ高木群落	淀川（ワンド、河川敷を含む）に分布
草地 B	ヨシクラス、オギ群集など	
公園 B	ゴルフ場・芝地	
市街地 B	市街地、造成地	
開放水域 B	開放水域	

③ 当該地域における自然環境類型区分

調査区域における自然環境の類型区分については、地形等の区分と植生等の区分の組み合わせから調査区域における自然環境の類型化を検討し、表 4-1-36 に示すとおり、10 種類の自然環境類型区分を設定しました。また、自然環境類型区分の分布状況は図 4-1-16 に示すとおりです。

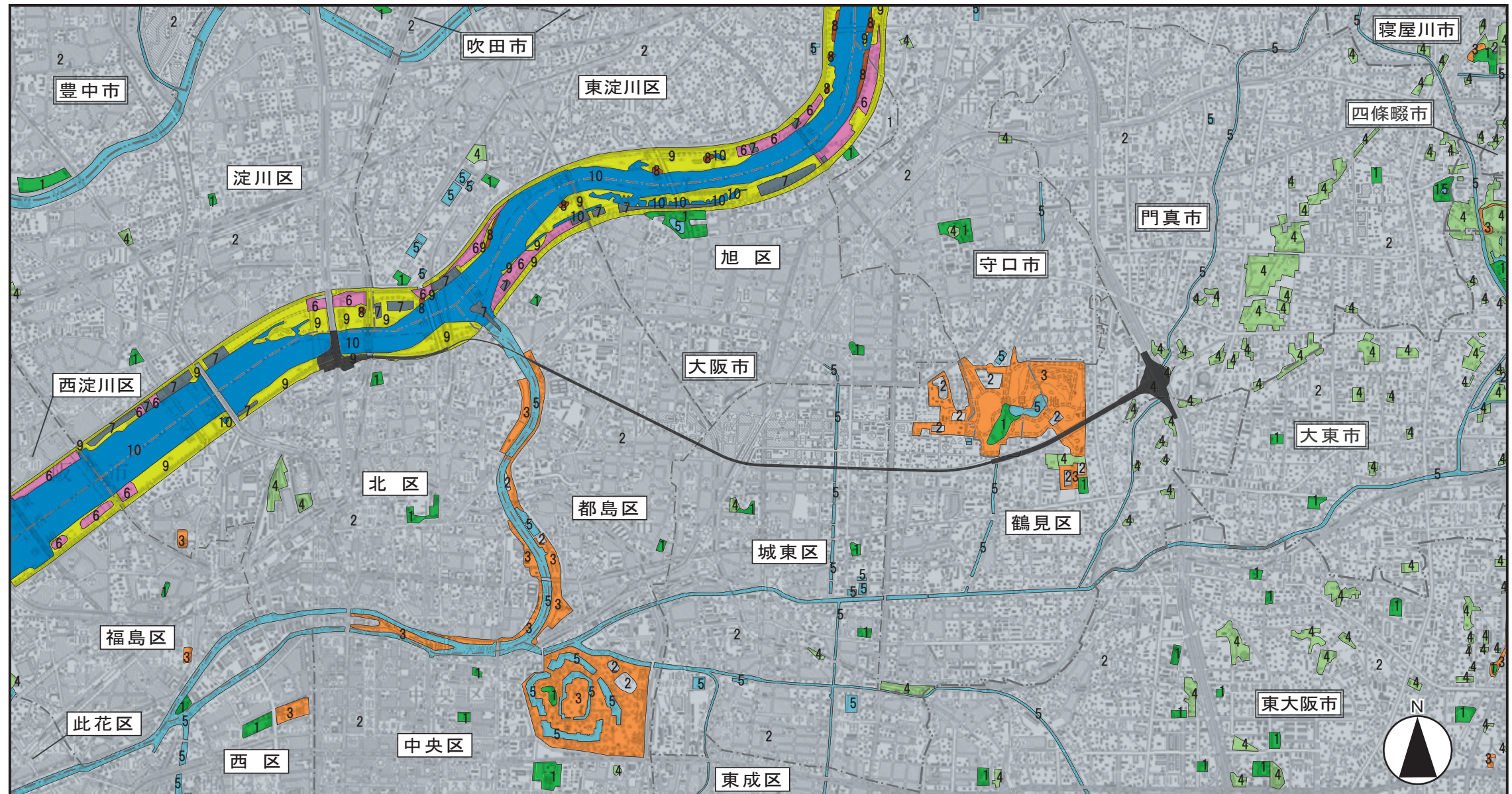
調査区域の低地の大半は「低地：市街地」に類型化され、大阪城公園及び鶴見緑地、旧淀川（大川）の植林地などは、「低地：樹林地」に類型化されます。

また、門真市や東大阪市には、水田・畑地雑草群落を主な基盤環境とした「低地：草地」がパッチ状に分布しています。

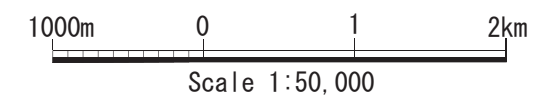
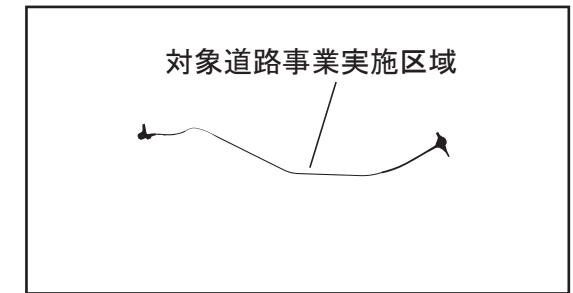
これに対し、淀川には広く「河川：開放水域」が分布し、河川敷にはヨシクラス、オギ群集を主な基盤環境とした「河川：草地」が分布しています。

表 4-1-36 当該地域における自然環境類型区分の考え方

自然環境類型区分		類型区分の属性		主な基盤環境
		地形等の区分	植生等の区分	
1	低地：樹林地	低地	樹林地 A	クスノキ植林、その他植林など
2	低地：草地		草地 A	畑地雑草群落、水田雑草群落、路傍・空き地雑草群落など
3	低地：公園		公園 A	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、ゴルフ場・芝地
4	低地：市街地		市街地 A	緑の多い住宅街、市街地、工場地帯、造成地
5	低地：開放水域		開放水域 A	旧淀川（大川）、城北川、寝屋川、大阪城公園の堀、鶴見緑地の大池など
6	河川：樹林地	河川	樹林地 B	ヤナギ高木群落
7	河川：草地		草地 B	ヨシクラス、オギ群集など
8	河川：公園		公園 B	ゴルフ場・芝地
9	河川：市街地		市街地 B	市街地、造成地
10	河川：開放水域		開放水域 B	淀川（ワンドを含む）



凡 例		
記号	番号	名称
	1	低地：公園
	2	低地：市街地
	3	低地：樹林地
	4	低地：草地
	5	低地：開放水域
	6	河川：公園
	7	河川：市街地
	8	河川：樹林地
	9	河川：草地
	10	河川：開放水域



図名

図4-1-16 自然環境の類型区分図

調査区域に設定した 10 種類の自然環境類型区分について、それぞれの環境の特徴及び分布状況を表 4-1-37 に整理しました。

表 4-1-37 自然環境類型区分の特徴の整理

自然環境類型区分	自然環境類型区分の特徴	分布概況
低地：樹林地	市街地の大規模公園や、河川沿いに植栽された樹林帯が大半を占める。高度に都市化が進んだ市街地内において、数少ないまとまった樹林地となっている。	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
低地：草地	市街地に点在する水田・畑地雑草群落、路傍・空き地雑草群落などからなっている。	門真市や東大阪市などに点在
低地：公園	市街地の大規模公園や街区公園等に存在する芝地、植栽樹をもった公園などからなっている。	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、市街地の中に点在
低地：市街地	調査区域の大半を占め、市街地や工場地帯、造成地などからなっている。	大阪市を中心に調査区域に広く分布
低地：開放水域	市街地の大規模公園や、淀川の放水路が大半を占める。高度に都市化が進んだ市街地内において、数少ないまとまった開放水域となっている。	大阪城公園や鶴見緑地などの公園内、旧淀川（大川）沿いなどに分布
河川：樹林地	淀川の河畔林を形成し、動植物の生息・生育基盤となっている。	淀川（ワンド、河川敷を含む）に分布
河川：草地	淀川の水辺環境を特徴づけるヨシ、オギなどの湿性植物群落と堤防植生からなり、動植物の生息・生育基盤となっている。	
河川：公園	淀川の河川敷のうち、ゴルフ場や芝地（河川公園）として利用されている環境類型である。	
河川：市街地	淀川の河川敷のうち、造成地やグラウンドなどの植生がほとんど見られない環境類型である。	
河川：開放水域	淀川の本川やワンド部からなり、多くの動植物の生息・生育基盤となっている。	

(3) 動植物相の概況

調査区域に生息・生育の記録がある動物・植物をもとに、それらの一般的な生息・生育環境及び生態的特性、自然環境類型区分を構成する生息・生育基盤の種類等を考慮し、自然環境類型区分ごとに生息又は生育する可能性のある代表的な動植物を表 4-1-38 に整理しました。

表 4-1-38 自然環境類型区分ごとの生息・生育可能な動植物種等

自然環境 類型区分	主な基盤環境	主な動植物相	
		動物相	植物相
低地：樹林地	クスノキ植林、 その他植林など	ハヤブサ、ヒトドリ、キジバト、メジロ、ニホンアマ ガエル、アオシジメ等	植栽樹(クスノキ、サクラ類、ムク ナギ等)
低地：草地	畑地雑草群落、水 田雑草群落、路傍 ・空き地雑草群落な ど	コウバエモグラ、ハツカネズミ、ハヤブサ、スズメ、ツ バメ、ムクドリ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、トノサマ ガエル、ヌマガエル、エンマコオロギ、マダラズズ、ナ ナホシテントウ、ヘビシジメ等	スイバ、キシキシ、オランダミミナ グサ、ウシハコバ、イヌビエ、オオク サキビ、シマスズメノヒエ等
低地：公園	残存・植栽樹群をも った公園、墓地等、 ゴルフ場・芝地	ハヤブサ、ヒトドリ、スズメ、ハシブトガラス、シハ ズ、ヤマトシジメ本土亜種等	クスノキ、カタバミ、アキノナゲシ、ア キメシバ等
低地：市街地	緑の多い住宅街、市 街地、工場地帯、 造成地	ハヤブサ、ヒトドリ、スズメ、ハシブトガラス、ツマ グロヒヨウモン等	植栽・園芸品種
低地：開放水域	旧淀川（大川）、城 北川、寝屋川、大 阪城公園の堀、鶴 見緑地の大池など	アオサギ、カルガモ、ヒトリガモ、キンクロハシロ、ハ ヤブサ、セグロセキレイ、シシビリアカミガメ、アオ モンイトトンボ、コイ、ギンフナ、モツゴ、エラミズ 等	ヒシ、オオカナダモ等
河川：樹林地	ヤナギ高木群落	ウグイス、カネタケ、コマダラチョウ等	アカメヤナギ、シヤナギ、ココメ ヤナギ、エノキ、アキニレ、ナンキンハ ゼ等
河川：草地	ヌマガヤオーダー、 ヨシクラス、オギ群 集など	アカネズミ、カヤネズミ、カルガモ、ハヤブサ、チョウ ゲンボウ、ハシ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ニホン カナヘビ、ニホンアマガエル、ヒメイトトンボ、ウスイロ ササギ、クビキリギス、コハネイナゴ等	オギ、ヤナギタテ、ミゾソバ、ヨ シ、セイタカヨシ、マコモ、カマ、ミコシ ガヤ、カヤツリグサ等
河川：公園	ゴルフ場・芝地	ヒバリ、ツグミ等	メリケンカルカヤ、キョウキシバ、メ ヒシバ、エノコログサ、ヘラオオハ コ、オアレチノギク等
河川：市街地	市街地、造成地	スズメ、ムクドリ、ヤマトシジメ等	カタバミ、セイヨウタンポポ等
河川：開放水域	淀川 (ワンドを含む)	アオサギ、コサギ、ヒトリガモ、オオカガモ、ホシハ シロ、キンクロハシロ、クサガメ、コイ、ギンフナ、タ イリクハラタナゴ、モツゴ、ブルーギル、ヒメタニシ、 トブカガイ、スジエビ、ミナミヌマエビ、エラミ ズ、ギンヤンマ、アメンボ等	マツモ、ヒシ、オオカナダモ、エビモ、 ホテイアオイ、ホトウキクサ、アオウキ クサ、ウキクサ等

(4) 地域を特徴づける生態系

表 4-1-36～表 4-1-38 及び図 4-1-16 に示した 10 種類の自然環境類型区分をもとに、事業特性を考慮し、対象道路事業実施区域及びその周囲における地域を特徴づける生態系を設定しました。

その結果、「低地：樹林地」、「低地：草地」、「低地：公園」の 3 種類の類型区分をまとめて「都市緑地の生態系」として、「低地：開放水域」、「河川：樹林地」、「河川：草地」、「河川：公園」、「河川：開放水域」（「河川：市街地」を除く）の 5 種類の類型区分をまとめて「河川・水辺の生態系」として、環境影響評価の対象とする「地域を特徴づける生態系」に設定しました。なお、「低地：市街地」「河川：市街地」については、人工改変が進んでいる地域であることから生態系区分からは除外しました。

地域を特徴づける生態系の区分は表 4-1-39 に示すとおりです。

表 4-1-39 地域を特徴づける生態系の区分

自然環境類型区分	地域を特徴づける生態系
低地：樹林地	都市緑地の生態系
低地：草地	
低地：公園	
低地：開放水域	河川・水辺の生態系
河川：樹林地	
河川：草地	
河川：公園	
河川：開放水域	

(5) 地域を特徴づける生態系の状況

地域を特徴づける生態系において、それぞれの生態系に生息・生育する可能性が考えられる主要な動植物について、既存資料や知見を基に作成した食物連鎖図を図 4-1-17 及び図 4-1-18 に、生態系の分布状況を図 4-1-19 に示しました。

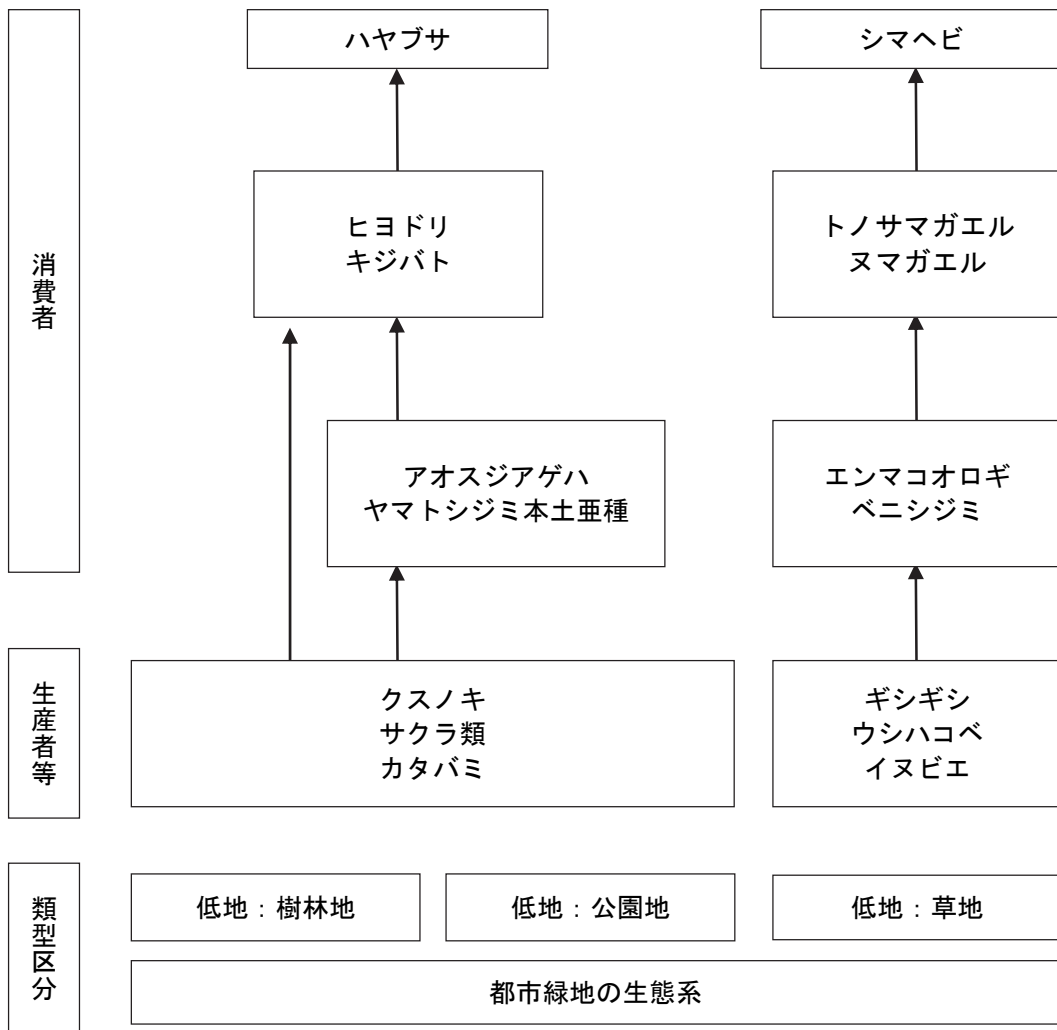


図 4-1-17 想定される食物連鎖模式図（都市緑地の生態系）

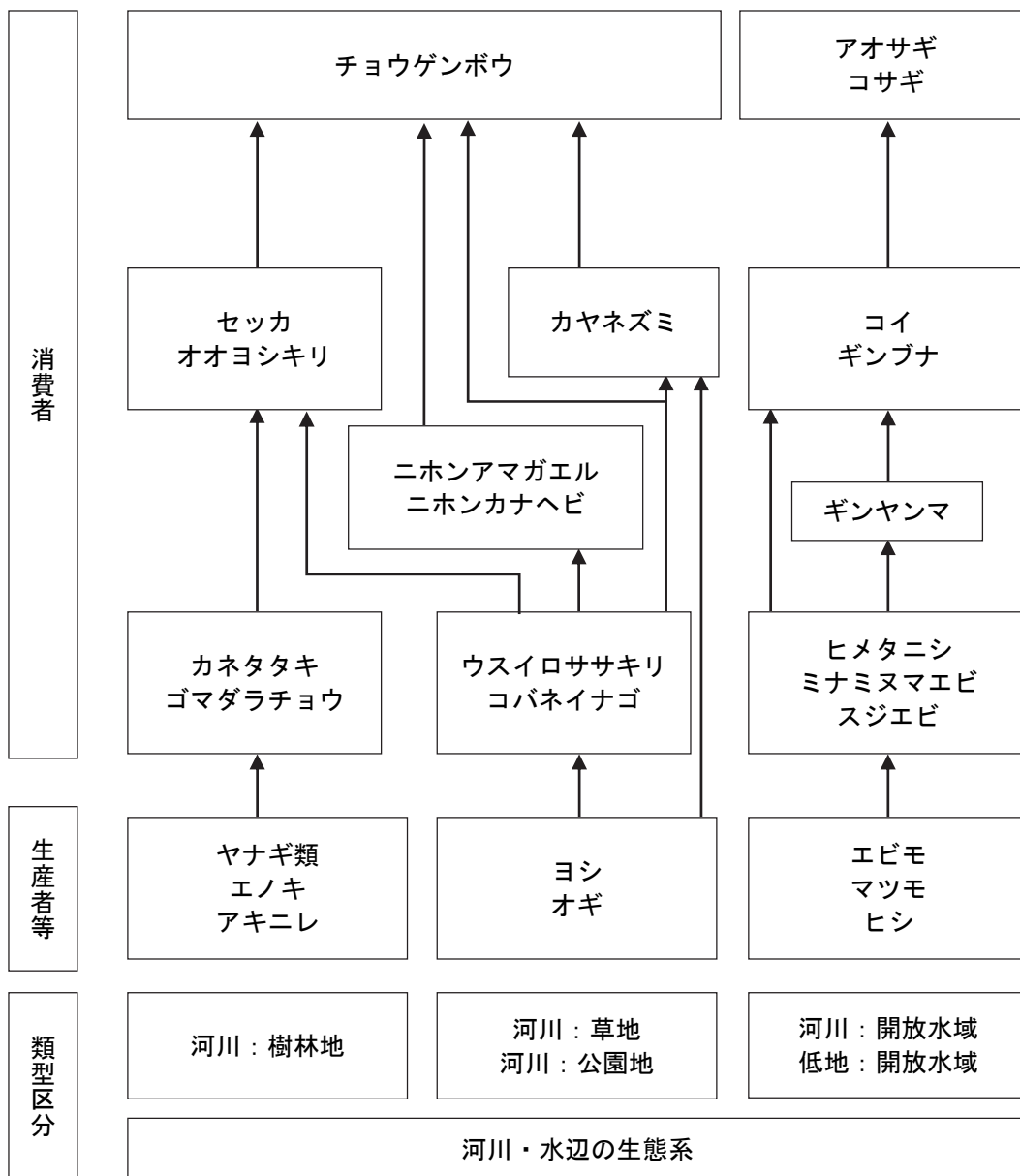
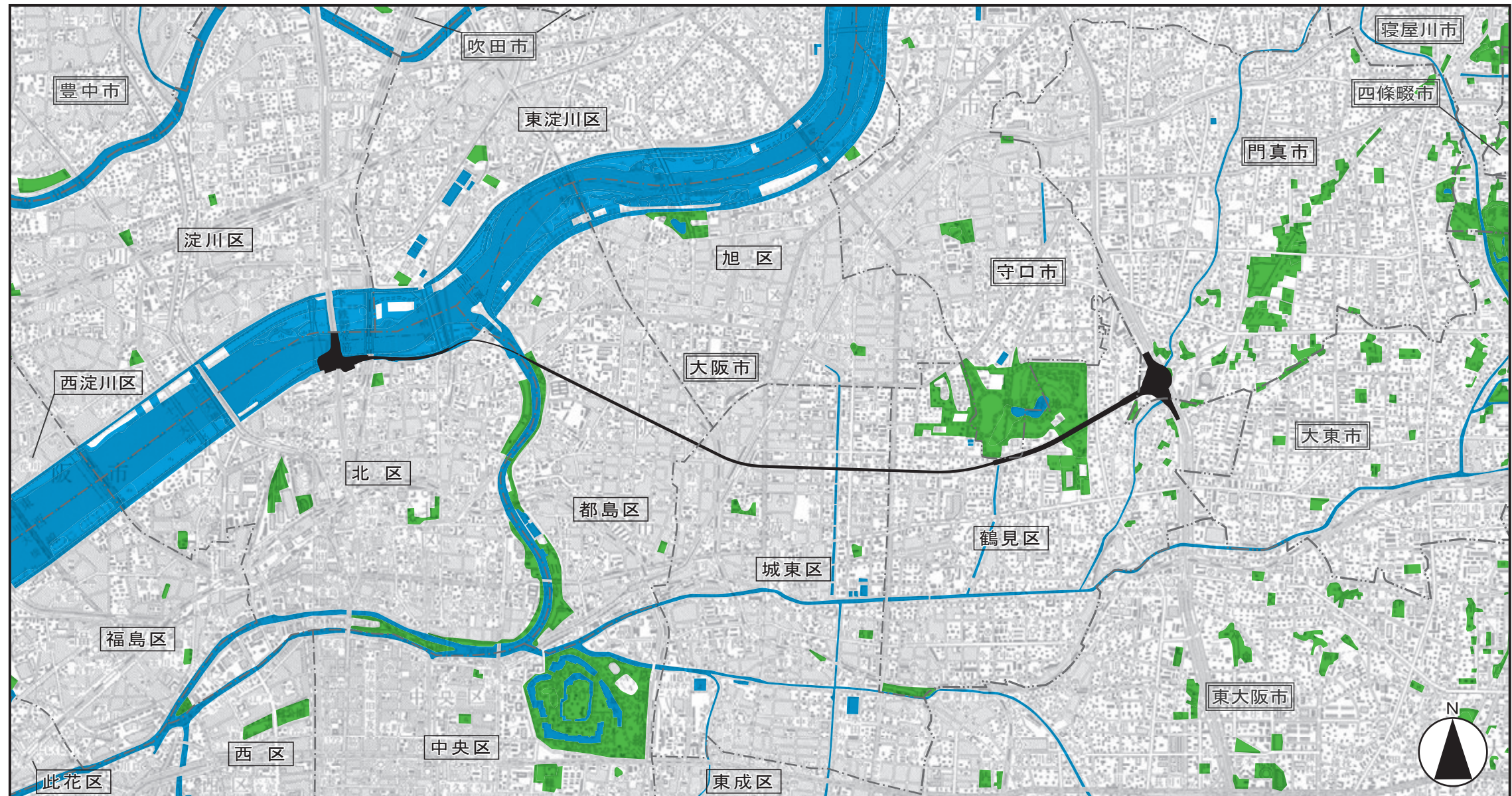


図 4-1-18 想定される食物連鎖模式図（河川・水辺の生態系）



凡 例	
記 号	名 称
	都市緑地の生態系
	河川・水辺の生態系

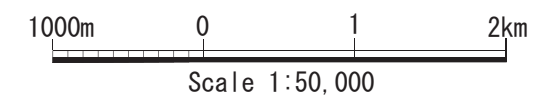
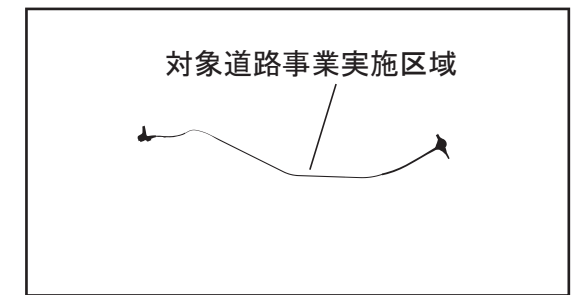


図
名

図4-1-19 生態系の類型区分図

(6) 地域を特徴づける生態系における注目種・群集の整理

「都市緑地の生態系」、「河川・水辺の生態系」の地域を特徴づける生態系において、生息・生育する動植物種及び群集の生態系特性等（「生態的知見が豊富である」「調査により十分な情報が得られる」「当該事業の影響を受けやすい」等）を考慮し、各生態系の指標として表 4-1-40 に示す「上位性」、「典型性」及び「特殊性」の 3 つの視点から、注目される動植物の種または生物群集（以下、「注目種」といいます。）を抽出しました。これらの抽出結果は表 4-1-41 に示しました。

表 4-1-40 地域を特徴づける生態系における 3 つの視点の基本的な考え方

抽出基準	内容
上位性	地域を特徴づける生態系の上位に位置する性質をいう。 上位性の視点から抽出される注目種・群集の例として、ワシ・タカなどの猛禽類や、キツネ、クマ等の中・大型哺乳類の動物等が挙げられる。
典型性	地域を特徴づける生態系の特徴を典型的に表す性質をいう。 対象地域に優占する植物種または植物群落、それらを捕食する動物（一次消費者程度）、個体数が多い動物（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類等）などがあたる。 典型性の視点から抽出される注目種・群集の例として、以下のようなものがある。 ・多くの動植物の生息環境となるスダジイ林、コナラ林、ススキ草原等 ・里山の森林を特徴づけるタヌキ等 ・水田や森林を特徴づけるヤマアカガエルやサンショウウオ類等 ・池沼・湧水やため池などのトンボ類等
特殊性	地域を特徴づける生態系において特殊な環境であることを示す指標となる性質をいう。相対的に分布範囲が狭い環境または質的に特殊な環境に生息・生育する動植物種などがあたる。 特殊性の視点から抽出される注目種・群集の例として以下のようなものがある。 ・湿地植生のサギソウ、モウセンゴケ等 ・溪流沿いの空中湿度の高い着生植物の多い斜面林等 ・小規模な湧水に見られるホトケドジョウ等

出典：道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）（平成25年3月、国総研資料第714号・土木研究所資料第4254号）

表 4-1-41 上位性・典型性・特殊性から抽出した注目種・群集

地域を特徴づける生態系	生態系の視点	注目種・群集	抽出の理由
都市緑地の生態系	上位性	ハヤブサ	河川、湖沼、海岸などに生息し、主に小型から中型の鳥類を捕食します。当該地域では栄養段階の上位に位置します。定点観察法等の調査手法が確立しているため、調査が容易です。
	典型性	バッタ類	様々なタイプの陸域環境に生息しています。当該地域では樹林や草地を指標しています。ピットフォールトラップやスウィーピング等の調査手法が確立しているため、調査が容易です。
		樹林地	対象道路事業実施区域東側の鶴見緑地に見られます。都市においては、公園などの緑地は最も大規模な緑地になり、都市における生物の生息・生育基盤として重要です。
河川・水辺の生態系	上位性	サギ類	河川周辺や大規模緑地内の池等で魚類や甲殻類、カエル類、昆虫類等を捕食する肉食の鳥類です。河川周辺や大規模緑地内の池等においては栄養段階の上位に位置します。定点観察法等の調査手法が確立しているため、調査が容易です。
		チョウゲンボウ	草原、河川敷など開けた場所に生息し、ネズミ類、小型の鳥類、昆虫類等を捕食します。当該地域では栄養段階の上位に位置します。定点観察法等の調査手法が確立しているため、調査が容易です。
	典型性	カヤネズミ	主に休耕田や河川敷などの、背丈の高い草地に生息しています。低地から山地の樹林、果樹園・畑地を繁殖・採食場所として利用します。河川敷などを狩場として利用する猛禽類、イタチ、ヘビ類等の餌となり、当該地域の草地を指標します。ススキやオギ、チガヤなどイネ科の葉を利用し、小さな球形の巣を作ることから、巣の数で当該地域の生息状況の把握が容易にできます。
		フナ属	止水から流水まで様々な環境に生息しています。水辺に生息する鳥類の餌となります。直接採取法等の調査手法が確立しているため、調査が容易です。
		ヨシクラス	池沼、河川等の湿地環境に成立する湿地性植物群落です。河川の魚類、底生動物、カエル類、トンボ類等、多くの水生生物の生息基盤となっていると共に、これらの種を捕食する高次消費者の餌場となっています。

1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

1) 景観の状況

(1) 地域の景観特性

調査区域は大阪平野に位置しており、東は生駒山地が比較的近く、北から西にかけては遠く北摂から六甲の山並みを遠望することができます。また、調査区域内には淀川が流れ、景観にうるおいを与えています。調査区域のほぼ全域は市街化され、西側は都心の高層ビル、淀川や大川の水辺等を構成要素とする都市景観が広がっています。東側は低層・高層住宅、工業用地、鶴見緑地、近畿自動車道、第二京阪道路等を構成要素とする市街地景観が形成されています。

(2) 眺望点の状況

調査区域に存在する眺望点は表 4-1-42(1)～(2)、分布状況は図 4-1-20 に示すとおりです。

調査区域内には、大阪城天守閣等の展望施設、花博記念公園鶴見緑地等の野外レクリエーション地をはじめとする 90 箇所の眺望点があります。

表 4-1-42(1) 調査区域における眺望点

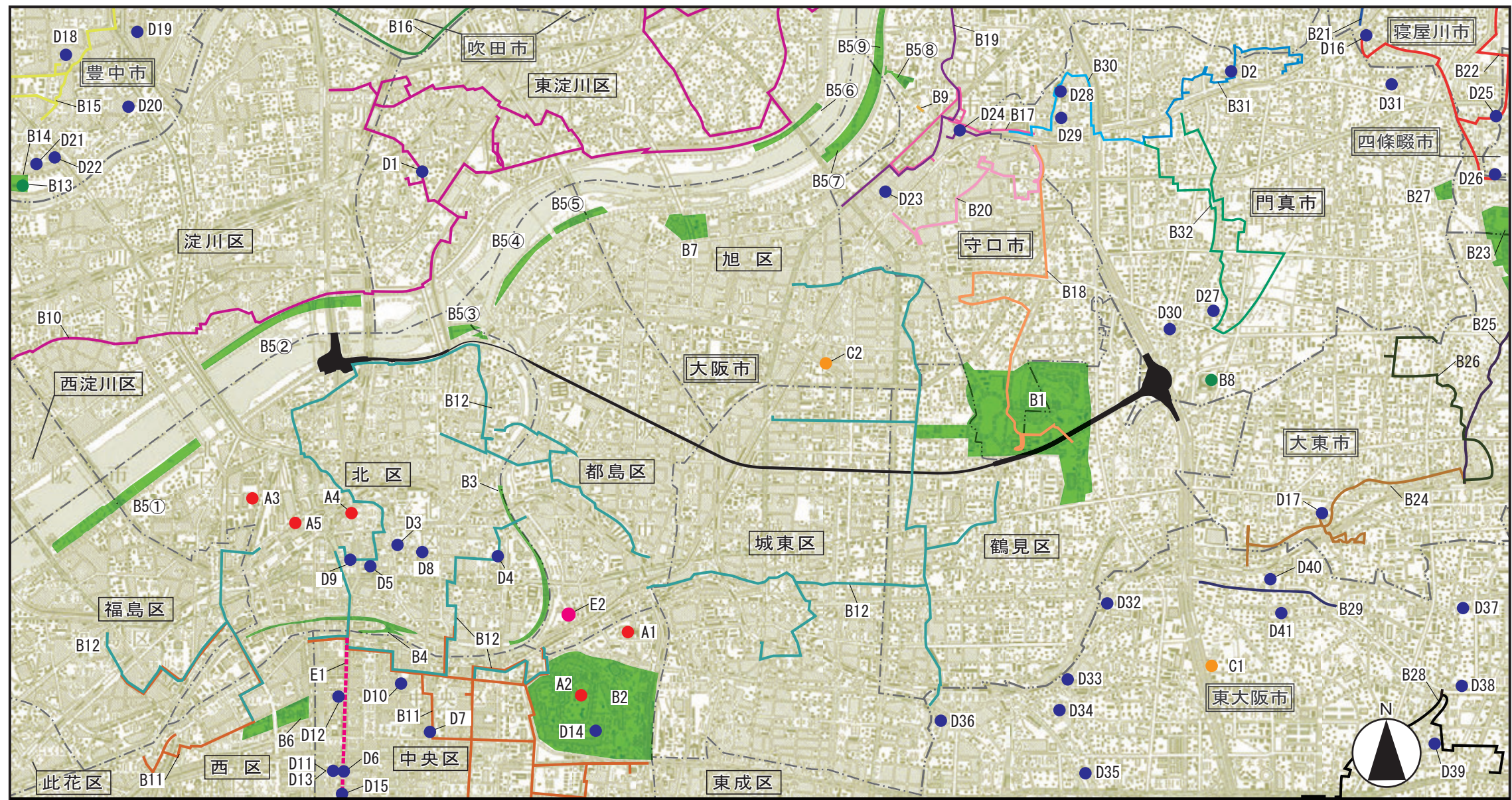
抽出基準	地点番号	名称	出典資料
展望地 展望台 展望施設	A1	OBP (大阪ビジネスパーク)	1, 2, 4
	A2	大阪城天守閣	1, 2, 3, 4
	A3	梅田スカイビル(新梅田シティ)	1, 2, 3
	A4	HEP FIVE 観覧車	2, 3
	A5	大阪ステーションシティ (太陽の広場)	3
野外レク リエーシ ョン地	B1	花博記念公園鶴見緑地	1, 2, 3, 4, 5, 8
	B2	大阪城公園	1, 2, 3, 5, 8
	B3	毛馬桜之宮公園と造幣局の通り抜け	1, 2, 5, 8
	B4	中之島公園	1, 2, 3, 5, 8, 13
	B5	淀川河川公園 ①海老江地区・大淀野草地区, ②西中島地区・十三野草地区, ③長柄地区・長柄河畔地区, ④毛馬地区, ⑤赤川地区, ⑥豊里地区, ⑦太子橋地区, ⑧守口地区, ⑨外島地区	1, 2, 4, 5, 15
	B6	靱公園	1, 2, 5
	B7	城北公園の菖蒲園	1, 2, 4, 5, 8
	B8	大阪府立門真スポーツセンター (なみはやドーム)	1, 2, 5
	B9	桃町緑道	8
	B10	歴史の散歩道-大阪史跡連絡散歩道-淀川・江口コース	9
	B11	歴史の散歩道-大阪史跡連絡散歩道-上町台地北コース	9
	B12	歴史の散歩道-大阪史跡連絡散歩道-中之島・鶴見コース	9
	B13	グリーンスポーツセンター	10
	B14	神崎川公園	10
	B15	とよなか百景ウォッチングコース「ルート7 庄内駅から旧 猪名川方面コース」	10
	B16	ぶらっと吹田「水辺スーパーロングコース」	12
	B17	史跡散策モデルコース「守口市役所周辺の史跡散策コース」	14, 15
	B18	史跡散策モデルコース「西三荘ゆとり道・寺方周辺の史跡 散策コース」	14, 15
	B19	史跡散策モデルコース「八雲周辺の史跡散策コース」	14, 15
	B20	史跡散策モデルコース「土居・高瀬・大枝・橋波周辺コース」	14, 15
	B21	文化と歴史のみち「大楠コース」	16
	B22	文化と歴史のみち「讃良川コース」	16
	B23	深北緑地	2, 5, 16, 17, 18
	B24	歴史散歩歩道大東「歴史散歩コース 2」	18
	B25	歴史散歩歩道大東「歴史散歩コース 5」	18
	B26	歴史散歩歩道大東「歴史散歩コース 7」	18
	B27	弁天池公園	20, 21
	B28	歴史散策マップ C地区: 荒本～吉田	22
	B29	鴻池四季彩々とおおり (遊歩道)	23
	B30	史跡散策モデルコース「大塩平八郎の史跡を訪ねるコース」	21
	B31	史跡散策モデルコース「災害の記憶を訪ねるコース」	21
	B32	史跡散策モデルコース「弊原邸跡・薫蓋クスを訪ねるコース」	21
パーキン グエリア	C1	東大阪PA (下り) (近畿自動車道)	6
	C2	森小路ミニパーキング (阪神高速12号守口線)	7

表 4-1-42(2) 調査区域における眺望点

抽出基準	地点番号	名称	出典資料
寺社等	D1	崇禅寺	1, 2, 4
	D2	願得寺	1, 2, 20, 21
	D3	太融寺	1, 2, 3
	D4	宝珠院	1, 2
	D5	法清寺 (かしく寺)	1, 2
	D6	真宗大谷派 難波別院 (南御堂)	1, 2
	D7	北御堂 (津村別院)	1, 2
	D8	堀川戎神社	1, 2, 4
	D9	露天神社 (お初天神)	1, 2
	D10	少彦名神社 (すくなひこな神社)	1, 2
	D11	陶器神社	1, 2
	D12	御霊神社	1, 2
	D13	坐摩神社 (いかすり神社)	1, 2
	D14	豊國神社	1, 2
	D15	難波神社	1, 2
	D16	萱島神社	1, 2, 17
	D17	諸福天満宮	1, 2, 19
	D18	庄内神社	11
	D19	正業寺	11
	D20	稜威天王社	11
	D21	洲致止八幡宮	11
	D22	最勝寺	11
	D23	守居神社	14, 15
	D24	難宗寺	14, 15
	D25	大念寺	17
	D26	河北大神宮	17
	D27	三島神社	20, 21
	D28	黄梅寺	21
	D29	門真神社	21
	D30	成覚寺	21
	D31	宝蔵寺	21
	D32	徳庵神社	24
	D33	観音禅寺	24
	D34	稲田八幡宮	24
	D35	川俣神社	24
	D36	圓通寺	24
	D37	宇波神社	24
	D38	栗原神社	24
	D39	諏訪神社	24
	D40	朝日社	23
	D41	産土神社	23
名勝	E1	御堂筋銀杏並木	8, 9
	E2	旧藤田邸庭園	9

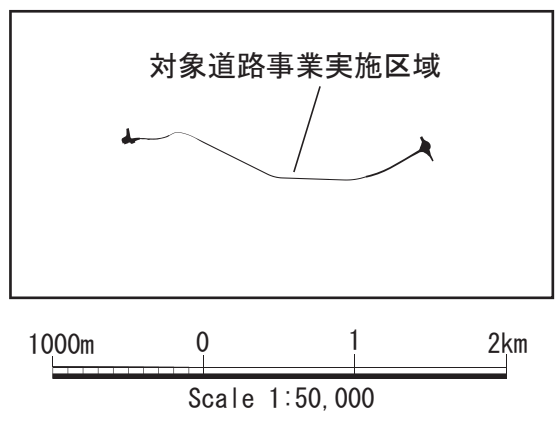
備考) 出典資料

- | | | |
|---------------------------|------------------|-------------------|
| 1, 全国観るなび (日本観光振興協会 HP) | 10, 豊中市ホームページ | 19, 大東市観光パンフレット |
| 2, OSAKA-INFO (大阪観光局 HP) | 11, 豊中市観光パンフレット | 20, 門真市ホームページ |
| 3, 大阪観光ガイドブック | 12, 吹田市ホームページ | 21, 門真市観光パンフレット |
| 4, 大阪観光地図 (大阪市内全域) | 13, 吹田市観光パンフレット | 22, 東大阪市ホームページ |
| 5, みどりの大阪推進計画 | 14, 守口市ホームページ | 23, 東大阪市観光パンフレット |
| 6, NEXCO 西日本の SA・PA 情報サイト | 15, 守口市観光パンフレット | 24, 東大阪観光協会ホームページ |
| 7, 阪神高速道路株式会社ホームページ | 16, 寝屋川市ホームページ | |
| 8, 大阪府ホームページ | 17, 寝屋川市観光パンフレット | |
| 9, 大阪市ホームページ | 18, 大東市ホームページ | |



凡 例					
記号	番号	名称	記号	番号	名称
●	A1~5	展望地、展望台、展望施設	●	C1~2	パーキングエリア
■	B1~7, 14, 23, 27	野外レクリエーション地(公園等)	●	D1~41	寺社等
●	B8, 13	野外レクリエーション地(スポーツセンター)	-----	E1	名勝(御堂筋銀杏並木)
▬	B9~12, 15~22, 24~26, 28~32	野外レクリエーション地(散策路等)	●	E2	名勝(旧藤田邸庭園)

注) 図中の番号は表4-1-42に対応しています。



- 備考) 出典資料
- | | | | |
|------------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 1, 全国観るなび(日本観光振興協会HP) | 7, 阪神高速道路(株)ホームページ | 13, 吹田市観光パンフレット | 19, 大東市観光パンフレット |
| 2, OSAKA-INFO(大阪観光局HP) | 8, 大阪府ホームページ | 14, 守口市ホームページ | 20, 門真市ホームページ |
| 3, 大阪観光ガイドブック | 9, 大阪市ホームページ | 15, 守口市観光パンフレット | 21, 門真市観光パンフレット |
| 4, 大阪観光地図(大阪市内全域) | 10, 豊中市ホームページ | 16, 寝屋川市ホームページ | 22, 東大阪市ホームページ |
| 5, みどりの大阪推進計画 | 11, 豊中市観光パンフレット | 17, 寝屋川市観光パンフレット | 23, 東大阪市観光パンフレット |
| 6, NEXCO西日本のSA・PA情報サイト | 12, 吹田市ホームページ | 18, 大東市ホームページ | 24, 東大阪観光協会ホームページ |

図名 図4-1-20 眺望点位置図

(3) 景観資源の状況

調査区域及びその周囲の景観資源は、表 4-1-43(1)、(2)及び図 4-1-21 に示すとおりです。

調査区域内の景観資源としては、「都市緑地法」(昭和 48 年法律第 72 号)に基づく今米特別緑地保全地区、「都市計画法」(昭和 43 年法律第 100 号)に基づく大川風致地区が存在します。

また、調査区域外には眺望点から眺望される可能性がある金剛生駒紀泉国定公園、瀬戸内海国立公園(六甲地域)などの景観資源が存在します。

表 4-1-43(1) 調査区域及びその周囲の景観資源

地点番号	分類／指定状況	名称	概要	対象道路事業実施区域からの距離(km)	出典資料
1	国立公園	瀬戸内海国立公園(六甲地域)	多くの登山者が訪れる六甲山周辺は瀬戸内海国立公園に指定されています。	18.3	2
2	国定公園	明治の森箕面国定公園	北摂山地に位置し、府営箕面公園とその周辺の森林を合わせた 963ha の地域となっています。	14.0	4
3		金剛生駒紀泉国定公園	金剛山地、生駒山地及び和泉葛城山系から成る国定公園です。	5.8	4
4	都道府県立自然公園	大阪府立北摂自然公園	多様な動植物が生息し、地域住民に親しまれてきた「里山」を保全するために、北摂山地に点在する 10 地区(2,594ha)に指定された自然公園です。	20.8	4
5		猪名川溪谷県立自然公園	北摂山地に位置する面積 9,352ha の自然公園です。北摂群山大野山・愛宕山等の山地を浸食した猪名川は、美しい溪流をなし、公園のほぼ中央部を流れています。	21.6	5
6	特別緑地保全地域	今米特別緑地保全地区	東大阪市今米に「屋敷林」として指定され、自然環境と歴史的環境が一体的に保全されています。	4.6	3,4
7	風致地区	大川風致地区	大川沿いの河川景観、大阪城の歴史的・文化的景観による風致を維持するために指定された総面積 177.7ha の風致地区です。	0.0	7

表 4-1-43(2) 調査区域及びその周囲の景観資源

地点番号	分類／指定状況	名称	概要	対象道路事業実施区域からの距離(km)	出典資料
8	自然景観資源	妙見山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は660mです。	23.3	1,4
9		天王山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は270mです。	22.1	1,6
10		ポンポン山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は679mです。	24.2	1,4
11		明田尾山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は620mです。	20.0	1,4
12		石堂ヶ丘	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は681mです。	19.6	1,4
13		五月山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は315mです。	14.6	1,4
14		竜王山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は510mです。	20.8	1,4
15		交野山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は341mです。	13.8	1,4
16		飯盛山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は314mです。	5.2	1,4
17		生駒山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は642mです。	9.2	1,4
18		高安山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は487mです。	12.5	1,4
19	甲山	「第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書」(環境庁)で自然景観資源に選定されています。標高は309mです。	16.3	1,4	

備考) 出典資料

- 1, 第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書
- 2, 環境省ホームページ
- 3, 国土交通省ホームページ
- 4, 大阪府ホームページ
- 5, 兵庫県ホームページ
- 6, 京都府ホームページ
- 7, 大阪市ホームページ

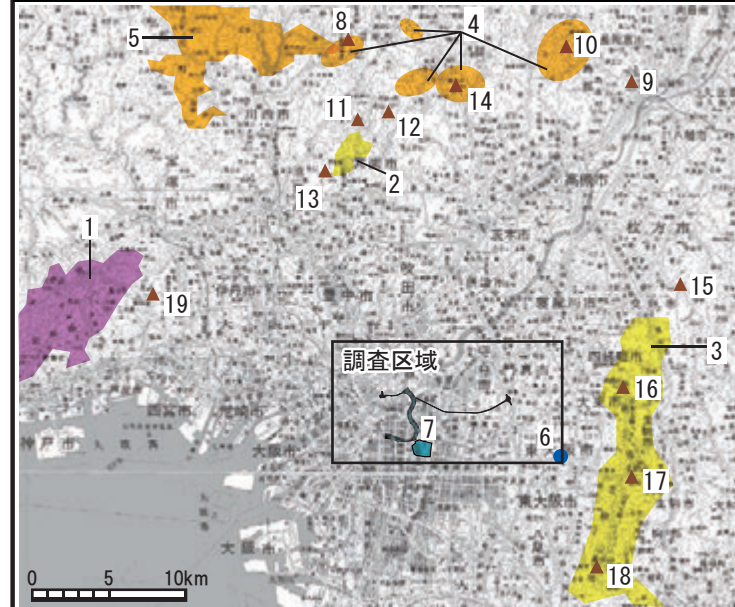
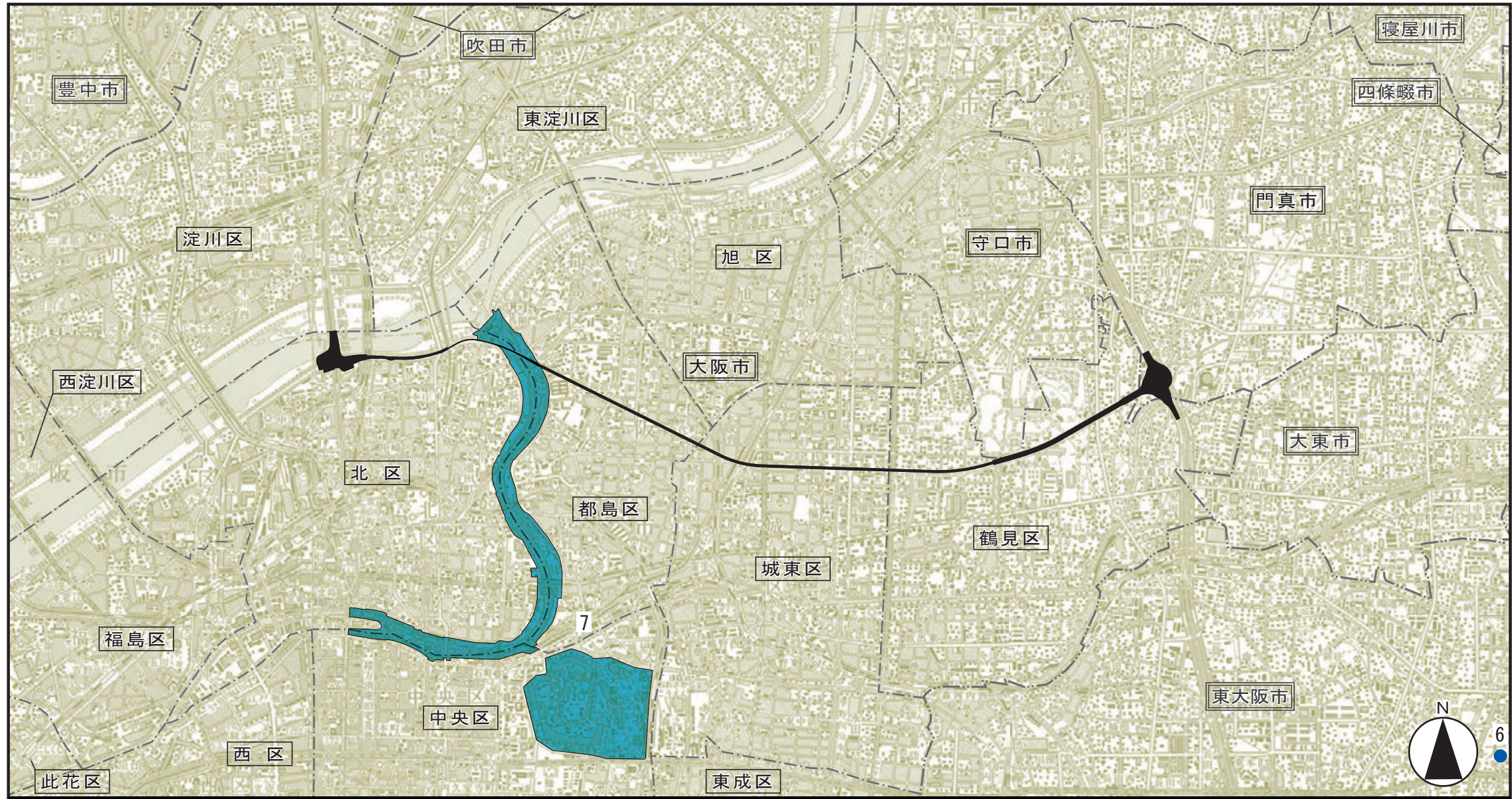
2) 人と自然との触れ合いの活動の状況

調査区域の人と自然との触れ合いの活動の場の状況は、表 4-1-44(1)～(4)及び図 4-1-22 に示すとおりです。

対象道路事業実施区域及びその周囲には淀川河川公園、花博記念公園鶴見緑地、歴史の散歩道（大阪市史跡連絡遊歩道）など 39 箇所の人と自然との触れ合いの活動の場があります。

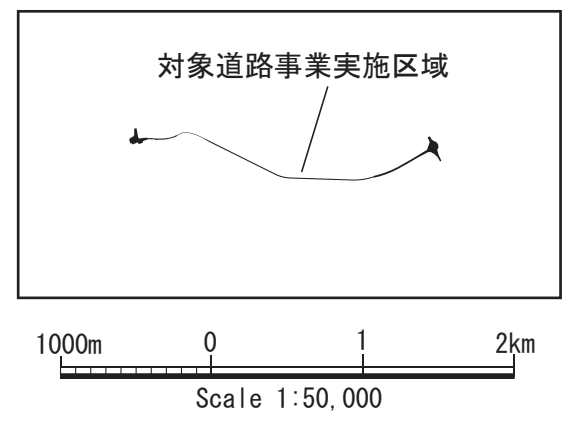
表 4-1-44(1) 人と自然との触れ合いの活動の場

地点番号	名称	活動の内容	概要	出典資料
1	花博記念公園鶴見緑地	バードウォッチング 散策 等	大阪市と守口市にまたがる、大阪を代表する公園です。広大な敷地内では、花と緑がおりなす豊かな自然を満喫できます。また、気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができます。	1, 2, 3, 4, 5, 6
2	大阪城公園	散策 ウメ、サクラ等の 観賞	大阪の中央に位置する、総面積 105.6ha の広大な公園です。緑あふれる市民の森、西の丸庭園や梅林が四季の装いを見せ、太陽の広場などではスポーツやレクリエーションを楽しむことができます。	1, 2, 3, 5, 6
3	毛馬桜之宮公園と造幣局の通り抜け	散策 サクラの観賞	毛馬桜之宮公園は、大川の毛馬洗堰から下流の天満橋まで、延長 4.2km のリバーサイドパークです。桜の開花時には、造幣局構内旧淀川沿いの全長 560m の通路を開放しています。	1, 2, 5, 6
4	中之島公園	散策 バラの観賞	堂島川と土佐堀川にはさまれた延長約 1.5km、面積 10.6ha の緑あふれる都心のオアシスです。淀屋橋から肥後橋まで延長 400m の中之島緑道は、ケヤキ、ツバキ、ツツジなどの緑とともに、彫刻が設置され、心やすらぐ遊歩道となっています。	1, 2, 3, 5, 6
5	淀川河川公園 ①海老江地区・大淀野草地区、②西中島地区・十三野草地区、③長柄地区・長柄河畔地区、④毛馬地区、⑤赤川地区、⑥豊里地区、⑦太子橋地区、⑧守口地区、⑨外島地区	散策 サイクリング 等	自然観察やアウトドア活動など、多様なレクリエーションに利用されている国営公園です。淀川河川公園周遊コースが存在し、ウォーキングに利用されています。	1, 2, 5, 11
6	靱公園	散策 バラの観賞	総面積約 9.7ha、東西約 800m、南北約 150m の細長い形をしています。バラの観賞やケヤキ並木があり、ビジネス街の憩いの場、スポーツの場として幅広く利用されています。	1, 2, 5



凡 例		記 号	名 称
1		1	国立公園
2, 3		2, 3	国定公園
4, 5		4, 5	都道府県立自然公園
6		6	特別緑地保全地区
7		7	風致地区
8~19		8~19	自然景観資源

備考) 出典資料
 1, 第3回自然環境保全基礎調査 自然景観資源調査報告書
 2, 環境省ホームページ / 3, 国土交通省ホームページ
 4, 大阪府ホームページ / 5, 兵庫県ホームページ
 6, 京都府ホームページ / 7, 大阪市ホームページ



図名 図4-1-21 景観資源等位置図

表 4-1-44(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

地点 番号	名称	活動の内容	概要	出典 資料
7	城北公園の菖蒲園	散策 菖蒲の観賞	旧淀川の河川敷を利用して造られた、大きな池と花菖蒲園のある約 9.5ha の公園です。大池をめぐる桜並木の散策路や花菖蒲をイメージした噴水、芝生の広場や遊具の丘などが設けられています。	1, 2, 4, 5, 6
8	神崎川公園	キャンプ場	庄内温水プールや芝生広場、キャンプサイトがあります。	8
9	深北緑地	散策 サクラの観賞	公園内には桜の園や芝生広場があり、レクリエーションやスポーツが楽しめる緑地公園です。	2, 5, 12, 13, 14
10	弁天池公園	自然観察 森林浴	門真市の東部に位置し、芝生広場・森林浴の森・弁天池等が存在します。	15, 16
11	グリーンスポーツセンター	キャンプ場	神崎川沿いに位置するこのスポーツセンターは、芝生広場、キャンプサイトなどのアウトドア施設も充実しています。	8
12	桃町緑道	散策	守口市の中心部を貫くこの緑道は桜のトンネルとして多くの市民に親しまれ、貴重な緑空間を形成しています。	6
13	歴史の散歩道-大阪史 跡連絡散歩道- 淀川・江口コース	散策	淀川と深いかかわりをもった歴史を秘める地域を廻るコースです。淀川堤防からの眺望、また緑あふれる大野川歩行者自転車専用道路を散策することが可能です。	7
14	歴史の散歩道-大阪史 跡連絡散歩道- 上町台地北コース	散策	市の中央を南北に背骨のように突き出た上町台地の北部を中心に、そこから東西にひろがる地域を廻るコースです。多くの寺々が、歴史を秘めて、木々の緑にかこまれた憩いの場となっています。	7
15	歴史の散歩道-大阪史 跡連絡散歩道- 中之島・鶴見コース	散策	中之島を核に港方面から鶴見緑地、そして大阪駅以北淀川までの広い範囲を廻るコースです。中之島では川沿いに遊歩道と公園がひらけています。	7
16	とよなか百景ウォッチングコース「ルート7 庄内駅から旧猪名川方面コース」	散策	庄内駅から庄内中央緑道を通り、庄内神社や椋橋総社を廻るコースです。	8
17	ぶらっと吹田「水辺スーパールンニングコース」	散策	水鳥舞う水辺から高川・神崎川・安威川・正雀川、そして糸田川を廻るコースです。	9

表 4-1-44(3) 人と自然との触れ合いの活動の場

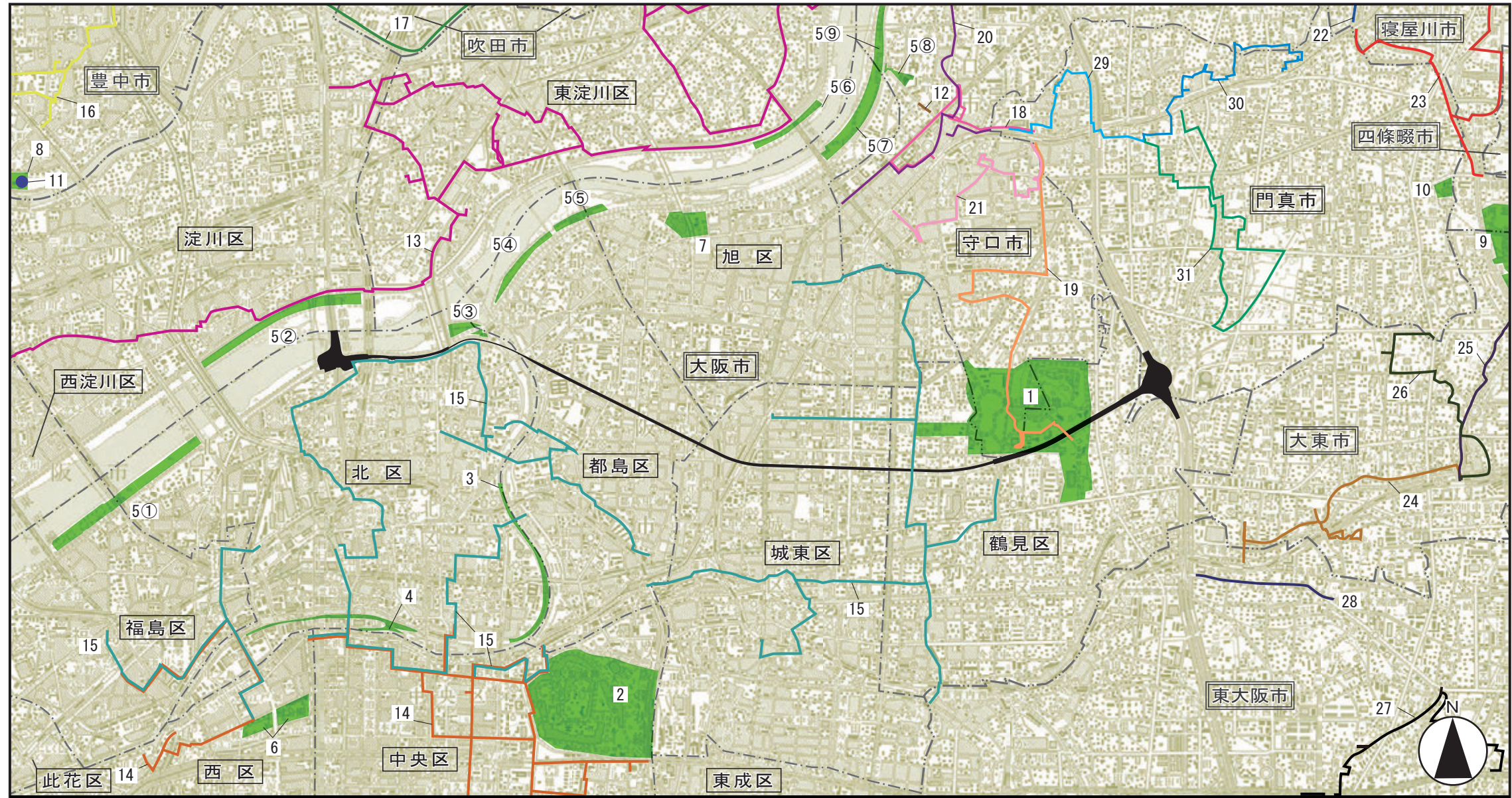
地点番号	名称	活動の内容	概要	出典資料
18	史跡散策モデルコース 「守口市役所周辺の史跡散策コース」	散策	守口市駅から盛泉寺・難宗寺、そして西三荘駅を廻るコースです。	10, 11
19	史跡散策モデルコース 「西三荘ゆとり道・寺方周辺の史跡散策コース」	散策	西三荘駅から遊び心と花・緑、自然いっぱいの遊歩道の西三荘ゆとり道、そして鶴見緑地から鶴見緑地駅を散策するコースです。	10, 11
20	史跡散策モデルコース 「八雲周辺の史跡散策コース」	散策	大日駅から八雲神社・下島公園「花図かん」、そして守口駅を廻るコースです。	10, 11
21	史跡散策モデルコース 「土居・高瀬・大枝・橋波周辺のコース」	散策	西三荘駅から尼乃神社、唯称寺、式内高瀬神社、常称寺、そして土居駅を廻るコースです。	10, 11
22	文化と歴史のみち 「大楠コース」	散策	八坂神社の大クスの森、神田天満宮の千年クス、萱島神社の大クスなど、巨樹との感動的な出会いが味わえるコースです。	12
23	文化と歴史のみち 「讃良川コース」	散策	東寝屋川駅から讃良川に沿って、遺跡・古墳・南寝屋川公園を散策するコースです。	12
24	歴史散歩歩道大東 「歴史散歩コース 2」	散策	鴻池新田駅から諸福天満宮・大神社、そして住道駅を廻るコースです。	14
25	歴史散歩歩道大東 「歴史散歩コース 5」	散策	住道駅から菅原神社・本妙寺を廻るコースです。	14
26	歴史散歩歩道大東 「歴史散歩コース 7」	散策	住道駅から北野神社・本妙寺を廻るコースです。	14
27	歴史散策マップ C 地区：荒本～吉田	散策	荒本駅から六郷神社・観賞緑地公園を廻るコースです。	17
28	鴻池四季彩々とおおり (遊歩道)	散策	鴻池水路のうち、八尾枚方線から中央環状線東までの約 3km の遊歩道です。	18
29	史跡散策モデルコース 「大塩平八郎の史跡を訪ねるコース」	散策	松下幸之助歴史館から門真市立歴史資料館までの約 2.5km のコースです。	16

表 4-1-44(4) 人と自然との触れ合いの活動の場

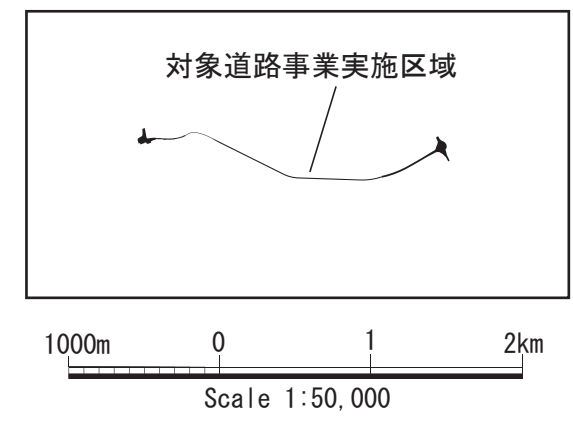
地点 番号	名称	活動の内容	概要	出典 資料
30	史跡散策モデルコース 「災害の記憶を訪ねる コース」	散策	大和田駅から門真市立歴史資料館まで の約 3.5km のコースです。	16
31	史跡散策モデルコース 「幣原邸跡・薫蓋クス を訪ねるコース」	散策	古川橋駅から薫蓋クス、幣原兄弟顕彰 碑、そして門真市立歴史資料館までの約 6.0km のコースです。	16

備考) 出典資料

- | | | |
|--------------------------|-----------------|------------------|
| 1, 全国観るなび (日本観光振興協会 HP) | 7, 大阪市ホームページ | 13, 寝屋川市観光パンフレット |
| 2, OSAKA-INFO (大阪観光局 HP) | 8, 豊中市ホームページ | 14, 大東市ホームページ |
| 3, 大阪観光ガイドブック | 9, 吹田市ホームページ | 15, 門真市ホームページ |
| 4, 大阪観光地図 (大阪市内全域) | 10, 守口市ホームページ | 16, 門真市観光パンフレット |
| 5, みどりの大阪推進計画 | 11, 守口市観光パンフレット | 17, 東大阪市ホームページ |
| 6, 大阪府ホームページ | 12, 寝屋川市ホームページ | 18, 東大阪市観光パンフレット |



凡 例					
記号	名称	記号	名称	記号	名称
1~10	公園	19	史跡散策モデルコース「西三荘ゆとり道・寺方周辺の史跡散策コース」	28	鴻池四季彩々とおり(遊歩道)
11	グリーンスポーツセンター(キャンプ場)	20	史跡散策モデルコース「八雲周辺の史跡散策コース」	29	史跡散策モデルコース「大塩平八郎の史跡を訪ねるコース」
12	桃町緑道	21	史跡散策モデルコース「土居・高瀬・大枝・橋波周辺コース」	30	史跡散策モデルコース「災害の記憶を訪ねるコース」
13	歴史の散歩道-大阪市史跡連絡遊歩道-淀川・江口コース	22	文化と歴史のみち「大楠コース」	31	史跡散策モデルコース「弊原邸跡・薫蓋クスを訪ねるコース」
14	歴史の散歩道-大阪市史跡連絡遊歩道-上町台地北コース	23	文化と歴史のみち「讃良川コース」	備考) 出典資料 1, 全国観るなび(日本観光振興協会HP) 2, OSAKA-INFO(大阪観光局HP) 3, 大阪観光ガイドブック 4, 大阪観光地図(大阪市内全域) 5, みどりの大阪推進計画 6, 大阪府ホームページ 7~9, 10, 12, 14, 15, 17各市ホームページ 11, 13, 16, 18各市観光パンフレット	
15	歴史の散歩道-大阪市史跡連絡遊歩道-中之島・鶴見コース	24	歴史散歩歩道大東「歴史散歩コース2」		
16	とよなか百景ウォッチングコース(ルート7)	25	歴史散歩歩道大東「歴史散歩コース5」		
17	ぶらっと吹田「水辺スーパーロングコース」	26	歴史散歩歩道大東「歴史散歩コース7」		
18	史跡散策モデルコース「守口市役所周辺の史跡散策コース」	27	歴史散策マップC地区: 荒本~吉田		



図名 図4-1-22 人と自然との触れ合いの活動の場

1.7 一般環境中の放射性物質の状況

調査区域における一般環境中の放射性物質の状況は表 4-1-45 に示すとおりです。

表 4-1-45 放射性物質の状況（平成 24 年度年間平均値）

項目	調査地点			
		大阪市東成区	大阪市中央区	守口市
大気浮遊じん中	Sr-90	検出されず	—	—
	Cs-137	検出されず	—	—
雨水・ちり中	Sr-90	0.044 MBq/km ² ・月	—	—
土壌（0～5cm）中	Sr-90	—	0.27 Bq/kg	—
	Cs-137	—	1.3 Bq/kg	—
土壌（5～20cm）中	Sr-90	—	0.52 Bq/kg	—
	Cs-137	—	3.0 Bq/kg	—
水道水など	Sr-90	1.3 mBq/L	—	1.4 mBq/L

注）Sr-90：ストロンチウム-90、Cs-137：セシウム-137を示します。

出典：日本の環境放射能と放射線（公益財団法人日本分析センターHP）